



Benesse お茶の水ゼミナール
海外大併願コース



海外・国内トップ大進学情報誌

Route Book 2022



「世界中から進路を選ぶ」をスタンダードに。

日本の高校から12年連続でハーバード大・イェール大へ合格者を輩出する日本で唯一の進学塾「Route H」グループが

『出願対策』×『英語テスト対策』で日本の中高生のグローバル進路実現をサポートします。

「世界中から進路を選ぶ」をスタンダードに。

高校卒業後に日本国内の大学に加え、海外の大学を当たり前を目指す時代になりました。

「世界中から進路を選ぶ」という姿勢が広がる一方で、合格へのノウハウが一般化されるには至っていません。

そのノウハウは、毎年多くの海外トップ大学・国内グローバル系大学へ合格者を輩出している「Route H」グループへ蓄積されています。その確かさは、ハーバード・イェール12年連続合格者輩出という日本で唯一の実績が証明しています。グローバルな進路に挑む際の道標としてこの冊子をぜひお役立てください。

進学先もグローバルな視点から選ぶ時代。

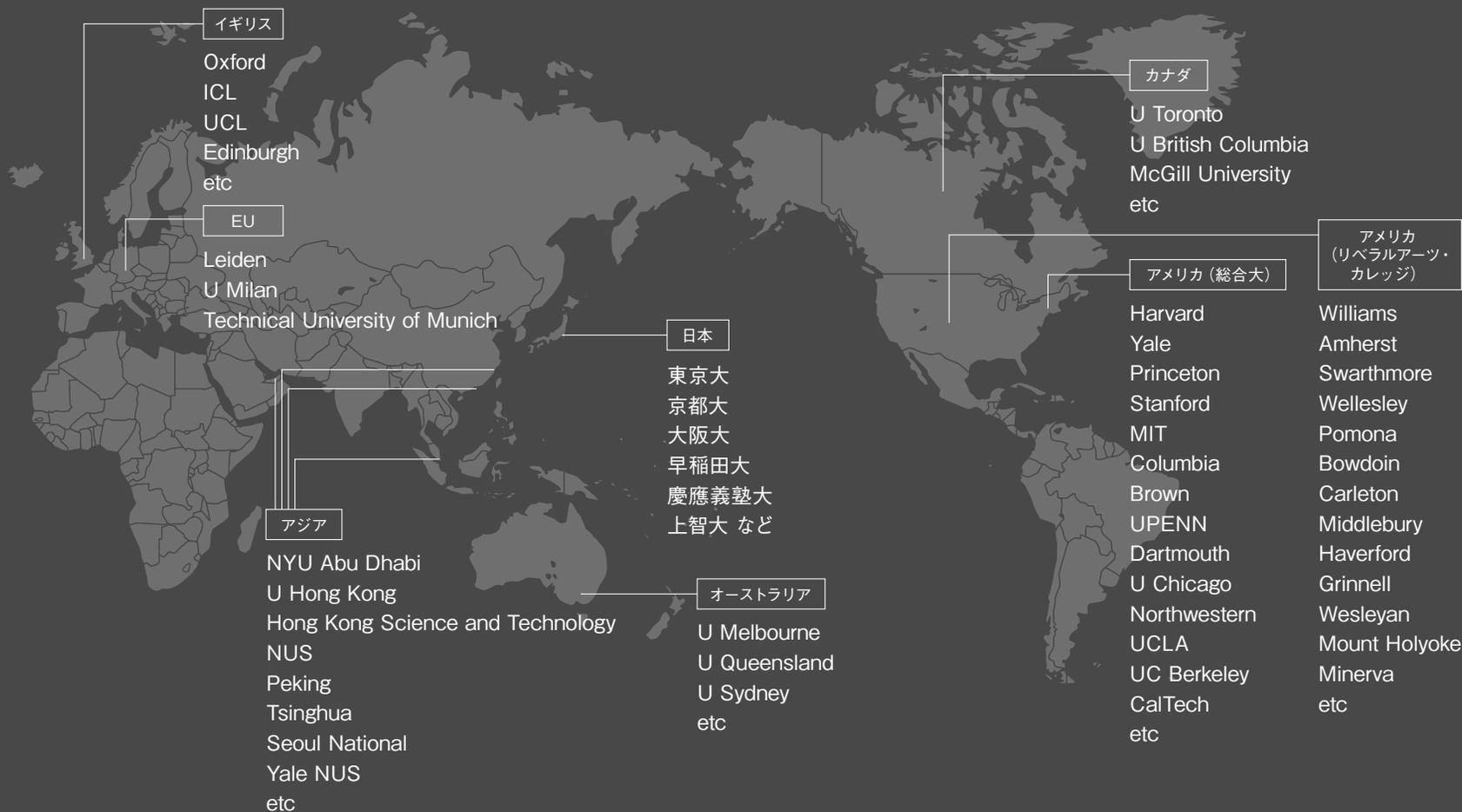
あなたの未来を拓く挑戦を「Route H」グループが応援します。

「Route H」グループ講師一同



日本国内のトップ大のみならず世界のトップ大に広がる進学先

「世界中から進路を選ぶをスタンダードに」を体現する卒業生たち。その進路はアイビリーグやリベラルアーツカレッジなど米国の名門大学をはじめ、イギリス、カナダ、オーストラリア、日本など世界各地へと広がっています。



Elite Research Universities

世界の名門大学

世界を代表する名門大学の多くは世界ランキングでも常に上位に名を連ね、入学志願者数は年々増える傾向にある。国籍を問わずに優秀な頭脳を選りすぐり学内の活性化に努める開かれた姿勢が世界中の高校生を惹きつけているからだ。合格率はいずれも低く超難関。その難度もますます高まりつつあるが、必要な対策を行えば日本からの進学も決して夢ではない。

Harvard University ハーバード大学

世界のトップを独走する私学の雄である。全米最古の大学で世界ランクで常に最上位にランクされる私立大学。留学生の入学基準は国内学生と同じ。Ivy Leagueに所属。



Yale University イェール大学

ハーバード、プリンストンと並ぶ不動産の名門私立大学。全米で3番目に古い大学である。学生の出身国は70か国以上。Ivy League、IARUIに所属。



University of Princeton プリンストン大学

教育・研究の両立で名高い難関校。世界ランク上位の常連校。少数精鋭主義で知られ、ノーベル賞受賞者を多数算出。



University of Stanford スタンフォード大学

産業界を牽引する西海岸の最高峰。全米BIG 4の一角をなす名門。理系・文系を問わず世界的な名声を誇る。



所在地	MA USA	CT USA	NJ USA	CA USA
設立	1636年	1701年	1746年	1891年
公立/私立	Private	Private	Private	Private
留学生比率	26%	20%	23%	23%
合格率	4.63%	6.08%	—	4.34%
早期出願	Early Action (Restrictive)	Early Action (Restrictive)	—	Early Action (Restrictive)
英語スコア目安	SAT 1460-1600 / ACT 32-36 TOEFL 提出可	SAT 1420-1600 / ACT 32-36 TOEFL 100	SAT 1440-1570 / ACT32-35 TOEFL必須	SAT 1420-1570 / ACT32-35 TOEFL推奨

※留学生比率の出典は、World University Rankings

※合格率、早期出願の出典は、College Board

University of Columbia
コロンビア大学

世界の頭脳が集まる都市型キャンパス。150か国から留学生が学ぶ。出身・所属のノーベル賞受賞者は過去70人以上を誇る。



The University of Pennsylvania
ペンシルバニア大学

文教都市に建つ国際色豊かな名門。世界的に知られる世界最古の医学部を持ち、ウォートンビジネススクールも有名。



University of Brown
ブラウン大学

教育力に定評ある東海岸の優良校。大学院進学率が郡を抜いて高く、すべての教員が学部課程と大学院の指導を兼任する。



Massachusetts Institute of Technology
マサチューセッツ工科大学

世界に冠たる理工系エリート校。自然科学と工学系で名実ともに世界のトップ。ハーバード大学との単位互換制度あり。



University of Oxford
オックスフォード大学

世界ランキング3年連続1位。11世紀末に設立された英語圏最古の大学である。イギリス伝統のカレッジ制を導入している公立大学。Russell Groupに所属。



University of Cambridge
ケンブリッジ大学

世界屈指の名門公立大学の一つ。英語圏では、2番目に古い大学である。オックスフォードと同じく、イギリス伝統のカレッジ制を導入している。Russell Groupに所属。



NY USA

PA USA

RI USA

MA USA

Oxford UK

Cambridge UK

1754年

1740年

1764年

1861年

1096年

1209年

Private

Private

Private

Private

Public

Public

37%

21%

20%

34%

41%

38%

5.27%

7.66%

4.29%

6.69%

—

—

Early Decision

Early Decision

Early Decision

Early Action (Not-restrictive)

—

—

SAT 1450-1560 / ACT33-35
TOEFL100

SAT 1440-1560 / ACT32-35
TOEFL100

SAT 1420-1550 / ACT32-35
TOEFL100

SAT 1500-1570 / ACT34-36
TOEFL90 (推奨は100)

SAT 1470-1600 / ACT32-36
TOEFL100-110

SAT 1470-1600/ACT32-36
TOEFL100-110

※留学生比率の出典は、World University Rankings
※数値は目安です。詳細は必ず大学のオフィシャルページでご確認ください。

Times Higher Education World University Rankings 2022

世界大学ランキング

世界には、2万を超える大学が存在する。名門校の多くは世界でもトップに位置している。タイムズ社の世界大学ランキングを見れば英語圏の大学の評価がいかに高いかがわかる。その圧倒的な強さを支えているのは優れた教育研究レベルはもとよりそれを可能にする強大な資金力と活力を生み出すフレキシブルな制度、そして世界中から集まる有能な学生たちだ。

順位	大学名	国名
1	University of Oxford	イギリス
2	California Institute of Technology	アメリカ
2	Harvard University	アメリカ
4	Stanford University	アメリカ
5	University of Cambridge	イギリス
5	Massachusetts Institute of Technology	アメリカ
7	Princeton University	アメリカ
8	University of California, Berkeley	アメリカ
9	Yale University	アメリカ
10	The University of Chicago	アメリカ
11	Columbia University	アメリカ
12	Imperial College London	イギリス
13	Johns Hopkins University	アメリカ
13	University of Pennsylvania	アメリカ
15	ETH Zurich	スイス
16	Peking University	中国
16	Tsinghua University	中国
18	University of Toronto	カナダ
18	UCL	イギリス
20	University of California, Los Angeles	アメリカ
21	National University of Singapore	シンガポール
22	Cornell University	アメリカ
23	Duke University	アメリカ
24	University of Michigan-Ann Arbor	アメリカ
24	Northwestern University	アメリカ

なぜ今、日本の中高生は海外トップ大を目指すのか？

世界中から集まる学友とともにディスカッションなど、アウトプットの多い授業を受けることによって身につく知識・スキル、寮生活を通じて培われる人間力や世界に広がる仲間のネットワークに魅力を感じる中高生は多い。また、文理にまたがり副専攻やダブル専攻をすることも可能なため、自分の興味のある分野を追求できることも魅力となっている。

海外トップ大の魅力

ダイバーシティが生む活力

文化や世代の違いを超えて世界中から集まる学生の多様性 (diversity) が、大学に活力をもたらしている。入学審査で活動実績が重視されるのもそのため。多才な友人たちと切磋琢磨し、世界中にネットワークが広がることで、さらに「大学力」が高まることになる。

多様でフレキシブルな教育力

アメリカの大学では、1、2年次の教養課程で幅広く学んでから専攻を絞るため、カリキュラムは柔軟性に富む。他の国の多くは、選考を決め入学をし1年時から研究ができる大学が多い。世界の大学では、副専攻やダブル専攻で同時に2つの分野を学んだり、海外留学や他大学での聴講、単位互換なども盛んである。

学費援助を支える資金力

世界の大学の多くでは、優秀な学生を多く集めるため奨学金 [Scholarship] を留学生に用意している。授業料の一部を補助してくれる大学や生活費までカバーしてくれる大学など多岐にわたる。出願時には、「Scholarship」にぜひ挑戦してほしい。

理系・文系を問わず自らの学びたい分野を追求できる副専攻・ダブル専攻の一例

Computer Science

Philosophy

Chemistry

History of Arts

Statistics

Economics

豊富な選択肢とリソース

学業面のプログラムの豊富さに加え、課外活動やフィールドワークなどの選択肢が豊富でかつレベルが高いものも多い。レベルの高い教授陣や最先端な研究施設などトップ大の豊富なリソースを有効活用することをお勧めする。選択肢が多いため、個々のニーズに合わせた最適な学業や活動を選択することが可能である。

寮生活で培われる人間力

多くの新入生が寮生活では、他国の学生との交流の中でそれぞれの価値観を知り、多様性や異文化理解を深めることができる。また、高度なコミュニケーション能力を身につけることもできるのも魅力だ。様々な国の学生と交流を深めることによって各国の研究や就職情報なども得ることができる。

ディスカッションで切磋琢磨

規模の大きい大学では、教授の「講義」以外に、助手 (TA) が担当する少人数授業 (チュートリアルやセクションなどと呼ばれる) があり、講義の受講を前提に、ディスカッションなどで仲間と切磋琢磨しながら科目に対する理解を深める仕組みが徹底している。

US Liberal Arts Colleges

US Liberal Arts大学

近年、リベラルアーツ教育への関心が高まっている。その背景には、高校在学中に学問の専攻を確実に決めて進学することへの不安感や大学入学後に興味関心が変わることへのリスクを感じている学生が増加していることがある。リベラルアーツ大学は、総合大学同様、自分自身の興味のある学問を探すために様々な分野の学問を大学1、2年で選択して学ぶことができる。そして興味を持った学問を3、4年で専門性を深めていくことが可能である。また、少人数クラスの中でディスカッションを中心とした授業を展開することも人気の理由だ。

リベラルアーツ・カレッジ・トップ5大学(ランキングは変わる場合があります)

Williams College ウィリアムズ大学(マサチューセッツ州)

リベラルアーツ・カレッジの最高峰。
オックスフォード型のチュートリアル制度を採用し、
教授との1対1の議論で学生を徹底的に鍛え上げる。

Amherst College アマースト大学(マサチューセッツ州)

ウィリアムズ大学と長年のライバル大学。
5大学コンソーシアムを組んでおり、学生はコンソーシアム内で
5,000以上のクラスから履修クラスを選択できる。

Swarthmore College スワースモア大学(ペンシルバニア州)

アイビーリーグ大学と同等の質やレベルを有する
名門大学群「リトル・アイビー」の1大学。
卒業生が博士号を取得する割合は理工系大学を除くと全米1位。

Wellesley College ウェルズリー大学(マサチューセッツ州)

アメリカ初の女性国務長官であるマデレーン・オルブライトや
ヒラリー・クリントンを輩出した名門女子大学。
MITとの単位互換プログラムがあり、MITの授業も受けられる。

Pomona College ポモナ大学(カリフォルニア州)

西海岸では数少ないリベラルアーツ・カレッジとして絶大な人気を誇る名門。
学生一人あたりの資金力ではリベラルアーツ・カレッジでトップ。
隣接する4つのリベラルアーツ大との連合も強み。

Elite Liberal Arts Colleges

注目のリベラルアーツ校

少数精鋭主義で幅広く学問を修め、文系・理系にまたがる真の教養を磨くりベラルアーツ・カレッジの名門私大。大学院へ進学する卒業生も非常に多い。

少数精鋭主義で実力を磨く

学生数3000人未満の大学が多く、教員1人あたりの学生数はわずか7～11人。教授の目がよく行き届き、学生一人ひとりの力を十分に伸ばすことができる。

「個」を高めて伸ばす

少人数のため、教室や課外活動で自然とリーダーシップが身につく。アドバイザー教員がマンツーマンで学習面・生活面を支え、潜在能力を引き出してくれる。

指導に情熱を注ぐ教授陣

総合大学以上に教育熱心な教授が多く、必ず教授自身が授業を受け持つ。個々の学生に対してきめ細やかに指導し、夜遅くまで学生たちと議論を楽しむことも。

他大学の授業も受講できる

小規模で、講座数がやや限られる点を補うため、近隣の他大学と連携（コンソーシアムを形成）することで多種多様な科目を受講しやすくする制度をとる大学も散見される。

全米リベラルアーツ・カレッジ TOP 20

順位	大学名	所在地
1	Williams College	マサチューセッツ州
2	Amherst College	マサチューセッツ州
3	Swarthmore College	ペンシルベニア州
4	Pomona College	カリフォルニア州
5	Wellesley College	マサチューセッツ州
6	Bowdoin College	メイン州
6	United States Naval Academy	メリーランド州
8	Claremont McKenna College	カリフォルニア州
9	Carleton College	ミネソタ州
9	Middlebury College	バーモント州
11	United States Military Academy	ニューヨーク州
11	Washington and Lee University	バージニア州
13	Davidson College	ノースカロライナ州
13	Grinnell College	アイオワ州
13	Hamilton College	ニューヨーク州
16	Haverford College	ペンシルベニア州
17	Barnard College	ニューヨーク州
17	Colby College	メイン州
17	Colgate University	ニューヨーク州
17	Smith College	マサチューセッツ州
17	Wesleyan University	コネチカット州

出典：2021 Best National Liberal Arts Colleges | US News Rankings

グレル・バンクcroft基金～リベラルアーツ・カレッジ専門の奨学金～

リベラルアーツ・カレッジへの進学を希望する日本の高校卒業生を対象とした、返済義務のない奨学金。帰国者の就職も支援しており、各界へ優秀な人材を輩出している。

お問い合わせ
<http://www.grew-bancroft.or.jp>
office@grew-bancroft.or.jp

支給内容(2021年度募集要項より/2022年夏出発)

- 米国のリベラルアーツ・カレッジに進学する者に対し、毎年5万米ドルを4年間支給。(2名)
- 米国の4年制大学(リベラルアーツ・カレッジ以外への進学も可)に進学する者に対し、毎年5万米ドルを4年間支給。(1名)

その他、以下の大学へ授業料全額または一部免除に基金から推薦。

- ・授業料全額免除 Carleton College/DePauw University/Grinnell College/Union College
- ・授業料一部免除 Knox College/Lake Forest College/Earlham College/Mount Holyoke College

※最新の情報はホームページ等でご確認ください。

Universities in the US 総合力を養うアメリカの大学



アメリカの大学受験は、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。アメリカの大学の大部分は、Common ApplicationやCoalition Applicationと呼ばれる共通願書システムでオンライン上から必要な書類や質問を記入して出願する。州ごとに願書システムを持つ大学もある。

大学の特徴

- 日本と同じ4年制大学。
- 学部別の入試は無く入学後に専攻を決める。
- 2年制のコミュニティカレッジからの編入もポピュラー。
- 一般教養だけを学ぶ「リベラルアーツカレッジ」という大学も存在するほど、一般教養が重視され幅広い知識を総合的に身につける教育が徹底されている。
- 最初の2年は一般教養を学ぶ大学が多くを占めている。
- 研究やフィールドワークなどの機会が多い。
- 在学途中で専攻変更、副専攻、ダブル専攻、早期卒業、編入などが可能でとてもフレキシブル。

大学例

IVY Leagueが有名

- California Institute of Technology
- Harvard University
- Massachusetts Institute of Technology
- Princeton University
- Stanford University
- University of Chicago
- Yale University など

大学数

- 約4,500校

IVY Leagueとは

アメリカ東海岸にある名門私立8大学の通称。Brown University、Columbia University、Cornell University、Dartmouth College、Harvard University、Princeton University、University of Pennsylvania、Yale Universityで構成される。アメリカのみならず世界をリードする人材が集う大学である。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

Universities in Canada 質の高いカナダの大学



カナダの大学受験は、アメリカなどと同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。カナダの大学は、大学のホームページから個人登録をし、オンラインで必要な書類や質問を記入して出願する。

大学の特徴

- 日本と同じ4年制大学。
- 教育の質が高く、ハイレベルな学力・英語力が求められる入試難易度が高い。
- 恵まれた自然環境で生活のしやすさや治安の良さから多くの留学生から人気。
- 大学在学中及び大学卒業後、最大3年間カナダで働く事ができる。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

大学例

The U15 Group of Canadian Research Universitiesが有名

- McGill University
- McMaster University
- University of British Columbia
- University of Montreal
- University of Toronto など

大学数

- 約90校

U15 Group of Canadian Research Universitiesとは

カナダの15研究大学の通称。University of Alberta、University of British Columbia、University of Calgary、Dalhousie University、Université Laval、University of Manitoba、McGill University、McMaster University、Université de Montréal、University of Ottawa、Queen's University、University of Saskatchewan、University of Toronto、University of Waterloo、University of Western Ontarioで構成される。研究費等が充実しカナダ国内最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

Universities in UK 専門性を追求するイギリスの大学



イギリスの大学受験は、アメリカ同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。この他、A Levelを指定日に受験する方法もある。イギリスの大学は、UCASと呼ばれる共通願書システムでオンライン上から必要な書類や質問を記入して出願する。

大学の特徴

- 大学は3年制(学部によって3~6年)。
- 日本からの留学生は大学入学前に約1年間、専門知識の基礎を学んで、計4年で卒業。(インターナショナルバカロレアなどの学生は、成績によるが直接大学に入学が可能)
- 一般教養課程がなく、専門科目を重点的に学ぶ。
- 即戦力となる専門人材の育成に重点を置いた教育が特徴。
- 実学を重視した大学と研究を重視した大学がある。
- 国内の大学がほぼ国立大学で歴史のある大学が多い。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

大学例

Russell Groupが有名

- Imperial College London
- London School of Economics and Political Science
- University of Oxford
- University of Cambridge
- UCL など

大学数

- 約120校

Universities in Australia 専門人材を育成するオーストラリアの大学



オーストラリアの大学受験は、アメリカなどと同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。オーストラリアの大学は、大学のホームページから個人登録をし、オンラインで必要な書類や質問を記入して出願する。紙で提出する場合には、日本のエージェントが書類提出窓口になっている大学もある。

大学の特徴

- 大学は3年制(学部によって3~6年)。
- 日本からの留学生は大学入学前に約1年間、専門知識の基礎を学んで計4年で卒業。(インターナショナルバカロレアなどの学生は、成績によるが直接大学に入学が可能)
- 専門人材の育成に重点を置いた教育が特徴。
- いわゆる短大という大学は存在しない。
- 公立総合専門学校(TAFE・College・Polytechnic)からの単位互換で大学編入が可能。
- 大学卒業後、2年間働くVISAを取得できる。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

大学例

Group of 8が有名

- Australian National University
- Monash University
- University of Melbourne
- University of New South Wales
- University of Queensland
- University of Sydney など

大学数

- 43校

Russell Groupとは

イギリスの24研究大学の通称。University of Birmingham, University of Bristol, University of Cambridge, Cardiff University, Durham University, University of Edinburgh, University of Exeter, University of Glasgow, Imperial College London, King's College London, University of Leeds, University of Liverpool, London School of Economics and Political Science, University of Manchester, Newcastle University, University of Nottingham, University of Oxford, Queen Mary University of London, Queen's University Belfast, University of Sheffield, University of Southampton, University College London, University of Warwick, University of Yorkで構成される。研究費や助成金等が充実しイギリス国内最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

Group of 8とは

オーストラリアの主要8研究大学の通称。Australian National University, University of Adelaide, University of Melbourne, Monash University, University of New South Wales, University of Queensland, University of Sydney, The University of Western Australiaで構成される。研究費等が充実しオーストラリア国内で最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

Prepare for World Top Universities

世界の大学は、 多面的総合的評価

世界トップ大の多面的総合的評価への準備は計画的に。学校において良い成績を維持することは当然の事ながら、それに加えて課外活動やTOEFL®/SAT®の勉強、また、エッセイ執筆や推薦状の依頼、財政証明書の準備など、計画を立てて進める必要がある。特に、TOEFL®/SAT®のスコアは出願資格となる上に、スコア取得まで相当の時間がかかる。また、高3の夏休み以降は、国内の受験対策も本格化するので対策を早めに始めたい。



海外トップ大受験スケジュール一例 (中学～高校3年)



海外トップ大受験スケジュール一例 (高校3年)



入学審査の重点ポイント

全世界から優秀な頭脳を一堂に集め、その多様な力で学内を活性化することが名門大学の基本スタンスである。そのため学力だけで合否を決めることはない。出願時のエッセイや面接をもとに学業に加えて課外活動でも実績を上げ、強烈な熱意と高いモチベーション、創造力に秀でたタフな人物を見極める。それをいかにして審査官に訴えるか、まずは自分の強みと課題を整理してみよう。



Balance

「学力+人間力」の総合評価

学業成績、SATやTOEFLなどのテストスコア、願書（特に課外活動や受賞歴など）、エッセイ、面接でのコメントなどが総合的に判断され、入学するに相応しい人物が特定される。トップクラスの大学では、SATが満点でも不合格となるケースもある。

Passion

入学へのあくなき「熱意」

この大学に入りたい、という強い熱意を示すこと。事前に大学を訪問したり、全科目の講義要項に目を通したりして、明確な動機と必然性をもってエッセイや面接で志望理由を語りたい。自分に合った大学かどうか見きわめるためにも、ぜひ大学訪問を。

Creativity

きわだつ「個性」「独創力」

オールラウンドに秀でるだけでは決め手に欠ける。何らかの全国大会や世界大会での実績など、特別に目を引く強みがほしい。入学審査官は1万通、2万通もの願書に目を通す。しかも、出願者はみな精鋭ぞろい。凡庸な人物では選ばれる理由がない。

Contribution

期待感を高める「貢献度」

自分の目標に向かって走るだけでは不十分。その大学にフィットした、大学にとって貢献度の高い人物になりえるかどうか大事なポイント。「入学後、どんな貢献ができるか」といった質問が、願書やエッセイの課題に織り込まれているのもそのためだ。

Leadership

社会を変えていく「原動力」

社会を動かす人物こそが好まれる。学業や課外活動での優れた実績に加え、それが周囲にどれだけ認められ、問題解決に役立ったか、その影響力の強さが評価される。リーダーの地位だけでなく、何をやるかが大事だ。

トップ大が求める人物像

ハーバード大のサイトには「リーダーシップ」「コミュニティ貢献」などに加え「学生同士で互いに、または教授をも教育する人——周りの人をインスパイアする人」スタンフォード大のサイトには「学業優秀」「知的バイタリティ」「好奇心と熱意」などの言葉が散見される。参考にしたい。

Application Requirements

出願に必要な書類

必要な書類は、国や大学ごとに異なることがあるが主に願書、成績証明書、エッセイ、推薦状、テストスコアがある。これらの中には、自分自身で用意する書類、学校の先生に用意してもらう書類、TOEFL®やSAT®の実施団体から提出してもらう書類などがある。また、保護者が用意する財政能力証明書が必要になる場合がある。

願書 Application Form	オンライン出願が主流。個人情報を入力をする。世界のトップ大学の多くが志望する大学・専攻に関することや、高校時代の学業成績、受賞歴、就労歴、英語テストスコア、課外活動歴などの記入の指示などがある。
成績証明書 Transcripts	高校に依頼して英文の成績証明書を発行してもらう。進路指導教員や担任教員にお願いしよう。学校からの直送を求める大学も多い。途中で転校している場合は、前に在籍した学校の書類も必要。
エッセイ Essay	志望動機や留学への熱意、将来設計などを通じて自分をアピールする。エッセイでは国や大学ごとに文字制限などがあり要件に合わせたエッセイを書く必要がある。その大学について十分にリサーチしたうえで、志望動機を明確にして作成したい。
推薦状 Recommendations	出願者の資質や能力、人間的魅力について客観的に伝える。高校の担任や進路指導の教員、主要教科の教員などに依頼できるよう日頃からのコミュニケーションを大切にしたい。大学によってはさらに指定があるので要注意。国内大向けの推薦状以上の具体性が求められるので、自分のことをよく把握している先生に作成してもらうのがポイント。さらに、特筆すべき点があれば、高校以外のしかるべき人物に外部推薦状を作成してもらってもよい。
テストスコア Test Scores	大学ごとに指定のテストを受験。そのスコアを実施団体から志望校に送ってもらう。 ●SATやACTでは、スコア・チョイス(受験生側で提出するスコアを選べる制度)が導入されているが、過去に受験したすべてのスコアの提出を求め、各セクションの最高点で評価する大学が多い。 ●通常出願の場合、1月受験のスコアも提出可能だが、できれば年内の受験で高得点を取り、他の出願書類とともに提出しておきたい。 ●TOEFLでは、iBT(Internet-based Test)で最低100点を要求する大学が散見されるので、早めにこれを超えるよう対策を立てたい。
高校教員による学生評価 SR/CR/TE/MR	進路・担任や各教科教員がオンラインで提出する評価フォームのこと。 ●SR(School Report)/CR(Counselor Recommendation):進路指導教員または担任が作成し、成績証明書、学校案内、推薦状も添付する。 ●TE(Teacher Evaluation):生徒に依頼された教員(2名)がそれぞれ作成するフォーム。推薦状もそれぞれ添付要。 ●MR(Mid Year Report):出願後の学業成績を反映した中間報告書。 ※上記のほか、Final Reportなども必要に応じ提出要。
学校紹介 School Profile	高校(SR作成の先生)に、英文の学校紹介の作成を依頼する。単に日本語の高校案内を英訳するのではなく、基本情報に加え、難関大への合格実績など、学校のPRとなるような内容を追記してもらうとよい。

テストスコア、 受験書類の目安

世界の大学を受験するには、様々な書類の提出を求められることが多い。世界トップの大学を目指す場合には全ての書類で良い評価を得る必要がある。自分の力で努力ができる課外活動、受賞歴、成績、エッセイ、テストスコアは計画を立てしっかりと準備をしよう。特に学校の成績は重要であるため、日々の学校の学習や中間や期末テストは、しっかりと高得点を取ってほしい。

英語テストの詳細は
オフィシャルページで確認しよう。

TOEFL

<https://www.ets.org/toefl>

IELTS

<https://www.ielts.org>

SAT

<https://collegereadiness.collegeboard.org/sat>

ACT

<http://www.act.org>

	オンライン願書		成績証明書		提出資料		テストスコア		
	課外活動	受賞歴	GPA	IB Points	エッセイ/ 志望理由	推薦状	TOEFL iBT	IELTS	SAT/ ACT
Top Prestigious University	◎	◎	4.5～5.0	43+	◎	◎	110+	8.0+	90%+
TOP University	◎	◎	4.0～4.5	30+	◎	◎	100+	6.5～7.0	80%+
University	○	○	3.5～4.0	25+	○	○	90+	6.0～6.5	—
Foundation Course Community College etc	△	△	3.0～4.0	—	△	△	60-80+	5.0～6.0	—

※上記スコアは、あくまで目安となります。海外大学は、提出書類の総合評価になります。

※◎とても重視する ○重視する △あまり重視しない

Honors and Extracurricular Activities

課外活動を アピールしよう

共通願書などには、中学3年生から高校3年生の出願時点までの課外活動に関する受賞歴を記載する欄がある。これをすべて埋めなければ、トップスクールに合格することはできない、ということでは決してない。そうしたなかで、少しでも自分をアピールするのに大切なことは、活動の数や量もさることながら「質」である。質の高い活動歴がたくさんあればあるほど、入学審査官の目にとまりやすい。ここでは、願書に見られる課外活動の代表的なタイプと例をまとめているので参考にしてほしい。特に活動例はここに挙げた以外にも、中高生が参加できるものが多々あるので調べてみよう。

課外活動の主なタイプと活動例

タイプ／共通願書の英語表記	例
高校の組織活動(部活動は除く)／School Spirit	生徒会、委員会、クラスでの活動など。 ※校内の運動部やクラブでの活動は、次のAthleticsに含む。
運動部：(準)レギュラー／Athletics: JV/Varsity 運動クラブ／Athletics: Club	運動部や運動クラブでの活動。 ※Varsityはレギュラー、JV (Junior Varsity)は準レギュラーの意。
アカデミック／Academic	学問レベルを競う各種オリンピックや模擬国連、エッセイコンテストなどアカデミックな大会等への出場歴。サマースクールやキャンプ等への参加も含む。 ※大会での受賞歴は、Honors(次ページ参照)の欄に書くのが一般的。
科学、数学／Science, Math	科学や数学系のキャンプやプログラムへの参加、大学等での実験活動体験など。
外国語／Foreign Language	校内でのESS活動、外国語学習歴など。
海外交流／Foreign Exchange	海外交流イベントへの参加、運営など。
ディベート、スピーチ／Debate, Speech	ディベート大会、スピーチ・コンテストへの参加など。 ※Academicの模擬国連はこちらに記載しても可。
コミュニティ活動(ボランティア)／ Community Service (Volunteer)	各種ボランティア活動(NPO等でのボランティアも可)。 ※将来の職業に関連するボランティア活動はCareer Orientedの項に記載するほうがよい。
キャリア志向／Career Oriented	インターンの経験、NPO等での活動歴など。
ジャーナリズム、出版／Journalism, Publication	出版物等の記事作成、寄稿など。
音楽：楽器(演奏)／Music: Instrumental 音楽：歌／Music: Vocal	楽器の習い事、演奏歴、合唱歴など。
美術／Art	美術に関する活動全般。校内イベントのパンフレット制作(デザイン等)なども可。
その他のクラブ、活動／Other Club, Activity	上記のどの分類にもあてはめにくいものはここに記入する。

★アカデミックな大会などに出場して入賞した場合は、受賞欄(Honors)にも記載できる。

★自分の活動が複数のタイプにあてはまる場合は、どれに記入したほうがよりアピールできるかを考えよう。

アカデミックな 受賞歴もPR

共通願書などには、課外活動歴と同様に、中学3年生から高校3年生の出願時点までの間に獲得したアカデミックな受賞歴について記載する欄もある。トップスクール合格に、国際大会や全国大会での受賞が必ずしも求められるわけではないものの、そうした経歴があれば当然、自己PRの材料が増える。では、名門校への出願者は実際にどのような大会で賞を手に行っているのだろう。主なタイプと具体例を右にまとめてみた。もちろん、ここに挙げた以外にも、中高生が参加できるコンテストやプログラムはたくさんあるので調べてみよう。

奨学金にもチャレンジを

日本から海外の大学に出願する高校生でも応募できる奨学金が、ここ数年で増えてきている。支給額が高いこともあり「狭き門」ではあるが、挑戦しておきたい。(p.28参照)

受賞歴の主なタイプと受賞例

※下記大会等の名称は通称。参加資格などの詳細は各プログラムのホームページ等で確認のこと。参加資格に制限がある場合もあるので注意。

タイプ	例
各教科系のオリンピック	「数学オリンピック」「物理オリンピック」など、数学・物理・化学・生物・地学・地理の各教科でそれぞれオリンピックが開催されているほか、哲学・情報オリンピックなどもある(国内上位入賞者は世界大会に出場可)。
英語力の比重の高い大会	英語ディベート大会(全国高校生英語ディベート大会ほか) 英語スピーチコンテスト(チャーチル杯、ホノルル市長杯ほか) 英語エッセイコンテスト 模擬国連(高校模擬国連ほか) ※日本語での弁論大会、論文コンクール等での受賞なども記載可。
その他のアカデミックな大会	ビジネスコンテスト、プレゼンテーションコンテスト、複数のスキルをすべて英語で競う大会(World Scholar's Cupほか)など。
国際会議 国際交流プログラム	高校生を対象としたアカデミックな国際交流プログラムや国際会議に、国内での選考を経て、日本代表として参加した場合なども記載可。
奨学金プログラム	グルー・バンクロフト基金の奨学金(p.9参照)やTOEFL奨学金など、さまざまな機関が支給する選考を伴う奨学金プログラムのほか、高校が成績優秀者に対して支給する奨学金などがある。

★入賞ができなかった場合でも、願書の課外活動欄に記載することは可能。また、大会への参加資格を得たにもかかわらず、都合で参加できなかった場合も記載してよい。

Application Essay for US Universities

アメリカの大学のエッセイ

エッセイ対策と 自己分析

エッセイは合否を分かつ重要な出願書類。過去の経験から得られた価値観を背景に、志望理由や将来の目標を意識して自分自身のドラマを熱く語る必要がある。そのためには徹底した自己分析が欠かせない。自分は何を求め、どう生きる人間なのか。その行動特性と価値基準をよく見極めてこれからの課題と対策をあぶり出してほしい。自分が将来なすべきことを実現するための道、それと志望校に求めることが結びついたとき大きな説得力が生まれるはずだ。

Common App Essay (共通願書のエッセイ)

以下の7つから1つを選び、250~650語で書く。

- 1 **Some students have a background, identity, interest, or talent so meaningful they believe their application would be incomplete without it. If this sounds like you, please share your story.**
- 2 **The lessons we take from obstacles we encounter can be fundamental to later success. Recount a time when you faced a challenge, setback, or failure. How did it affect you, and what did you learn from the experience?**
- 3 **Reflect on a time when you questioned or challenged a belief or idea. What prompted your thinking? What was the outcome?**
- 4 **Reflect on something that someone has done for you that has made you happy or thankful in a surprising way. How has this gratitude affected or motivated you?**
- 5 **Discuss an accomplishment, event, or realization that sparked a period of personal growth and a new understanding of yourself or others.**
- 6 **Describe a topic, idea, or concept you find so engaging it makes you lose all track of time. Why does it captivate you? What or who do you turn to when you want to learn more?**
- 7 **Share an essay on any topic of your choice. It can be one you've already written, one that responds to a different prompt, or one of your own design.**

★付加情報記入欄 (オプション)

上記に加え、以前からあった付加情報 (Additional Info) 欄に加え、昨年から、コロナ禍や自然災害の自分への影響があれば説明してよい欄が新設された。

Supplement Essay (個別大エッセイ)

★ハーバード大学

複数のトピックから選び任意で追加のエッセイを提出できる。

You may wish to include an additional essay if you feel that the college application forms do not provide sufficient opportunity to convey important information about yourself or your accomplishments. You may write on a topic of your choice, or you may choose from one of the following topics:

- Unusual circumstances in your life
- Travel, living, or working experiences in your own or other communities
- What you would want your future college roommate to know about you
- An intellectual experience (course, project, book, discussion, paper, poetry, or research topic in engineering, mathematics, science or other modes of inquiry) that has meant the most to you
- How you hope to use your college education
- A list of books you have read during the past twelve months
- The Harvard College Honor code declares that we "hold honesty as the foundation of our community." As you consider entering this community that is committed to honesty, please reflect on a time when you or someone you observed had to make a choice about whether to act with integrity and honesty.
- The mission of Harvard College is to educate our students to be citizens and citizen-leaders for society. What would you do to contribute to the lives of your classmates in advancing this mission?
- Each year a substantial number of students admitted to Harvard defer their admission for one year or take time off during college. If you decided in the future to choose either option, what would you like to do?
- Harvard has long recognized the importance of student body diversity of all kinds. We welcome you to write about distinctive aspects of your background, personal development or the intellectual interests you might bring to your Harvard classmates.

※最新のエッセイ課題は各大学のHPをご確認ください。

★イェール大学

志望動機、エッセイ、および複数の小問が課される。

■ 志望動機 ※50語以内/アメリカ・カナダ以外の出願者のみ。

What is it about Yale that has led you to apply?
(125語以内)

■ Additional Questions ※35語以内

- 1 What inspires you?
Yale's residential colleges regularly host conversations with guests representing a wide range of experiences and accomplishments.
- 2 What person, past or present, would you invite to speak? What question would you ask?
- 3 You are teaching a Yale course. What is it called?
Yale students embrace the concept of 'and' rather than 'or', pursuing arts and sciences, tradition and innovation, defined goals and surprising detours. What is an example of an "and" that you embrace?
- 4

■ Essays ※全て250語以内。

Yale's extensive course offerings and vibrant conversations beyond the classroom encourage students to follow their developing intellectual interests wherever they lead. Tell us about your engagement with a topic or idea that excites you. Why are you drawn to it?

以下から1つ選ぶ。

A. Reflect on a community to which you feel connected. Why is it meaningful to you? You may define community however you like.

B. Reflect on something that has given you great satisfaction. Why has it been important to you?

★プリンストン大学

エッセイ、課外活動詳説、小問が課される。

■ Writing Questions ※250 語程度。

1.) At Princeton, we value diverse perspectives and the ability to have respectful dialogue about difficult issues. Share a time when you had a conversation with a person or a group of people about a difficult topic. What insight did you gain, and how would you incorporate that knowledge into your thinking in the future?

2.) Princeton has a longstanding commitment to service and civic engagement. Tell us how your story intersects (or will intersect) with these ideals.

■ 学位別エッセイ ※以下2つから1つを選ぶ。350 語程度。

For A.B Degree Applicants or Those Who are Undecided:

As a research institution that also prides itself on its liberal arts curriculum, Princeton allows students to explore areas across the humanities and the arts, the natural sciences, and the social sciences. What academic areas most pique your curiosity, and how do the programs offered at Princeton suit your particular interests?

For B.S.E Degree Applicants:

Please describe why you are interested in studying engineering at Princeton. Include any of your experiences in, or exposure to engineering, and how you think the programs offered at the University suit your particular interests.

■ 課外活動詳説 ※150 語程度。

Please briefly elaborate on one of your extracurricular activities or work experiences that was particularly meaningful to you.

■ More About You ※75 語以内。

- 1 What is a new skill you would like to learn in college?
- 2 What brings you joy?
- 3 What song represents the soundtrack of your life at this moment?"

★スタンフォード大学

エッセイ、および複数の小問が課される。

■ Short Questions ※50 語以内。

- 1 What is the most significant challenge that society faces today? (50 語以内)
- 2 How did you spend your last two summers? (50 語以内)
- 3 What historical moment or event do you wish you could have witnessed? (50 語以内)
- 4 Briefly elaborate on one of your extracurricular activities, a job you hold, or responsibilities you have for your family. (50 語以内)
- 5 Name one thing you are looking forward to experiencing at Stanford. (50 語以内)

■ Short Essays ※すべて100～250 語以内。

- 1 The Stanford community is deeply curious and driven to learn in and out of the classroom. Reflect on an idea or experience that makes you genuinely excited about learning.
- 2 Virtually all of Stanford's undergraduates live on campus. Write a note to your future roommate that reveals something about you or that will help your roommate — and us — know you better.
- 3 Tell us about something that is meaningful to you and why.

★MIT (マサチューセッツ工科大学)

- 1 Although you may not yet know what you want to major in, which department or program at MIT appeals to you and why? (100 語以内)
- 2 We know you lead a busy life, full of activities, many of which are required of you. Tell us about something you do simply for the pleasure of it. (100 語以内)

- 3 Describe the world you come from; for example, your family, clubs, school, community, city, or town. How has that world shaped your dreams and aspirations? (200～250 語以内)

- 4 At MIT, we bring people together to better the lives of others. MIT students work to improve their communities in different ways, from tackling the world's biggest challenges to being a good friend. Describe one way in which you have contributed to your community, whether in your family, the classroom, your neighborhood, etc. (200～250 語以内)

- 5 Tell us about the most significant challenge you've faced or something important that didn't go according to plan. How did you manage the situation? (200～250 語以内)

★コロンビア大学

■ Writing Questions

- 1 List the titles of the required readings from academic courses that you enjoyed most during secondary/high school. (75 語以内)
- 2 List the titles of the books, essays, poetry, short stories or plays you read outside of academic courses that you enjoyed most during secondary/high school. (75 語以内)
- 3 We're interested in learning about some of the ways that you explore your interests. List some resources and outlets that you enjoy, including but not limited to websites, publications, journals, podcasts, social media accounts, lectures, museums, movies, music, or other content with which you regularly engage. (125 語以内)
- 4 A hallmark of the Columbia experience is being able to learn and live in a community with a wide range of perspectives. How do you or would you learn from and contribute to diverse, collaborative communities? (200語以内)
- 5 Why are you interested in attending Columbia University? (200 語以内)

イギリスの大学のエッセイ

イギリスの出願において Personal statement と呼ばれるエッセイは非常に重要だ。最大 47 行、1000～4000 ワード以内で志望理由、自分の学びたい学問へのパッション、スキル、経験、課外活動などをアドミッション担当官へアピールする必要がある。オンライン出願システムの UCAS では、エッセイの書き方の動画もアップされている。エッセイを書く前に動画をしっかり確認したい。

Preparing your personal statement

準備 自己分析	ポイント 整理	文字制限に 注意して書く	文法、スペルミス をチェック
------------	------------	-----------------	-------------------

Personal statement の重要なポイント

- なぜあなたは英国で勉強したいのか?
- なぜあなたは特定のコースや科目を勉強したいのか?
- 学問への情熱はあるか?
- どんなスキルや経験があるか?

Personal statement の注意点

- 共通願書のため、選択した全大学に同じ Personal statement が送付される。そのため、大学名を言及しないように注意しよう。
- 文字数制限があるため、アドミッション担当官に自分の良さをしっかり伝え、優秀な候補者であることをアピールする必要がある。

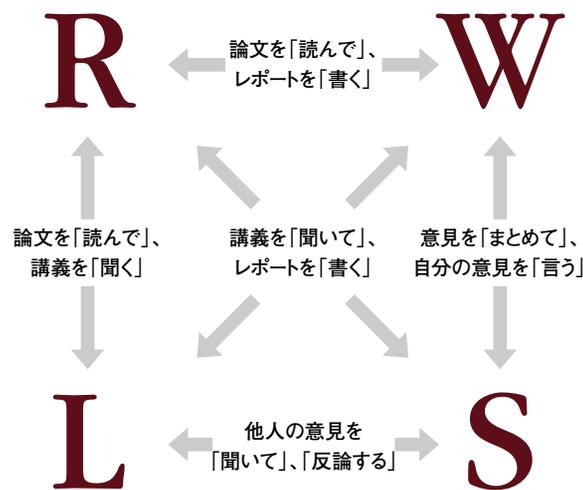
Application Essay for
UK Universities

試験対策トレーニング法

英語力判定テストのTOEFL®と大学進学適性テストのSAT®。これらの試験で9割を獲得しなければ、名門校への合格はおぼつかない。それには小手先の試験対策では不十分。英語の4技能を高めることはもちろん、ネイティブにも匹敵するほどのコミュニケーション能力を磨く必要がある。深く速く思考する力と豊かな感性を早い時期から鍛えよう。

英語4技能

海外のトップ大学の講義を理解し、ついていくには、英語4技能だけでなく各技能をリンクさせた力が必要になる。英語の論文を読んで講義を聞いたり、講義を聞いて他人の意見に反論したり、テキストを読んでレポートを書いたりする力が必須になります。そのため、日々の生活の中で、英字新聞、興味のある分野の論文や雑誌等英語の文献に触れ、意見をまとめたり、伝えたりするトレーニングをしていくと良い。



Thinking & Feeling

思考を深め、感性を磨くトレーニング

「TOEFL®で100点」の目標に手が届いても「SAT®9割」の壁はまだ越えられない。次の高みに到達するための決め手、それが「思考力」と「感性力」の底上げだ。

Thinking

速く深く、 英語らしく考える力

日本語で考え、それを英語に置き換えて書いたり話したりするのはニュアンスの違いを埋められず、アウトプットにも時間がかかる。英語で考え、そのまま表現する力をつける必要がある。

Feeling

言葉を味わい、 感じとる力

ネイティブと対等に渡り合えるようなコミュニケーション能力を身につけるには、言葉の微妙なニュアンスや行間を読む力、いわば文学を味わうような感性と、それを表現する能力が必要だ。

ココを磨く！

発想の転換で「英語脳」をつくる

日本語と英語では、物事を考えるときの言葉の順序が違う。例えば、日本語では「のどが渴いた」から「水が飲みたい」と発想する傾向にあるが、英語では逆に「水が飲みたい」と目的が先に立ち、理由「のどが渴いたから」は後ろにまわる。この語順を常に意識した言葉選びを心がけることが大切。

ココを磨く！

想像力と語彙力をきわめる

同じ単語やフレーズでも、使われる状況によっては何通りにも意味が違ってくる。それらを感じとり、使い分けるためには大量の英文にふれ、読み、書き、話し、書く練習を毎日欠かさないこと。まずイメージを思い描き、それに合致した単語を探して表現する。そのためにも膨大な語彙を蓄えたい。

SVOCM Training

得点力を高める5つの特訓ターゲット

思考と感性の力を高めるものは、的を射たトレーニングと目標設定である。5つのポイントを常に頭に置いて、たゆみなくメリハリのある学習を続けたい。

S

Speed

「速さ」を追求する

スピードは高得点への最大の武器。常に「倍速」を意識し、素早く考え、理解し、アウトプットする訓練を。ただし、スピーキングではジョギングするように緩めの速さで、よどみなく話すのがコツ。

V

Vocabulary

「語彙力」を伸ばす

ThinkingとFeelingの土台となり、速さを支えてくれるのが確かな語彙力。SATで満点近くに到達するには、2~3万語の知識が必要だといわれる。熟語・慣用語も忘れずに。

O

Organization

「構成力」を高める

単に文法力ではなく、英文の構造、文章構成に対する理解を徹底して深める。全体構成がわかれば、次に現れる言葉の意味合いを先読みして、速く深く理解することができる。

C

Concentration

「集中力」を磨く

TOEFL®もSAT®も数時間におよぶ長丁場。これ乗り切るには、緩急メリハリのある集中力が必要。日頃の勉強でも、適度にリラックスを織り込んだ生活を心がけること。

M

Method

「方法論」を知る

高得点をマークするには、それなりの試験の受け方や答え方のテクニック、また普段の勉強法、考え方のコツがある。愚直に練習を繰り返す、その勘どころを体得しよう。

Preparation for the Exams

TOEFL® Test TOEFL®の基本対策

英語力判定基準の国際スタンダード

世界130か国10,000以上の大学・大学院が留学生の入学審査に用いる国際的なテスト。インターネット受験によるテスト(iBT)で英語コミュニケーション能力を測る。毎年複数回実施。スコアは2年間有効。

セクション／配点	出題内容・時間	基本対策
Reading 30点	【問題文】3～4パッセージ 【設問数】各10問 【時間】54～72分	1分間200～400語を目標に、倍速を意識して速読速解の力を鍛える。学術的な長文を毎日欠かさず読むと同時に、小説や雑誌にも親しみ「ネタ」を仕入れることが大切。
Listening 30点	【講義】 【問題数】3～4題 【設問数】各6問 【会話】 【問題数】3～4題 【設問数】各5問 【時間】41～57分	対策の要は3つ。①就寝前に自分のレベル以上の英文を必ず聞く。②1～3分の短い英文を聞き、シャドーイングをする。③短いセンテンスを3段階の速度で何度も繰り返し聞く。
Speaking 30点	全体的問題数：4問 【Independent Tasks】 【問題数】1問 【Integrated Tasks】 【問題数】3問 【時間】17分	スピーチによく見られる決まり文句や話の組み立て方のパターンを知り、説得力を高めるフレーズを数多く覚えること。「風邪→ひどい」など単語と単語のつながりを意識し、名詞と副詞を巧みに使って話す訓練を。
Writing 30点	全体的問題数：2問 【Integrated Tasks】 【問題数】1問 【Independent Tasks】 【問題数】1問 【時間】50分	読んで聞いて書く問題では、正しく理解しまとめる力を、設問に答える問題では自分の意見を書き表す力をつけること。5～8分でアウトラインを組み立てるトレーニングを。

Key for Success

TOEFL®で高得点を取るために

1 問題を解くリズムをつかむ

TOEFL®は総計3～4時間にもおよぶ長丁場。出題形式や設問内容に十分に慣れておくことが大切だ。過去問題を集めたオンラインの模擬試験で問題を解くリズムをつかみ、自分の弱点を把握して早めに対策を立てよう。また、スコアは2年間有効で、このうち最も高い得点で出願できるので、本番の試験も繰り返し受験したい。

2 アカデミックな語彙を増やす

「英語で学ぶ能力」を測ることに重きを置くTOEFL®は、大学の講義やキャンパスでの会話に題材を求めた問題が数多く出される。日頃から日英両言語で学術的な文章に接し、さまざまな専門分野の知識と単語を仕入れること。ニュージーランドのビクトリア大学で開発されたAWL (Academic Word List) が役に立つ。

3 要点をメモに書き取る

TOEFL®では全セクションで試験中にメモを取ることが許されている。特にリスニングや、スピーキングとライティングの統合問題では、問題文を聞きながら重要な語句やポイントを逃さずメモに書き取ることが大切。

4 英語で要約する訓練を

試験は時間との勝負。速読速解が命だから、頭の中で英語を日本語に置き換えているようでは歯が立たない。普段から英語で読んだことを英語で書き留め、英語で聞いたことを英語で話すトレーニングを心がけたい。

★名門校の要求スコア【TOEFL®】……100 / 120(iBT)

要求スコア100はあくまでも目安。110点台にターゲットを定め、早めに対策を立てよう。

Question Typeと型を把握

TOEFL®で高得点を取得するには、単語や文法などの基礎力はもちろんQuestion Typeの把握やアウトプットの型を身につけることが大切だ。これらを身につけることで、時間配分が難しいTOEFL®において効率よく情報収集を行い問題に解答していけるスキルが身につく。

Question Typeの把握

Reading/Listening

ReadingとListeningではそれぞれ以下のKey Question Type(設問タイプ)がある。

Reading Question Types

- 事実特定 (Fact Questions)
- 事実でない事特定 (Negative Fact Questions)
- 推察 (Inference Questions)
- 語彙 (Vocabulary Questions)
- 参照 (Reference Questions)
- 言い換え・簡略化 (Sentence Simplification Questions)
- 文挿入 (Text Insertion Questions)
- 著者の意図特定 (Rhetorical Purpose Questions)
- 散文要約 (Prose Summary Questions)
- 表・グラフ参照 (Table & Chart Questions)

Listening Question Types

- 主題特定 (Main Idea Questions)
- 詳細特定 (Detail Questions)
- 目的理解 (Function Questions)
- 態度理解 (Stance Questions)
- 推察 (Inference Questions)
- 構成 (Organization Questions)
- 内容理解 (Content Questions)

アウトプットの型の習得

Speaking/Writing

SpeakingやWritingでは効果的なアウトプットをするうえで型の習得が必要になる。

The image shows two overlapping templates for practicing Speaking and Writing. Each template consists of a header section, a main body with multiple horizontal lines for writing, and a footer section. The templates are designed to help students practice their output in a structured way.

トップスクールが求める基礎学力の証

大学進学に適した学力を測る共通試験。難関大学では必須のところが多い。プラクティステストなどで十分に対策をしておきたい。

SAT

【注】試験会場が満席になる時期が早まっているので、早めに申し込みをしておくこと。

セクション 時間／配点		出題形式・内容	基本対策
Evidence-Based Reading & Writing (800点)	Reading Test 65分／52問	<p>文脈を理解し文章を批判的に読む力など、論理的思考力を試す。</p> <p>[Passage-based Reading] 読解問題</p> <p>文学(米国または世界)から1題、歴史・社会、科学からそれぞれ2題出題される。また、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。</p>	<p>出題される英文の論理構成や、文中の各パート間のつながりを深く読み取る力、主張の根拠を探る力などが求められる。精読・速読の訓練を積むと同時に、出題される予定の、文学、歴史・社会、科学の各分野のさまざまな英文に慣れること。また、表・グラフなどのデータ付きの英文にも普段から慣れておきたい。また、今回の改訂により、独立した単語穴埋め問題は姿を消したものの、文中の語彙の、文脈の中で意味を把握する力などは引き続き求められるので、語彙力の増強もおろそかにしないこと。</p>
	Writing & Language Test 35分／44問	<p>より適切な英文を作成する力や、文章を論理的に構成する力を測る。</p> <p>ライティングでも、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。</p> <p>[Multiple Choice] 選択問題</p>	<p>選択問題では、文法や文体の知識、簡潔な表現、文をつなぐ接続詞、フレーズや(セミ)コロンなども含めた句読点の用法に関する理解などが問われる。各知識の習得はもちろん必要だが、さらに、音読などを通じて日常から英語のセンスを磨くこと。【注】2021年1月に、エッセイ(オプション)の廃止が発表された(※日本では2021年6月まで実施)。</p>
Mathematics (800点)80分／58問	<p>四則演算や代数、幾何などに関する基本的な処理能力を問う。</p> <p>[Multiple Choice] 選択問題</p> <p>[Student-produced Response] 記入問題</p> <p>※計算機使用可・不可の両セクションあり</p>	<p>改訂により数学の比重が高まったため、確実に得点できるようにしておきたい。日本の中学から高校程度の問題レベルだが、即答できる設問がやや減り、問題文の正確な読み取りがより必要になった。従来出題されなかった分野もやや増える見込み。なお、改訂版では、計算機の使用可・不可のセクションが区別される。数学用語は英語で必ず覚え、満点を目指したい。</p>	

★名門校の要求スコア [SAT®] …………… **1500** / 1600 (SAT)

Subject Testsはほとんどの受験者が得意科目を選択するので、受験科目はすべて満点(800点)を目指したい。

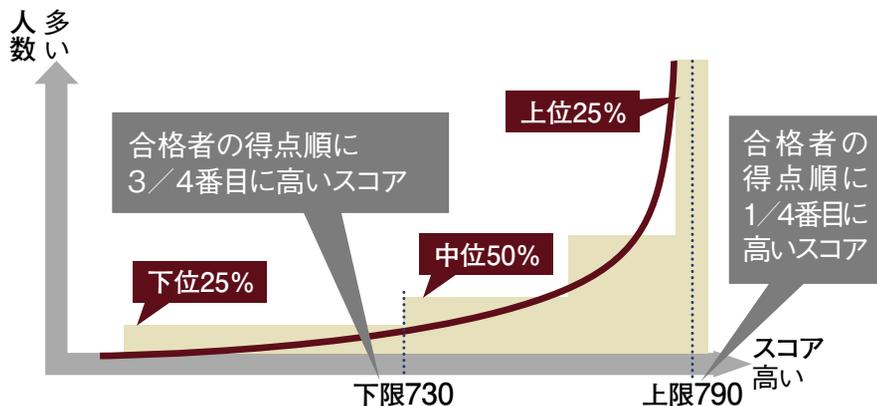
SAT®スコアの上限・下限について

College Boardが公表している、現時点で予測される来年の入学審査合格者のSAT®スコアは、成績中位50% (Middle 50% of First Year Students) に位置する人の上限値と下限値で示されることが多い。つまり、上位合格者25%と下位合格者25%をあらかじめ除外し、残った中位クラスの最高スコア(上限)と最低スコア(下限)によって、セクションごとの平均的なスコアを表すのである。

例えば、ハーバード大学の場合、Evidence-Based Reading & Writingの上限スコアは790、下限スコアは730だが、仮に合格者が1000人いるとして、250位で合格する学生の得点が790、750位の得点が730と予想されることがここからわかるのだ。

したがって、必ず730点を取らなければ合格できないわけではない。上限・下限のスコアはあくまでも合格への目安として考えよう。

◎ハーバード大学合格者のSAT®得点分布図(推定値/Reading & Writing)



Key for Success

SAT®で高得点を取るために

1 受験テクニックを知る

SAT®の選択問題では誤答は減点されないで、できるだけすべての問題に解答することを心がけよう。

2 「読解力・速読力」を磨く

個人差はあるが、SAT®においても日本人は他のセクションに比べてReading Testの得点率が落ちやすい。65分で5つの長文問題に取り組むので、従来どおり速読力が求められる。ただし、SAT®のリーディングが「Evidence-Based (証拠に基づく)」と称されることから覗えるように、「根拠を探す力」が問われる。また、難解な語の意味よりも、複数の意味を持つ平易な語が、与えられた文脈の中でどの意味を表すかなどを問う設問が出題されるので、図表問題も含めて、サンプル問題などでさまざまな文章を速く正確に読む訓練を積んでおこう。

3 「文法力・ライティング力」を磨く

Writing and Language Testについては、文法・語法や句読点などの知識を磨いておくことがポイント。ただし、単なる知識としてだけでなく、その知識を踏まえて、英文を正確に書く訓練を積んでおくことが必要である。Reading Testと同様、図表問題にも慣れておきたい。

4 受験時期にもストラテジーを

SAT®でもTOEFL®と同様に、スコア・チョイス(複数回受験した場合、受験者が最も高いスコアだけを選んで志望校に提出する形式)が導入されているものの、依然として「各セクションの最高得点を見たいので、すべての受験結果についてスコアを送付してほしい」としている大学も多い。十分に実力をつけてから受験するのが得策だ。

Scholarship / Financial Aid

奨学金について

近年、海外大学進学において様々な奨学金が設けられている。Scholarship という優秀な学生に給付される返済不要の奨学金や、Financial Aid と呼ばれる家庭の収入に応じて学費の補助を行うものもある。資金力のあるアメリカの私立の大学は、優秀な学生には奨学金を多く出してくれることで有名だ。しかし、奨学金を取得するのは簡単なことではない。

奨学金は、「返済する奨学金」と「返済不要の給付型奨学金」に分けることができる。「返済する奨学金」とは、金融機関、日本学生支援機構、日本政策金融公庫などから教育ローンを組む形で利子をつけて分割払いで返済をしていく。「返済不要の給付型奨学金」は下記の3つに分類される。

- 1 国、都道府県、市区町村が給付する Scholarship
- 2 企業、財団が給付する Scholarship
- 3 大学が給付する Scholarship と Financial Aid

Scholarship 取得をするために必要なこととは

一番大切なことは、その大学に入りたいというパッションである。審査の基準には、学校の成績、英語力、課外活動なども入ってくる。しっかりとした志望理由、将来のポテンシャルなどがチェックされる。

奨学金の例

◎柳井正財団海外奨学金

米国トップレベルの教育機関への進学を志す日本人学生を対象に、学部4年間の授業料、教材費、保険料、寮費等、就学のために大学より請求される費用を、年間95,000ドルを上限に支給（20名程度）。
<http://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/scholarship>

◎江副記念財団奨学金（学術部門）

海外の大学・大学院等への進学希望者を対象に、年額上限 1000 万円支給（8名程度）。
<http://www.ezoe-mf.or.jp>
info@recruit-foundation.org

◎Funai Overseas Scholarship（学部留学）

海外の大学で学位取得を目指す日本人留学生に対し、年間3万ドルを、最長で学部留学中の4年間支給（若干名）。
<http://funaifoundation.jp/scholarship>
Tel : 03-3254-5635
info@funaifoundation.jp

◎孫正義育英財団奨学金

高い志と異能を持つ若者への支援を目的に、留学・研究等において生じる学費や生活費を支給。支援内容・金額・給付期間は選考過程で個別に決定（40名程度）。
<http://masason-foundation.org>

★グルー・バンクロフト基金による奨学金もある（p. 9 参照）

就職活動について

私たちが海外進学サポートをした生徒の約半数が現地の大学院や現地企業もしくは日系企業の海外支社に就職する。残りの半数は、日本に帰国し外資系企業や日本のグローバル企業に就職する。また、若干だが、他の国で活躍をしたり、自分の会社を立ち上げる卒業生もいる。しかし、海外大を卒業したからと言って就職が簡単であるわけではない。大学在学中にしっかりと学び、課外活動やインターンなどの経験を積むことも大切だ。就職活動では、大学で何をやってきたのかが問われる。

海外大学では、各国のリクルーターたちがグローバル人材を探している。大学や都市部では様々な就職フェアが開催される。下記は、日本企業が多く参加するフォーラムで毎年 1 万人が参加する。ライバルたちに差をつけるため 1 年生から顔を出す学生も少なくない。

ボストンキャリアフォーラム

**2021 年度は、世界最大の日英バイリンガルのための
就職・転職イベントを 4 ヶ月間オンラインで実施！**

企業の担当者に直接質問できるライブセミナーや、内定まで出る可能性のあるオンライン面接など、就活のどの段階の方でも活用できるイベント。また全てオンラインで進めることができるので、世界中のどこからでも参加可能！

2021 年参加企業一部抜粋

アクセンチュア、アシックス、アストラゼネカ、APPLE、アディダスジャパン、アマゾンジャパン、伊藤忠商事、Uber、SMBC 日興証券、SCSK、NEC（日本電気）、NTT データ、AIG 損害保険、AT カーニー、外務省、経済産業省、KPMG ジャパン、国際協力機構（JICA）、国際協力銀行（JBIC）、ゴールドマン・サックス・ジャパン、シティグループ、J.P. モルガン、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ、住友商事、セールスフォース・ドットコム、東京海上日動、日産自動車、日本銀行、Nintendo、ノバルティスファーマ、野村証券、博報堂、バンク・オブ・アメリカ、ファイザー、富士フィルム、ボストンコンサルティンググループ、丸紅、三井住友銀行、三井物産、三菱商事、モルガン・スタンレー…など

Harvard, Yale, Princeton & 東大

自分を知り表現するそのプロセスが 未来への道しるべに

柳津聡さん

灘高等学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学／
イエール大学／
プリンストン大学／
東京大学文科一類
進学先 ▶ ハーバード大学

高2から準備スタート目標と計画をしっかりと

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

海外在住経験もなく、英語を学びはじめたのも中学1年生からです。そんな私が海外進学という選択肢を知ったきっかけは、中学2年のときに同じディベート部に所属していた先輩が米国の大学に合格したことでした。そこから漠然と米国大進学を検討しはじめ、海外の模擬国連や米国大のサマースクールに参加するなかで、同年代の優秀な人材が世界から集う米国大の環境に魅力を感じました。最終的には、高校2年の夏に日米併願を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

海外進学を決断する前から、自らの興味分野である外交に関するニュースや文献に日常的に英語で触れ、楽しみつつ英語力を培いました。中高時代は主にディベート、模擬国連、生徒会に取り組み、全国大会や国際大会に出場しました。また、国際政治への関心を生かし、シンクタンクでインターンをしたり、外務省発行雑誌の論文コンテストで高校生初の最優秀賞を受賞したりしました。課外活動を行う際に受験を意識することが問題とは感じませんが、結局は自分が関心を持てる活動に取り組むのが良策だと思います。テスト類に関しては、中学の頃からベネッセのGlobal Learning Center (GLC)のオンライン講座で、TOEFL®およびSAT®(高2から)の勉強を始めました。GLCの講座は英語学習のよいペースメーカーになりました。高2の10月にSAT® Reasoningを初めて受け、高3の5月に再度受験して終了。SAT® Subjectは高3の6月にMath 2とPhysicsを受験しました。SAT®は公式ガイドの模試とKhan Academyの練習問題を反復演習することで、問題と解法をパターン化し、安定してスコアが取れるようになりました。これらのテスト類はほぼ足切りのようなものと考え、高3の夏前にテスト受験は終わらせ、エッセイに集中することにしました。

エッセイは高3の夏前からトピックを検討、8月から本格的に書きはじめました。9月から早期出願のための個別大エッセイを開始し、締め切りに間に合わせることができました。その後は、主に通常出願のための個別大エッセイ執筆が続きましたが、早期出願をした大学に運よく合格したこともあり、12月終盤の負担は相対的に少なく済みました。

東大受験の対策ができるようになったのは年始からですが、課外活動で培った英語力や社会に関する知識で無事乗り切ることができました。総じて、高2の夏から月ごとの目標をしっかりと決め、計画立てて駆け抜けた受験プロセスでした。

主観と客観のバランスで自分という人間を表現

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

共通願書のパーソナルエッセイの題材がまったく定まらずに苦労しました。最終的に10の異なる題材について草稿を書き、8つ目のトピックを本番に用いました。8月中に書いたエッセイはほぼ受験で使用せず、秋には焦ることも多々ありましたが、納得がいくまで悩み続けてよかったと思います。

また、高3時はエッセイ、テスト類、課外活動、奨学金といった心配事が多かったのですが、休息をしっかりと取って自分を追い詰めすぎないように努めました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

アプリケーションのそれぞれの要素でどのような自分の側面を見せているか、という各要素間の役割分担が心がけました。活動歴で述べた内容を単に繰り返すのではなく、そこから得た成長や見識をどう他の場面で生かしているか、その活動の裏にはどのような苦労があったのかなど、自分の成果をcontextualizeするようなストーリーがエッセイや推薦状で述べられていると、他の志願者との差別化につながります。

このように、僕はアプリケーションを俯瞰的・客観的に考える傾向がありました。しかし、最も重要な共通願書のパーソナルエッセイには、「他人が何を言おうとこれが自分だ」という強い感情がこもったエピソードを選びました。この主観性と客観性のバランスが自分という一人の人間を書類上で表すうえで大事だったと思います。

—— Route Hに入ってよかった点は？

私は関西に住んでいたため、主にSkypeを用いてエッセイのアドバイスを受け、出願締め切り直前には上京して対面で指導を受けていました。Route Hの講師やスタッフの方は妥協することなく、何十回もエッセイの添削をしてくださいましたし、そのアドバイスの中には大学合格だけでなく、生徒の将来を思ってこそその言葉も多くありました。また、同じ挑戦をする仲間と支え合えたことは大きな励みになりました。彼ら・彼女らとの縁をこれからも大事にしていきたいです。

理論と実践の両輪で国際政治を追究したい

—— 後輩へのメッセージをお願いします。

アプリケーションへの向き合い方に絶対の正解はありません。同じ大学に合格した生徒でも工夫した点は異なります。これを読んでいる皆さんも、できるだけ多くの合格体験談を読んで、自分の境遇に合いそうなものを参考にすればよいと思います。私にとっては、海外受験の核はいかに自分自身を表現するかを突き詰めることでした。自分をワクワクさせるものや、成し遂げたい夢、忘れられない記憶などに向き合い、それらに投影された自分だけの色を探していく。その過程で得られた気づきは、出願が終わった後も将来の道標になるでしょう。幸運をお祈りしています。

VOICE

Global Learning Center × Route Hで合格した先輩の声

Harvard, 東京外大、慶応 & 上智

強く、ブレない、
粘る気持ちで最後まで突っ走れ！

佐野月咲さん

筑波大学附属高等学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学／東京外国語大学／
慶應義塾大学経済学部／
上智大学外国語学部英語学科／
国際基督教大学
進学先 ▶ ハーバード大学

アイスホッケーでいざ、ハーバードへ

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

東京生まれの東京育ちで、留学経験もなく、高校2年の冬まで海外進学という選択肢すら知らなかったし、知ろうとも思っていませんでした。その高校2年の12月のことです。1年のとき初めて選出されたアイスホッケーU18日本代表メンバーから落ち、ホッケーをプレイしていく未来を考えたとき、海外に出るといった選択肢が初めて現実のものとして見えてきました。学問で知られているハーバードやイェールといった大学がスポーツでも名門であることを初めて知り、どのくらい大変かもわからないままアイビーリーグでプレイすることを目標にしたのが始まりでした。

—— 出願準備はどのように進めましたか？

主に、①アイスホッケーのチームに売り込み、アスリートとして入学を決めることと、②TOEFL®、SAT® Subject Test™で高得点を取ることに時間をかけた1年間でした。

アメリカのVarsity Sports(大学スポーツの代表チーム)では、コミットメントといって、一般の出願前から入学が決まっていることが多く、特にアイスホッケーは人気なので、Grade 9(日本の中学2年)からコミットしている人もいます。そのため、私が高3の春にアイビーリーグ各チームのコーチを訪ねたときは、次の入学年度とその翌年のロスタースポット(出場登録選手)はほとんど埋まっていました。

アイスホッケーをプレイできなければ元も子もないので、1年入学を遅らせることも視野に入れ、自分が出場した試合のビデオを送ったり、テストスコアを送ったりしつつ、7月にはハーバードとプリンストンのアイスホッケーキャンプに参加。また、たくさんの大学のスカウトが集まる大会にも出場しました。そのハーバードのサマーキャンプで、コーチ、スタッフ、雰囲気すべてに魅了され、身の丈も知らずに「自分にはこしかない」という思いが芽生え、何としてでも入ると決意したのです。

出願の意思を固めたのが高3の4月、そこからTOEFL®とSAT®ともに準備を始め、要求レベルのスコアにまで上げるのにラストチャンスまでかかりました。エッセイを本格的に書き始めたのは9月ごろです。

エッセイを工夫、文武両道を打ち出した

—— 準備で苦労されたことは？

SAT®は6月から1月まで計4回受け、最終的には最初のスコアから150点伸びました。最終スコアも決して十分なものではありませんでしたが、毎回着実に伸びていったのはプラスに働いたと思います。ただ、TOEFL®には苦戦しました。6月の初受験で80点。ハーバードの早期出願では100点に届かず、通常出願前のラストチャンスでやっとの100超えでした。TOEFL®を受けた回数は誰よりも多いと思います。Route Hで教えてもらった方法でリスニングとスピーキングを強化できたこと、最後まで粘ったことがよかったと思います。

エッセイは、今まで英語でしっかりと書いたことがなかったのですが、何度も何度も粘り強く教えていただき、最終的には自分の中の最高作がいくつかできたと思っています。

—— 願書全体で心がけた点を教えてください。

私の場合、自分の推しポイントがアイスホッケーに偏っていたので、他のイメージを伝

えるように心がけました。アカデミックな面、文化的な面が伝わるような構成です。どのエッセイをどのトピックで書くかを考えるだけでも、十分に願書のイメージが変わると思います。

覚悟ある前進で大きく拓けた世界

—— Route Hに入ってよかったことは？

何も知らない、経験もない私をゼロから育て上げてくれた場所です。Route Hの仲間と出会うことで、大きく世界が広がりました。今まで自分が経験したことのない世界を見ている人がいる。こういう人材が世界で活躍するんだ、とその価値観やあり方にとても刺激を受けました。出願日が近づき、一人ひとりにかかるストレスが増す中でも、同じ空間で意見を出しあい、言葉を交わし、家族のような感覚で過ごせたことが、この過酷な出願時期を私自身が楽しめた大きな要因だったと思います。

また、米国受験について何も知らない私に基礎から教えていただき、エッセイだけでなく、推薦状も、課外活動のことも、何から何まで相談させてもらいました。些末なことも親身になって考えてくれるので、本当に不安要素がなくなっていました。それに加え、たびたび指導に来てくれる先輩方からいろいろな話が聞けて、具体的なイメージをつかむこともできました。

—— 後輩へのメッセージをお願いします。

海外の大学に進むことにはそれなりのリスクも伴い、自分も家族にとっても覚悟が必要だと思います。同じ場所を目指す仲間も、持っているものはみなバラバラで、自分と比べられるものなんて1つもありません。自分自身をしっかり見て、自分の道を信じて、楽しんで進んでいくしかないのです。気持ちだけで何とかなるとは言いませんが、最後に自分を助けてくれるのは、強く、ブレない、粘る気持ちなのだと思います。

恥をかいてもいい、失敗してもいい、とにかく進めなきゃ！今は失敗だらけでも、ビリギヤルみたいになってやる！——私にとっては、そうと思っていた1年です。今を楽しんで、出会いを大切に、まわりの人への感謝を胸に、突っ走ってください！

VOICE

Global Learning Center × Route Hで合格した先輩の声

Columbia, U Penn & U Michigan

地方公立高校から、GLC+Route Hを 活用し、IVYリーグ2校合格

谷口友哉さん

愛知県立西春高校卒

合格校 ▶ コロンビア大学 /
ペンシルバニア大学 /
ミシガン大学

進学先 ▶ コロンビア大学

高3でも積極的に課外活動に取り組む

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高2のAIG高校生外交官プログラムです。出会った仲間の様々な興味や考えに刺激される日々を過ごし、大学は多様性溢れる環境で学びたいと思いました。柔軟な教育、英語を話す環境、自己主張が求められる文化にも魅力と成長の機会を感じ、米国の受験を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の秋から本格的に海外受験を始めました。10月にベネッセのGlobal Learning Center(GLC)に入り、そのおかげで、高3の5月までにSAT®やTOEFL®で満足する点数

を取れました。今まで課外活動も書道と高校生外交官プログラムだけだったので、高3に入ってからアジアサイエンスキャンプや「知の探究講座」など、積極的に校外プログラムに参加しました。これができたのも早期の内にSAT®やTOEFL®を終えることができたからだと思います。高3の半ばからは奨学金、Early、UC系、Regularと、目の前にあることに一つずつ取り組んでいきました。学校では国内に向けて、家ではアメリカに向けてと場所に応じてやることを切り替えるようにしました。

情報不足を痛感し、早めに情報収集を行う

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

地方在住ということもあり、必要な英語書類からCommon Applicationの埋め方まで知らないことだらけでした。調べたり、Route Hのスタッフの方より教えてもらった情報を自分の中で整理して、家族や先生方に説明、お願いすることを繰り返しました。周りも初めての海外受験にも関わらず、自分の進路に理解を示してもらい、最後の最後まで温かくサポートして頂いたことがとても有難かったです。早めの情報収集、また家族と学校との情報共有は両方ともとても大切です。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

最終的に自分が納得した状態で出すということを大切にしました。そうすれば結果がどうであろうと後悔することはないと思ったからです。自分が最も力を入れていたエッセイのテーマがなかなか決まらず、出願直前の数日間で8回も題材を変えました。結果的にそのエッセイを出した大学には落ちてしまいましたが、自分の中で考えぬいた末にたどり着いた方向性だったため、気持ちよくその結果を受け止めることができました。

—— Route Hに入ってよかった点は何ですか？

まずは共に海外進学を目指す仲間です。年末の大変な時期に、話せる友達がいなかったのは本当に心強かったです。また私は愛知に住んでいたため、実際に東京に行ったのは2回だけですが、Route Hで過ごした数週間が一番エッセイ執筆に打ち込むことができました。もちろん、志望校決定までのサポートやエッセイ指導もなくてはならないものでした。

Stanford, Wellesley & Seoul National U

地方の高校から久々のスタンフォード合格 SAT[®]は一挙に200点以上アップ

黄允珠さん

九州学院高校卒

合格校 ▶ スタンフォード大学/
ウェルズリー大学/
ソウル大学

進学先 ▶ スタンフォード大学

エッセイは出願直前まで書き直しの連続も何とか提出

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高1の時に担任の先生に勧められ応募した県のプログラムで、県庁の職員の方から海外大学を勧められたのがきっかけです。幅広い分野をとことん追求できるリベラルアーツの教育と世界中から集まった優秀な学生と共に勉学に励むことができる環境に魅力を感じました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

海外大学進学を考え始めたのが高1の冬で、実際に決めたのが高2の夏でした。海外大進学を決めてすぐにSAT[®]の勉強を始めましたが、最初は想像以上に点数が低く、一年

くらい伸び悩みました。しかし、コツコツと対策することでアーリー出願前には200点以上伸び、目標以上のスコアで出願することができました。SAT[®] subjectはMath 2とChemistryを高3の6月に受験終了。課外活動の面では、スピーチやボランティア、法律事務所でのインターンなど、自分が興味のある活動をするという事を意識しました。エッセイは高3の夏に少しずつ書いてはいましたが、エッセイ執筆を本格的に始めたのは9月末です。最初は何を書けばいいか、どのように書けばいいかも分からず、書いては消しての繰り返しでした。受験直前にエッセイのトピックを変えた時は焦ることもありましたが、それでも自分の満足するまで悩んで良かったと思います。

エッセイでは経験をどう活かすかも述べ、 ポテンシャルをPR

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

海外大進学を決めたのが比較的遅かったため、テストのスケジュールが大変でした。夏に韓国の大学の出願準備と課外活動で勉強する時間をなかなか確保できなかったため、エッセイと並行してSAT[®]をアーリー出願ギリギリまで準備していました。高3の秋くらいからはエッセイに集中することができるよう、その前に出来るだけ早めにテストなどは終わらせておくことが海外大受験成功のカギだと思いました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

願書の一つ一つで自分のどういう面をアピールしたいのかを考えるようにしていました。海外大学は生徒を総合的にみて判断するため、願書全体を通してどれだけ多く自分の魅力を伝えることができるかが大事だと思います。また、エッセイを書く際に、経験から学んだことを書くだけで終わらせるのではなく、どのように活かしたいかなどを述べることで、将来のポテンシャルをアピールすることを心がけました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

Route Hの講師やスタッフの方々が一人一人に寄り添い、最後の最後まで何度もアドバイスをして下さったことです。また、一緒に受験期を乗り越えるだけでなく、一生仲良くしたいと思える仲間に出会えました。Route Hはすべてのことに全力投球する仲間の頑張りや互いに認め合い、また高め合う雰囲気に溢れていると思います。

VOICE

お茶の水ゼミナール海外大併願コース × Route Hで合格した先輩の声

Harvard, Yale, Williams

楽しんでほしい

自己を知る者だけに見える「開かれた世界」

石井秀俊さん

筑波大学附属駒場高等学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学／
イエール大学／
ウィリアムズ大学 ほか

進学先 ▶ ハーバード大学

現地訪問で決意した刺激に満ちた米国大進学

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

高校2年の夏休み、まだ国内大を目指していたとき、毎日同じような問題を解き、すでに身につけた知識を再復習するような日々を続けざるを得ず、何か物足りなさを感じていました。そうしたなか、Route Hの尾澤さんと話す機会があり、海外大学進学という選択肢を意識するようになりました。消極的な理由で海外進学をするのはどうかと考え、そもそもなぜ大学に行くのかなど、自分に問うべき問いを考えはじめました。

—— なぜ海外大進学を決めたのですか？

上記のような経緯があり、高校2年の終わりに大学訪問に行きました。寮で交わされる

背景のまったく異なる学生同士の濃密な会話や、講義や議論で学生と真剣に向き合うことによって学問の面白さを伝えようとする教授たちとの出会いがあり、海外大を目指すことを決意しました。その頃、メルボルンのシンクタンクが書いた都市と住人の精神状態の関係についての論文と偶然に出会い、都市学に強く興味を持つようになりました。学際的なアプローチが必要な分野なので、海外進学への気持ちがさらに強まりました。

自分とは何者なのか自問自答で手にした成果

—— 進学準備について聞かせてください。

TOEFL®やSAT®はテスト形式に慣れるのには時間がかかりました。しかし、6～8歳までアメリカに住んでいたことや、国内大学のために文法や語彙をしっかりと勉強していたこともあり、比較的少ない努力で問題のない点数を取ることができました。

一方、漠然と専門職に就こうと考えていたこともあり、将来のことや、自分とは何かなどの問いを考えるのに大変苦労しました。それまで行ってきた課外活動の裏にはどのようなモチベーションがあったのかを整理し、その過程で自分という人間がどのように変わったのかを考えました。自分の中の普遍的な部分についても考察しました。

このような自問自答の日々の成果として、なぜ自分が都市に興味を持ったのかと言語化できるようになりました。自分の興味が明確であったことに加え、自分の軸が形成されつつあったこともあり、高校最後の1年間に行う課外活動は自然と決まりました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

アメリカの大学は“holistic”に自分という人間が見られると聞いていたので、自分の全体像がどうしたらAO(Admission Officer)に伝わるのか真剣に考えました。その結果、学校の成績や推薦状、APテストなどで伝わる自分の学業面についてはエッセイでは一切触れず、自分の他の側面を積極的に出しました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

毎日のように仲間と対話をする中で、かけがえのない友情を築くことができましたし、自己の発見という、迷い込んでしまうような冒険の中で、一步一步確実に進むことができました。また、海外大進学という日本の高校では一般的ではないものを身近に感じ、自分が経験したことがない考え方にも触れる機会を先生方が与えてくれました。現在の「自分」はRoute Hの仲間や先輩方、先生方なしには存在しません。

世界一恵まれた環境で学問を究め、成長したい

—— 4年間の大学生活、どう過ごしますか？

学業面では、都市についての授業をHGSD(Harvard Graduate School of Design)で取り、さまざまな側面から多様で複雑な都市について考察するとともに、これまで触れたことのない分野の授業も積極的に取って視野を広げたいです。分野や進みたい道によっては高度な専門性が欠かせない場合もあると思いますが、専攻分野を決めたら、そのrequirement以上にその分野を深めるのか、あるいは未知の他分野の考え方・フレームワークに触れ、違う観点から自分の専門を見る努力をするのか、について真剣に考察する必要があります。现阶段では後者にするつもりです。

授業外では、高校時代と同様、研究をしたいと考えています。人間がどのように知を進歩させてきたのかを垣間見ること、つまり人類の根本的な原動力を知ることは、将来研究者になるか否かに関わらず、重要なことだと考えています。ハーバードには世界中から面白い研究をしている教授が集まっています。その指導が直接受けられる環境を積極的に利用して、自身を最大限に成長させていきたいです。

恵まれた環境にいる者の義務として、世の中への還元もしていきたいです。Public Serviceが盛んなハーバードにおいて、同志を積極的に見つけ、一人では解決が難しい大きな課題に向かって皆で果敢に挑戦し、よりよいコミュニティを築きたいです。

—— 後輩へのメッセージをお願いします。

何事を行うにしても、自分の興味や信念に沿って真剣に真摯に取り組むと、興味の追求だけでなく、自己の追求ができると思います。そのような過程を経た者だけに見える「開かれた世界」を楽しめるといいます。

VOICE

お茶の水ゼミナール海外大併願コース × Route Hで合格した先輩の声

Wellesley, UCLA & 慶應大法(政治)

ディベート世界大会始め様々な活動に注力 お茶ゼミ・Route Hで学び、最難関女子大に合格

石川満留さん

渋谷教育学園渋谷高等学校卒

合格校 ▶ ウェルズリー大学 /
UCロサンゼルス校 (UCLA) /
慶應大法(政治学科)

進学先 ▶ ウェルズリー大学

高3前半は志望分野に直結した活動に取り組む

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

4歳までニューヨークに住み、姉が海外大学に通っていますが、進路の決断に恐れを抱いたまま、高2の5月まで漠然と国内大学進学を考えていました。しかし、高2で様々な国際大会に出場し、実際に海外大学を卒業された方々にお会いした中で、自分の興味ある国際関係学(特に東アジアの外交情勢の客観的分析)やジェンダー学がアメリカで発達していることを知り、必然とアメリカの大学に惹かれていきました。また、ディスカッションベースの授業や教授との連携が密という今までにない教育体制に魅力を感じ、深化した英知や考察力を会得でき、さらに多様な文化・人種・価値観が存在する中で人間的にも成

長でできると思ったので海外受験を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

課外活動は好きなこと、挑戦したいことを行っていました。比較的校内と外部の活動のバランスが良かったと思います。学級委員長を高校3年間や剣道を6年間やり、中3から始めた模擬国連や英語ディベートでは日本代表として様々な世界大会に出場しました。幸い、海外大学を意識していなかった時期に受賞歴がある程度確保したので、高3では専攻に関する活動、高校生G20サミットの立ち上げや政治系インターンなど、独自性のあるものを展開することができました。

テストに関しては、TOEFL®よりSAT® Reasoning対策に圧倒的に時間を費やしました。読むスピードが遅く読解で苦しんだので、お茶ゼミのSAT®対策で、分野ごとのミスの傾向を分析したり、先生との個別質問では解いた過去問で分からなかったところを毎週限なく聞いたりしました。またSAT® Subject Testsも伸び悩んだため、テスト類に掛けた時間が多くなってしまいました。とにかく回数と解き直しを重ねていました。

私の場合、エッセイは段落構成などを念入りに計画した上で書き始めるタイプだったので、とにかく題材とテーマの組み合わせ選別に集中しました。夏休み中はひたすらプレストと下書き作成。そこからCommon ApplicationやSupplement Essaysに何となく分けて時期ごとの比重を変えていました。エッセイを沢山書いたものの、自分の表現技法のスタイルが定まったのが9月後半から10月前半と遅い時期だったので、その後は猛スピードで磨きあげに取り掛かりました。

課外活動とのバランスに留意したエッセイ戦略

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

高校のGPAで悩むことはなかったですが、私は8月9月にAO入試、学校の勉強、エッセイに加えて高校最後の課外活動であったインターンをこなしていたので前持った計画の維持に苦労しました。またSAT® Reasoningの点数が伸びず最後まで受けていたので全て片付いた先にRegular Decisionが迫り、深夜までエッセイを書いていた時は、精神管理と体調管理に細心の注意を払っていました。Short Supplement Essaysのインパクトの付け方が難しく大変苦労しましたが、Route Hの先生方に逐一相談し不安を解消していました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

活動一覧や推薦状で受賞歴など華々しい側面をみせたので、エッセイでは個人的エピソードを軸にしたり、専攻や興味ある学問分野への情熱を語ったりし、バランスの取れた多面的な要素を盛り込んだ点です。例えば「剣道で見出した自分に打ち勝つ精神」や「外交姿勢がもたらすイメージと個人への影響への葛藤と解決策」など自分の核となる部分を表現できました。また、あくまでも自分のエッセイなので自身が描写したい納得するものを作成することが大前提ですが、他者から見た自分の姿からも新鮮なアイデアを得ることができるので家族や近い友達に他己分析をお願いしました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

言わずもがなですが、エッセイの題材プレストからストーリー展開、書き方の基礎を丁寧に指導して頂いた点です。相談しながら書き進められる環境は英語力の向上だけでなく、自分をオープンに見つめるのに最適でした。また先生方だけでなく、受験中のもどかしさや焦りを共感しお互いのストーリーに耳を傾ける友人に出会えた素晴らしさ、アドバイスをくださる先輩との交流の全てが良かったです。Route Hコミュニティの一員になれて本当に嬉しいです、大変感謝しています。

Harvard, Yale, Princeton, Stanford & 東大

地方出身・純ジャパ生が、ハーバード、イエール、プリンストン、スタンフォード全てに合格

小野祐さん

甲陽学院高校卒

合格校 ▶ ハーバード大学／イエール大学／
 プリンストン大学／スタンフォード大学／
 カリフォルニア大学バークレー校／東大
 進学先 ▶ ハーバード大学

多彩で光る課外活動、 エッセイは年末に集中して仕上げる

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

中学・高校の英語の先生(学年の担任でもありました)が、海外大学の受験に詳しく、中学の頃からなんとなく話は聞いていました。チャンスがあれば受験しようと思っていました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

■エッセイ: エッセイに取り組み始めたのは、早期出願1カ月前の10月ごろでした。帰国子女ではなく、英語もそこまで得意ではないので、もっと早く始めておけばよかったと後悔しました。早期出願後は国内受験に集中していて、早期出願のMITに不合格となった後、レギュラーのエッセイを書き始めたのが12月25日あたりでした。そこから1週間ずっとエッ

セイを書いて過ごしました。共通テストも近づくなか、年末年始をエッセイ漬けで過ごすのは健康面でも精神面でもあまり良くなく、もっと早くやっておけばよかったと後悔しました。しかし、ルートHの先生方は年末でも丁寧に指導してくださり、本当に助かりました。エッセイについては添削だけでなく、ときどきマイケル先生や尾澤さんが関西に来られた際にアドバイスをいただけたのもよかったと思います。エッセイの内容については、課外活動の欄で詳述しています。

■テスト: 高2の12月に友人からSAT*を受けなくてはならないことを聞き、急いで調べたところ2週間後にテストが控えていたので早めに対応できそうなSubjectを申し込みました。Physics, Math1, Math2を受けて全て800点でした。1月にはTOEFL*IBTを受け、こちらは111点でした。TOEFL*については学校の英語の先生がユニークな方で、授業でTOEFL*を扱っていたので高得点を取れたのではないかと考えています。スコア開示後にマイケル先生に相談したところ、この点数で十分だとのこと意見をいただいたので、TOEFL*及びSAT* Subjectはその1回のスコアを提出することに決めました。SAT* Reasoningは高3の春のテストがコロナの関係でなくなり、高3の8月が最初の受験でした。何も勉強しないで望んだところ1440点(英語640点、数学800点)だったので、さすがにまずいと思い、9・10月のテストはOfficial Guideの練習問題を解いて臨みました。9月のテストで1520点(英語720、数学800)、10月のテストで1540点(英語740点、数学800点)だったのでこれらのスコアを提出することに決めました。ちなみに、プリンストンとイエールには間違って最初の低いスコアも送ってしまったので、受験末期に少し心配していました。

■課外活動: 高校時代は主に物理オリンピックに参加していて、国際物理オリンピックの代表(大会はコロナで中止)とヨーロッパ物理オリンピックの金メダルが大きな実績です。科学分野では、数学オリンピックで全国大会に何度か出場しているほか、2019年に中国で開催されたアジアサイエンスキャンプに日本チームとして参加しました。部活動では、中学時代にバスケット部のキャプテンとして県大会3位まで進んだほか、高校ではグリーン(男声合唱)部のパートリーダーを務め、こちらは近畿大会まで進みました。他にも物理部の部長として後輩指導を行っていました。学校内では、中学で運動部会長、文化祭実行委員長を務めたほか、高校では生徒会長を半期務めていました。出願の際は、これらのことを課外活動の欄に書きました。一方で、エッセイに利用した課外活動は主に以下の2つです。

・カラスの研究: 私は小学校から中学校までの8年間カラスの研究を行っていました。この研究では科学的な観点で優れているだけでなく、社会に貢献できる(例えば私の住んでい

た市のゴミ漁り被害を激減させた、など) 研究でもありました。その点で、科学を社会に貢献させていきたい、といった文脈のエッセイで説得力のある事例になったと考えています。

・物理オリンピックオンライン交流会：2020年は、コロナの関係で物理オリンピックでもオフラインのイベントが全て中止となってしまいました。そこで、私は友人と協力して、物理オリンピックの参加者や物理オリンピックに興味を持つ中学生のためのオンライン交流サーバーを開設しました。これにはかなりの反響があり、最終的に数百人の小中高生及び大学生が参加してくれました。物理オリンピックの実績だけだとやや個人技な印象を与えますが、この活動をエッセイで紹介することで、コミュニケーション能力やリーダーシップ、フォローシップ、チームワーク、もう少し踏み込んで「他者を巻き込んで科学的なことを追求する意欲・能力」があると示すことができたと考えています。

周りのサポートを信じて 自分の最高の目標に向かって挑戦を！

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

エッセイに苦労しました。私はスケジュール管理能力が非常に低く、かつ多くの帰国子女のように英語をスラスラと書けるわけではないので、締め切り直前にカンヅメ状態でエッセイを書くということが何度もありました。これから受験される皆さんの中で、英語でのエッセイ執筆に不安があるという方は、高1・高2でも一度実際に使われているプロンプトに従ってエッセイを書いてみて、どれくらいのペースでどれくらいの質のものが書けるのか、試してみる(自分の力を把握する)といいと思われます。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

私は留学を決めた時点で自分の願書がどのような構成になるのか大体イメージが固まっていました。つまり、物理をはじめとする数理科学への熱意を中心に、そしてその周辺で例えばチームワークやリーダーシップといった仲間を巻き込んでアクションを起こせる/起こしたいという実績/意欲を示すことで、単に「一人で難しい勉強をしている日本人」、ではない私のキャラクターを示すというものです。このような考えが明確にあったからこそ、レギュラーの全エッセイを1週間で書きあげることができたのかもしれませんが(詰め込みは良くないことですが)。

—— 海外トップ大進学を目指す高校生へのメッセージをお願いします。

海外の、特にトップ大学を目指すみなさんには、ぜひ可能な限り挑戦を続けることを心が

けていただきたいです。逆に言うと、変な戦略的思考に陥らないでほしいです。私は早期出願でMITに出願し、それは落ちてしまいましたが、レギュラーでハーバード、プリンストン、イェール、スタンフォードに合格できました。MITに落ちたときは、例えば「早期とレギュラーで合格率の変わらないMITに出すくらいだったら、早期出願の合格率の高いハーバードやスタンフォードに出しておけばよかったのでは？」と何度も思いました。しかし、早期出願でそのような安全策をとっていたら、レギュラーでの複数校合格はなかったはずですが。これは結果論かもしれませんが、科学を志す者として、その最高峰のMITに可能な限り挑戦したからこそ、(その挑戦は失敗したもの) 考えもしなかった結果を得ることができました。もし早期出願でハーバードに合格したとしても、挑戦を諦めたことにきっと後悔していたと思います。そんな挑戦が可能になったのは、学校はもちろん、ルートHでのエッセイ指導等のサポートがあったからこそです。つまり、そうしたサポートがあれば、どれだけ困難な挑戦であったとしても、きっと最後には「よい」結果が得られます。今これを読んでいる皆さんはそれほどの支援を受けられる機会を得ている/得ようとしているということです。ですので、周りのサポートを信じて、自分が思い描く最高の目標に向かって挑戦して行ってほしいと思います。

Harvard & Oxford

ハーバード・オックスフォードにダブル合格
米英大入試の違いを踏まえた戦略が奏功

R.Y.さん

American School in Japan 卒

合格校▶ ハーバード大学／
オックスフォード大学

進学先▶ ハーバード大学

米英大併願のまさにお手本
成績重視の英国大、多面的総合評価の米国大

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

親の仕事の関係でインターナショナル・スクールに通っていたので、機会があればアメリカやイギリスの大学で多種多様な人々と技術や価値観などを議論し多面的視点を身に付けたいと思ったことです。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

アメリカとイギリスの受験は分けて準備しました。イギリスの受験は成績重視のため、高校1年からAP、SAT®、数学オリンピックの準備をコツコツと進めました。イギリスの場合は、最初から自分が何を専攻したいのかを明確にして受験しなければなりません。テストやインタビューを通して、人間性やリーダーシップよりも学術的理解の深さを試すため、

この様な準備をしました。一方、アメリカの受験は『holistic review』のため、自分の個性や学問外の資質を表現することが重要です。そのため、高校4年間は色々な課外活動に取り組みました。学校の数学サークルの創設、大学教授との統計学の共同研究、国際哲学オリンピックでの入賞、ボランティア活動、AIベンチャーでのインターンなどの様々な経験を伝えることにより、自分の興味分野や価値観を表現しました。課外活動を『大学入試』の為よりも『自分の興味』を中心に選んだため、より自分らしさを表現できる願書を書けたと思います。

米国大受験は、過去を省み、
自分自身をより理解する素晴らしい経験

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

アメリカの受験は日本の入試とは違い、偏差値のような、客観的かつ分かりやすい指標がないため、自分の活動がどう評価されるかがとても不安でした。SAT®、TOEFL®、課外活動とエッセイ、全て頑張っても不合格になる場合もあります。しかし、私にとってアメリカの大学受験は、自分自身をより理解する機会でした。自分の価値観、夢、未来のビジョンなどを深く考え、過去を省みる素晴らしい経験でした。『入試』から『学ぶ機会』と思考を変えるだけで、不安を克服できました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

皆さん『Common App』のパーソナルエッセイで自分をどう上手く表現するか、これから苦労されると思います。良く聞くアドバイスが『「AOに自分の何を知ってもらいたいのか」を考えること』ですが、そう言われても正直よく分からないと思います。この様なアドバイスに素直に従うと、課外活動の具体的な内容説明中心のエッセイになりがちで、他の願書と重複してしまいます。パーソナルエッセイでは、他の願書で表現していない自分の新たな面を知ってもらうことを心がけました。様々な経験を通して起こった自分の考え方の変化／進化を伝えようと決めたら、パーソナルエッセイのテーマは自然と出てきました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

エッセイ指導です。自分のエッセイを客観的に評価してくれる第三者がいて良かったです。ネイティブ講師と一緒にアイデア出しの段階から仕上げまで、数々の議論を通し、自分自身の表現をより上手くできたと思います。もう一つはRoute Hを通して作れた仲間です。受験は色々大変でしたが、互いに励ましあう仲間がいたことは非常に幸運だと感じています。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Yale, Brown, Northwestern, Williams, Pomona, Georgetown, Yale-NUS

模擬国連＋研究＋プログラム立上げに注力。 イエール、ブラウン他、多数の大学に合格

棚澤哲さん

駒場東邦高校卒

合格校▶ イェール大学／ブラウン大学／ノースウェスタン大学／
ウィリアムズ大学／ポモナ大学／ジョージタウン大学など
進学先▶ イェール大学

模擬国連の受賞に満足せず、 研究を開始。さらに研究プログラムを立上げ

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

中学生の頃に、親の仕事の関係でイギリスの学校に1年間通っていました。そこで進学先を自然とイギリスの大学に定めていたのですが、日本に帰ってきてからアメリカの大学も選択肢としてあることを知り、より専攻などがフレキシブルなアメリカの大学に進学したいなと思うようになりました。また、コロナ禍の中で日本の大学受験の勉強をするよりも高校3年生の年をもっと自分の興味のあることに使いたいと思い、国内大学受験はしない決断をしました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

高校生活を通じて模擬国連とスピーチに取り組んでいました。しかし、高2のある模擬国連の会議で自分のこれまでの活動が少し言葉だけになっているのではないかと無力感を感じ、それから180度方向を変えて、生分解性プラスチックの研究を始めました。同時

にまた、その中で理系と文系の垣根が高いことに違和感を持ち、その垣根を取り払うことを目的とした高校生向けの研究プログラムを立ち上げました。このように自身の気づきや感情に基づいて課外活動を高校では進めていたため、出願する際にはそのストーリーが示せるようにエッセイを書いたり、他のアプリケーションの部分を埋めていました。結局出願が終わった今でも研究プログラムの運営は続けており、受験の中でも自分の好きな活動を続けられたのはとてもよかったと思います。

時間管理とエッセイに始めは苦勞するも エッセイでは自分を素直に伝えることを実現

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

前に書いた通り、高校3年生で課外活動に時間を多く費やしていたこともあり、時間管理に苦しみました。初めは高3としてアメリカ大学受験のタイムラインがあまりわかっておらず、エッセイ執筆などを少し軽視してしまっていた部分もあると思います。途中でエッセイの数が増えたり、僕の場合はSAT® Subject Testで苦戦したりと予想外のことも出てくるので、計画を立てるときには自分が想像しているよりもだいたい余裕を持って計画をするといいと思います。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

エッセイなどに共通することですが、自分をいかに素の状態で描けるかだと思います。アメリカの大学を受験するときに最も大切なのはユニークさです。そこで自分をよく見せようとする、または本当とは違う姿に見せようとする、その作業の段階で自分を既に存在している何かに近づけようとすることでユニークさが失われます。そのため、受験では自分の悪い面も理解した上で良い面を最大限素直に伝えることを心がけました。また、他にもエッセイはAO(入学審査官)との会話に近いものだと感じたため、AOと実際にZoomで話してみるなどして読み手を意識してエッセイを書くことを意識しました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

やはりエッセイ指導が一番大きかったです。エッセイをそれまで書いたことのなかったため、エッセイの基礎を1から学ぶことはとても重要でした。単にエッセイを指導してもらうだけでなく、自分について話して価値観や経験を知ってもらうことによって、よりパーソナルなフィードバックをもらうことができました。また、自身の周りには海外大学を目指している人がほとんどいなかったため、周りに同じような目標に向かって努力している友達がいることはRoute Hに入ってよかった、とても大きな要素でした。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Princeton, Williams & Imperial College London

20校に出願。エッセイで苦勞するも プリンストンを始め、米英トップ大に合格

黒田凜さん

広尾学園卒

合格校 ▶ プリンストン大学 /
UCバークレー /
ノースウェスタン / ウィリアムズ大学 /
インペリアル・カレッジ・ロンドン (ICL)
進学先 ▶ プリンストン大学

SAT® は早めに開始。課外活動は 物理学・生物学を中心に幅広く取り組む

—— 海外進学を考えたいきっかけは何ですか？

日本にあるイギリスのインターナショナルスクールに通っていた小学生時代は、漠然とイギリスの大学への進学を考えていました。中学受験を経て、多くの生徒がアメリカの大学を目指す環境で生活していくうちに、日・英・米の三ヶ国への進学を視野に入れるようになりました。最終的には、イギリスとアメリカの大学に併願しました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

SAT®は高1の10月から受け始め、高2の10月の3度目の受験で目標スコアに到達しました。Khan Academyの練習問題やErica Meltzer著の解説本などを使って、Reading

とWritingの点数を伸ばしました。SAT® Subject Testは高2の11月にMath Level 2とChemistry、高3の8月にPhysicsを受験しました。TOEFL®は高2の11月に受けました。僕の高校はAPテストも実施していたので、高2と高3の5月にそれぞれ何科目か受験しました。高校時代は、僕が好きな物理学や生物学を中心に、課外活動を行いました。互いに自らの興味分野の授業をするゼミ形式の活動、イェール大学の生物学の講義の和訳、そしてハーバード大学で物理学のPh.D.を取得したメンターとの量子コンピュータの学習と利用に特に力を入れました。たくさんの人たちと色々な経験をしたいという思いから、科学に様々な形で関わってみることを心がけていました。他にも、ビジネスコンテストや哲学の大会にも参加しました。Route Hのサポートを受け始めた高3の6月以降、しばらくの間、良いエッセイを書く上での基礎(トピックの決め方、構成、テクニックなど)を教わりました。8月頃からCommon Applicationのエッセイを書き始めましたが、納得のいくトピックを見つけられたのは10月下旬で、早期出願にはギリギリとなりました。同時に、イギリスのPersonal Statementも書き、10月中旬に出願しました。11月はUCのエッセイ、12月はRegular Decisionの各大学のSupplementary Essayを書いていました。

より早く始めておくべきだった 大学情報の収集とエッセイ

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

アメリカの出願校のSupplementary Essayを高いクオリティで書き切ることに苦勞しました。僕はアメリカの大学を20校受験しましたが、そのほとんどのSupplementary Essayを出願期限の1~2週間前から書き始めました。結果として書き切るのは全てギリギリになってしまいました。各大学の情報収集や各大学が求める学生像を把握することに時間がかかり、なかなかエッセイを書き始められなかったのです。今振り返れば、夏頃からこれらの情報収集をより入念に行っておけば、出願校も絞ることができ、少しは余裕ができたと思います。ひとえに僕のナマケモノな性格のせいですが、同時に窮地に立たされた時の発想力もエッセイで発揮できたので、ギリギリでこそその楽しさも感じてしまいました(決しておすすめはしません)。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

エッセイを通して自分の過去、現在、そして将来の人物像を伝えることを心がけました。過去の行動原理と現在の情熱と将来の目標の繋がりが、人間関係を通した心の機微や成長

など、様々な側面を見せるようにしました。エッセイの内容によって、論理的・感情的な語り口を使い分けたり、描いている「自分」との距離感を変えてみたり、文章の書き方も工夫してみました。また、各大学の特徴・性格によって、僕について強調することを少しずつ変えたりしていました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

先生と友人の存在です。クリエイティブな文章を書いた経験をあまり持たない僕にとって、良い文章の書き方をご指導いただけたことは財産となりました。先生との対話を通して、僕が本当に伝えたいことを、短く洗練された文章に削っていく引き算の時間が面白かったです。夏休み明けにRoute Hに登校可能になってからは、友人たちとエッセイを読み合ったり何気ない話をしたりして、自分のエッセイに磨きをかけるだけでなく、ポジティブな気持ちで最後まで受験に挑戦することができました。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

MIT, UCSD & UIUC

ロボット製作等を強みにMITに早期合格。 併せて財団奨学金も取得

長島大来さん

渋谷教育学園幕張高校卒

合格校 ▶ MIT /
UCサンディエゴ /
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

進学先 ▶ MIT

成果の出ない時期もあきらめず、ロボットにこだわる。 助言者を増やすことも大切

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

小学校の時から考えていたので、違う環境は面白そうだな、という当たり前の事がまずはあったと思います。また、自分がやりたい生物模倣ロボットは明確に盛んな所が分かり、それが主にアメリカの大学だった、というのも大きかったです。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

中学の頃から生物模倣ロボットという明確な興味があったため、ロボット製作にひたすら取り組んでいる毎日でした。また、大会、発表会などの機会があると、勝つ、というよりは、可能な限り共有する、という目的で、どんなものでも必ず参加はしていました。高2

の時に学年通信に掲載されたサイエンス・メンター・プログラムに応募したことをきっかけに、東工大のメンターの先生、JSECなどを紹介していただいたので、助言をしてもらえ人を出るだけ増やす事がまず大切だと気付きました。高校の途中までは実績として認められる事はなかったものの、自分のこだわりを信じて、カブトムシロボットでやっと明確な結果が出ました。また、干潟でボランティアなど、ロボットとは関係がないものもするようにはしました。一つの事に集中しすぎても違う視点から見えなくなるので、ロボットから一歩離れるいい機会でした。

自分以外の人を書けそうな文章は必ず排除。 結果、個性的なエッセイが完成

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

実際にアプリケーションを書く段階では、悩みすぎる、という畏にはまらないようにするのが最も大変だったと思います。短いエッセイを書くとなると、どうしても細かいところにこだわりたくなり、逆に大まかな流れが見えなくなって、文章がうまくてもエッセイ全般はよくない、という事が良くありました。自分がどんなに好きな言い回しや内容でも、消さないといけない時は消すことが大切だと思います。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

SAT®や成績などの絶対的な評価以外のところは、自分以外の人を書けそうな文章は必ず排除、という目的で臨みました。こうすると、自分が書いたものを全部消すのが何回も繰り返されたのですが、最終的にはとても具体的に個性的なものが出来上がったと思います。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

自分で自分のエッセイを読むだけでは、明らかな事や、逆にわかりづらい事を見つけるのは不可能で、これを客観的な視点からすぐ見られるのが最も助かりました。これは、アプリケーションの様々な要素をストーリー化させるという非常に大切な事につながりました。後、文字数制限内で言いたい事が通じるかどうかすぐにわかったので、無駄な時間を大幅に削減できました。また、先生とは別に、海外大に出願を目指す仲間がいて話合えるのはとても励みになりました。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Caltech(graduate & undergraduate), Stanford, Yale & Cornell

高校から米国トップ大の大学院に合格の快挙。 スタンフォードやイエールにも合格

金子生弥さん

つくば開成高等学校卒

合格校 ▶ カリフォルニア工科大学(大学院・学部) / コーネル大学 / デューク大学
スタンフォード大学 / バージニア大学 / イェール大学

進学先 ▶ カリフォルニア工科大学(大学院)

中学時代から数学の論文を書き、 高校時代は、海外大の教授とも研究を進める

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

自分の専門は数学です。数学の研究を進めて経験を重ねていく中で、日本の大学は自分とは相性が良くないと考え始めました。主な理由は、日本には自分の専門分野における適切な教授がいないことと、学部において専門的な研究をする制度がないことです。自分は米国出身であるため、米国の大学で学びたいという思いもありました。中学生の頃から専門的な論文を書き始めたため、高校から直接大学院に進学可能であると思っていました。しかし尊敬するプリンストン大学の教授に質問したところ、学部で学問領域を広げるのも重要とのことで米国大学の学部への入学を勧められました。よって最初は米国大学の学部に入学した後に、その教授に師事するためプリンストン大学の大学院に進学するという目標を立てましたが、結果的にはCaltech(カリフォルニア工科大学)からは学部のみならず大学院への直接入学の許可を頂くことができました。Caltechにも自分の専門分野にお

ける極めて優秀な教授陣がいらっしゃるため幸運でした。

強みを伸ばす戦略を徹底。 SAT[®]、GREの免除も追い風に

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

高校2年生の1月からSAT[®]の勉強を始めましたが、コロナの影響で多数の米国大学はSAT[®]やSAT[®] Subject Testsを必須項目としないことが分かりました。これによりSAT[®]を受験しない方針で考え始めましたが、更にTOEFL[®]の勉強に割く時間も自分にとって有意義でないと考え、SAT[®]とTOEFL[®]が必須でなく、自分の専門分野において著名な教授が在籍するスタンフォード大学を学部の第一候補にしました。準備を進める中で最終的に第一候補としたCaltechの大学院に関しては例年GREが必須でしたが、コロナの影響で受験する必要がありませんでした。中学校・高校時代は自分が好きな数学を中心に課外活動を行いました。中学時は数学オリンピックの合宿メンバーに選出されることもありましたが、最前線の研究にはあまり参考にならないことから、その活動はやめました。中学校から高校までの間に7本の論文を執筆し、その内6本は研究者が利用するarXivに投稿して3本は一流数学誌にアクセプトされました。これらの業績から孫正義育英財団の第3期生として選出されました。財団生として選ばれたことで、米国の大学における財政的な懸念はなくなりました。結果的にはCaltech大学院での授業料・生活費は全額大学側の負担となりましたが、大きな心配の1つがなくなったことは心理的に余裕ができました。またホームページを作成するなどして自分の活動を多くの研究者に知って頂くために努力しました。コロナの影響で数学の学会はオンラインで開催されていたため、受験期間中にも週1回～2回程度のペースで参加して知識を増幅しました。これらの活動が出願する際に課外活動として重要な役割を果たしました。様々な分野の数学者に連絡するなどして、特に米国・欧州での人脈を広げることに注力しました。有名大学の教授と親しくなることによって、エッセイの話題が見つげやすくなり、更には推薦状も書いて頂きました。お世話になった米国大学の教授からCaltechの大学院を直接受験しないかとの話が出てきました。大学院に出願するためには3件の強力な推薦状が必要であったため、多数の数学者と深い人脈を築くことができたのは幸運でした。Route Hに入塾した高校3年生の5月以降暫くの間、質の高いエッセイを書く上での基礎を教わりました。8月下旬からCommon Applicationのエッセイを書き始め、Route Hを介して多数の修正をして頂きました。早期出願には余裕

を持って間に合わせるつもりでしたが、結局出願したのは締め切り当日でした。10月、11月は数学研究や学会発表に注力し、12月はRegular Decisionにおける各大学のSupplementary Materialsの準備をしました。大学の応募締め切り後に行われるインタビューについては沢山の要請を頂きましたが、多忙であることを理由に2校を除いて全てお断りしました。実際、受験準備のために高校卒業までに仕上げる予定であった論文執筆に数ヶ月の遅れが出ておりました。

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

出願校のSupplementary Essayを高いクオリティで書き切ること苦勞しました。自分はCaltechの大学院も含めて13校受験しましたがその殆どのSupplementary Essayを出願期限の1週間～2週間前から書き始めました。結果として全て書き切るのはギリギリになってしまいましたが、殆ど全てのエッセイを10回以上修正して頂きました。各大学の情報収集や求められている学生像を把握することに時間がかかったのが、エッセイを書き始めるのが遅くなった理由です。特に注意したのは、出願校に所属する自分の専門分野における教授の情報を網羅的に調べることです。指導を受けたい教授の名前、その研究内容、自分の研究との関連、将来展開をエッセイに具体的に書き込めるように努力しました。このことは大学での研究生活を現実的に想像する良い訓練にもなりました。結果的には、自分が知っている教授が在籍する大学には合格し、リベラルアーツ教育重視で自分の専門に近い教授がいない大学には不合格でした。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

全ての合格者は主に2つの範疇に類別できると思います。1つ目はwell-roundednessを重視していて幅広く豊かな才能のある人です。2つ目はある1つの事柄に関して顕著な業績がある人です。僕の場合は後者に分類されます。Caltechの様な実績に着目する学校は後者の出願者を合格させる傾向にあるため、自分はエッセイを通して数学の話題のみに絞り、今までの実績、そして将来の自分が目標とする研究者像を伝えることを心掛けました。しかし多くのトップ大学はwell-roundednessを重視しているため、各々の大学が想定する学生像に沿って、数学についての記述を弱めて、自分について強調する内容を少しずつ変えました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

Michael先生やスタッフの方々のサポートです。入塾まで独創的なエッセイを書いた経験を持たない自分にとって、良い文章の書き方をご指導頂けたことは財産となりました。先生方にはエッセイ以外にも、様々な出願項目について助言を頂きました。自分のエッセイに磨きをかけるだけでなく、ポジティブな気持ちで最後まで受験に挑戦することができました。

Columbia

四国(愛媛)の高校からIVYリーグに早期合格。 道後での活動は地方生の課外活動のヒントに

田村彰悟さん

愛光学園卒

合格校▶ コロンビア大学

進学先▶ コロンビア大学

出願エッセイはブレスト・ドラフト段階で、 ノート15冊を使用。

—— 海外進学を考えたいきっかけは何ですか？

5歳から小学校2年生までの3年間をアメリカで過ごしたのですが、放課後よく遊びに行っていた近所のおじいちゃんおばあちゃんに大学の先生が多く、大きくなったらこの雰囲気の中で学びたいな、という想いが当時から臍気ながらありました。ずっと「何となく」のふわっとした想いだったのですが、多くの幸運に恵まれ、高校2年生の終盤に海外進学が現実的な選択肢として見えてきたため両親や学校の先生とも話し合い、海外大学受験に挑戦する決意を固めました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

僕は松山市内の高校で寮生活を送っていたので、道後温泉が学校からすぐ近くにありました。小学校時代は学校内に温泉があったり、実家のすぐ近くにも多くの温泉があったりと何かと温泉には縁があり、折角松山に住んでいるのだから、と毎週のようにせっせと

道後通いをしていました。しかし入浴料が高いため毎回温泉に入るわけにも行かず、商店街を回ってみたり、周辺の寺社・城跡等を回ってみたりと一味違った道後の楽しみ方を開拓していきました。その過程で商店街の方々や神社の神主さんと仲良くなり、町の歴史について教わっていく中でますます道後への愛が深まりました。時には寮の友人を誘って一緒に歴史スポットを回ってみる、などとしているうちに道後の魅力、とりわけ歴史についてより多くの方々に知っていただけないだろうか、入浴+ショッピングという既存の道後観光の方程式にもう一つ、「歴史の堪能」という項を付け足すことができたらなんて素敵だろう、と思うようになりました。そこで友人とともに多言語での道後の歴史にフォーカスしたツアーイベント「道後ぞなもし」を企画し、毎日のように道後に通って準備を進め、高校2年生の9月に無事開催させていただきました。もちろん仲間とともに新しいものを作り上げる魅力やチームマネジメントの難しさも学んだのですが、今になって振り返ってみると、3,000年もの間、紡がれてきた道後の歴史の一端に触れ、町の方々と深い関わりを持たせて頂けたこと自体がどこまでも貴重で大切な経験だったように思います。他にも興味の赴くままに様々な課外活動に挑戦してみたりもしたのですが、そのどれにも寮の仲間が存在があり、ともに何かに取り組み、そのことについて深夜まで友人と語り合うのが楽しくて仕方なく、そのためにこそやっていたと言っても過言ではないように思います。「課外活動」と聞くと受験色が強くなりがちですが、「仲間とともにやる」というのが僕の中で一貫したテーマであり、そのどれもが楽しくて仕方なかった、ということを願書の中でも意識的に表現することを心がけていました。テスト類については偶然にも相性がよかったため大きな苦労はしませんでした。少ない勉強の中でも自分の苦手分野や苦手な傾向を把握し重点的に対策すること、どういう順番で問題を解くかという大局観を養うこと等を意識していました。エッセイについては、ブレインストーミングからファーストドラフトまでをすべてノートに手書きしていました。(A4ノート15冊!)振り返ってみると本当に意味不明なことばかり書いていますが、流れに身を任せるままに書き溜めていた事柄の中にこそ、最も自然体の自分が表現されており、その中で最もじっくり来たものをエッセイに広げていく、というスタイルは自分に合っていたように思います。

コロナ禍で1度も来校できずに、完全オンラインで エッセイ・その他をサポートした初の事例に

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

母校から海外受験をする生徒は極めて稀だったため、奨学金、推薦状、スクールレポート、さらにはコモンアップのシステム等について先生方と手探り状態で、全体像がなかなか把握できないまま、気づいたら締め切り直前ということが多々あったのは、精神的にきついこともありました。しかし、そんなバタバタの中でも時間をとってくださる学校の先生方、さらには英語面でのRoute Hの手厚いサポートのおかげでなんとか間に合わせる事ができました。To Do Listを作成し、定期的に確認していればもう少し落ち着いて出願書類作成に取り組めたかな、とも思うので後輩の皆さんには是非おすすめです。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

エッセイの中に一貫したメッセージが込められていることはもちろん大切なのですが、行間にこそ自然体での自分らしさが滲み出るものと考え、細かなところを特に意識していました。例えば、近くで小さな子が怖がっているのが見えたら、そっと手を握ってあげたり、背中をさすってあげたり、と本題からは少しずれる「小さな行動」にこそ、その人らしさが宿るものだと思うので、こうした小さな行動の表現には単語レベルでこだわりました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

帰国から10年のブランクがあり、入塾当初は英語力に不安がありました。Route Hのエッセイ指導のおかげで無意識のうちに自然と英語力・ライティングスキルが上達していきました。またRoute Hにエッセイを提出する際、不安な点についても書くと、ネイティブ講師の方々が、時にはその3倍近く、どこまでも丁寧なアドバイスをくださることもあり、本当に助けられていましたし、学ばせていただけていました。余談ながらエッセイが返却される際の“Good Job!”もすごく愛が込められていて、毎回次がんばろう、と思えたのでした。当然ながらエッセイの内容が芳しくなかったときは厳しい指摘もありましたが、その一言一言の中に「一緒にすばらしいエッセイを書いていこう」という講師の方々の覚悟、窮地の中での愛を感じ、身に染みました。しかし、何よりも素敵な先生と友人に出会えたことがRoute Hでの最大の財産です。1週間ぐるぐると思考が巡り続け迷走することが多かった受験期、先生と30分程度話すだけで思考が一気にシャープになり、アウトプットに繋がっていくのはまるで魔法のようで、そして同時に何だか心地よかったです。“受け継がれる意志”“人の夢”“時代のうねり”人が「自由」を求める限り、それらは決して止まることを知らないのです。Route Hの同期は本当に家族のような存在で、特に僕は、コロナ禍で地方在住ということで、通年でオンラインだったため一度も会ったことない人がほとんどなのですが、そんなことを微塵も感じさせない、とてつもなく優秀なのはもちろんのことどこまでもsharingで、そしてgentleな彼ら彼女らとの出会いは僕の誇りです。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

U Penn, UC Berkeley & 東大

日米併願の両立に苦勞するも、 IVYリーグ・東大にダブル合格

石川将さん

灘高校卒

合格校 ▶ ペンシルベニア大学 /
UCバークレー /
東京大学

進学先 ▶ ペンシルベニア大学

コロナ禍による課外活動の制限の中、 団体設立やオンラインシンポジウムに注力

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

中学校3年間をロンドンで暮らした後、高校生になって帰国しました。中学時代に身につけた英語を生かして学びたかったことと、興味があった行動経済学の研究の最先端がアメリカであることなどを知り、高一の5月あたりから海外進学を目指し始めました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

エッセイ：高三の4月からRoute Hのサポートを受け、エッセイの核となる自己分析などを進めていきました。Common Applicationの受付が始まる8月ごろから本格的にエッセイを書き始めました。マイケル先生や尾澤先生と相談しながら、Common Applicationは3テ

マほど書きました。AOに見せたい自分の一面を的確に表現するのに苦労しましたがそれだけ達成感もありました。Supplemental Essayに関しては事前に大学のリサーチを済ませていたこともあり、予想よりは早く書き上げることができましたが、結局締め切り前日までブラッシュアップを重ねることになりました。

テスト: TOEFL®は高2の12月に受け終わりました。SAT® Reasoning/Subjectsは新型コロナウイルスの影響で高三の2学期から計3回ほどしか受けられず、スコアも伸び悩みました。僕の年は例外的にスコアを提出する必要がなかったため、Reasoningに関しては提出を控えることにしました。

課外活動: 高一から始めた模擬国連を中心に様々なことに取り組みました。学校の部活でやっていたバドミントンと化学研究など、受賞歴にかかわらず積極的に活動しました。特に今年は新型コロナウイルスの影響による活動自粛の影響下で何ができるかを考え、オンラインでの国際シンポジウムの参加や模擬国連会議を主催する団体の設立など、自分にしかできないことを考えて打ち込みました。

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

日米併願をすることにしていたので、海外大出願に向けた準備と国内大の受験勉強の両立が大変でした。エッセイを本格的に書き始めると受験勉強をする余裕がなくなってしまおうと先生や先輩から聞いていたので、高三の8月までに国内大の勉強は一通り終わらせておきました。9月以降は学校の授業を通じて演習をするに留め、家ではエッセイに集中していました。その後、出願が完全に終わった1月から共通試験・二次試験の対策を始めましたが、学校である程度勉強は続けていたのでなんとか国内大にも合格することができました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

願書で書かなかったことはどんなに素晴らしいことであってもAOに伝えることはありません。高三の頭に始めた自己分析を確認しながら、自分が何を伝えたいのかを考えながら願書を埋めていきました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

自分は関西に住んでいたの先生方から対面で指導をいただいたのは出願直前だけでした。しかしながら、オンラインを通じて毎週エッセイのフィードバックをいただき、完成度に磨きをかけることができました。出願終了後も過去の傾向から面接に関するアドバイスやよく聞かれる質問などをくださり、面接対策をする上で非常に大きな力になりました。同期とも積極的に交流し、互いのエッセイを読み合うことでお互いのエッセイに反映できたことと、一緒に受験を乗り越える戦友ができたことは非常に大きな支えになったと思います。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

U Penn

好きなことを自分の武器にすることが合格への秘訣

金世和さん

渋谷教育学園幕張高校卒

合格校▶ ペンシルバニア大学 ほか

進学先▶ ペンシルバニア大学

ディベート中心に校内外で積極的に活動。 テストやエッセイは後手になるも間に合わせる

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

自分の従兄弟たちがアメリカの名門大学に通い、その大学生活の様子を聞くことで大変刺激を受けました。また、自分は文系理系の枠にとらわれることなく勉強したいと思い、国内よりは海外(特にアメリカ)大学で学びたいと思うようになりました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

中学から始めたテニス部に加え、高校からは知的な魅力がある英語ディベート部にも入部しました。国内外での様々な大会に参加することで、日々、自分を研鑽し、将来の進路について考える大きなきっかけになりました。同時に6年間体育委員や体育委員長なども務めました。受験に必要なテスト等は、コロナの影響もあり全て高3の時期に重なってしまいました。併せて、英語ディベート部での活動を最優先にしてきたので、それらのテスト

は結果としてすべて後回しになり、TOEFL®とACT®は両方とも高3の10月ごろの受験となってしまいました。準備の対策に関しては、各テストにはそれぞれ特徴があるので、過去間に触れて傾向に慣れるようにしました。Route Hのサポートを受け始めた高3の9月以降は、何がCommon Applicationにふさわしいエッセイなのかを常に考えさせられ、何度も何度もエッセイを書き直したり、トピックを考えたりしていたため、早期出願前日にエッセイを一からすべてやり直す羽目になってしまいました。しかしながら、翌日の締め切り当日にはどうにかして書き上げ、提出期限に間に合わせることができました。そして、11月はUCのエッセイ、12月はRegular Decisionの各大学のSupplementary Essayを書いていましたが、それぞれ各大学の締切期日に追われて、寝る時間を惜しみながら時間を作り、何とかすべて無事提出することができました。

課外活動は自分を信じディベートに注力。 エッセイ、推薦状などでのピンチも周りの支えで乗り切る

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

特に苦労したのは時間の効率的な使い方でした。課外活動に関しては、他の生徒がそれぞれ幅広い活動をしている中、自分は受賞歴が英語ディベートでの活動に偏っていたので、そのため新たな別の課外活動をするべきなのか、大変迷いました。さらに、英語ディベートは世界的にやっている人口も多いため、その中で個性を出すのは難しいと周りの人から指摘を受けましたが、自分は実績のためだけに何かをするのも嫌だったため、新たな活動をするにはせずに、自分を信じて英語ディベート1本で挑むことにしました。

エッセイに関しては、クオリティーを上げることに注力したため、構想に時間がかかってしまい、ほとんどのSupplementary Essayは出願期限の1週間前から書き始めることになりました。また、自分は国内の主な奨学金には要件が満たさずに申し込みなかったため、大学のファイナンシャルエイドの申請も同時にしなければならず、そのことにも時間を取られてしまいました。推薦状にもちょっとしたアクシデントがあり、事前に頼んでいた体育の先生が大学側が求めるacademic advisorの対象外ということが締め切り数日前に分かりました。しかしながら、学校側の迅速な対応のおかげで、新しい先生にギリギリに書き上げてもらい間に合うことができました。協力していただいた学校の先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ですので、推薦状も大学によっては対象の科目の先生を絞っているところもあるので、注意が必要です。最終的には、納得できる内容のエッセイを各

大学に提出することができました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

全体のアプリケーションを通して自分の性格を多面的に伝えようと思いました。そのためディベートや学力面以外で、エッセイはユーモアや専門知識を織り交ぜ、可能な限りアピールポイントを作ることに心がけることにしました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

精神的に余裕を持てるようになったことです。ネイティブ講師含め指導者の皆様方には、出願のことやエッセイ指導など、大変お世話になりました。Common Applicationのエッセイは癖が強いため、書き方に悩むことがありましたが、ネイティブ講師陣を信用することで、満足いくエッセイを書くことができました。また、Route Hの教室は、とても和やかな雰囲気、リラックスした気持ちにさせてくれました。ここで知り合えた友達はかけがえのない存在です。様々な分野にみんな長けており、話を聞くのが面白く、近くのコンビニでは美味しいそうで数に限りのあるデミグラスオムレツ弁当を争奪しあったということも、今となっては楽しい思い出です。辛いことも楽しいことも分かち合い、切磋琢磨をすることでお互いを高め合いました。ダメな時は指摘してくれて、足りないところは補足しあえる関係はRoute Hでしか生まれなかったと思います。いざとなると全力で支え合って最後までそばにいてくれる最高の仲間たちです。

Brown

出願期限直前のエッセイの書き直しも ブラウン大学に早期合格

大野綾夏さん

渋谷教育学園幕張高校卒

合格校▶ ブラウン大学

進学先▶ ブラウン大学

3か月かけたエッセイに直前でダメ出しも 1日足らずで一気に骨組みを完成

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高校1年の秋に学校で文理選択をする必要があった時に、どうしても決められなかったです。なぜ16歳でもう決める必要があるのか、大学はもっと幅広く学んで教養を身につけたいと思いました。そこで調べてみると、アメリカのリベラルアーツ教育に惹かれたのがきっかけです。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2までは本当にアメリカで四年間勉強したいのか決心がつかず、日本の受験勉強をメインにやっていましたが、高3に入ってからは一気にフォーカスを海外大受験にあてました。課外活動は中3時から自分が興味のあることに幅広く手を出していましたが、受賞歴を埋めるのは苦労しました。運良く、表彰されることになり、テストも同時期に受け終えたので、そこからは一気にエッセイを書くことに集中しました。

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

パーソナルエッセイを提出期限の1週間前にゼロから書き直したことです。三ヶ月毎日推敲しては訂正が入ったエッセイでは受からないという厳しい指導を受け、どうすべきかわからずに真っ白な画面と向き合った提出1週間前でした。もう焦りを越えて、諦めました。正直(レギュラーでいいか、と)。ただ、マイケル先生と対話して、本当の自分を表現しきることのみに重きを置いたら、1日足らずで最終エッセイの骨組みはできました。三ヶ月前からそのテーマで書きたかった思いもあるが、締め切りというプレッシャーも意外と良い効果があったのかもしれないです。

エッセイは、自分を偽らず、 ありのままの自分を表現する

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分を偽らないことです。大学受験、最終的には大学に「フィット」するかいなかだと思います。どうしても受かりたいからと言って、その学校の色に合うようなエッセイを書いても、そういう表面上のことはすぐにAOに見破られます。ありのままの自分を表現して、気に入ってもらえたら合格して、だめならもっと自分に合う学校にいけばいいや、という考えで望みました。まあ、つまりは学校選びはとても大切です。

—— Route Hのサービスでよかった点は？

なんとといってもエッセイ指導です。どんなエッセイを書いてもそれを十倍良くする添削を受け、仕上がってきたと思ったら白紙に戻す厳しい指導があります。エッセイは努力したからといって一晩で上達するわけでもなく、ほうっとしていたら急にアイデアが思い浮かぶこともあります。そういう瞬間瞬間を先生とシェアして少しずつ、自分の等身大のエッセイを書き上げる環境があるのは本当に恵まれていました。そして、切磋琢磨しあう同志の存在も大きかったです。直前期はエッセイを仲間と見せ合って自分たちでもコメントをしまいました。こういう表現方法があるんだ、こういうエピソード面白い、など仲間のエッセイを読んで評価するのも大きな学びになりました。ただ、エッセイ執筆だけではなく、これまでたくさんの活動をしてきた人たちと友達になるだけで一気に高校生活が豊かになった気がします。

最後に、私が大好きな名言を3つお伝えします。

When people are prose, be a poem. (unknown)

Today you are you, that is truer than true. There is no one alive who is you-er than you. (Dr. Seuss)

Your past need not be prologue to your future. (Keith Ferrazzi)

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

UC Berkeley, UCLA & USC

個別大エッセイでは苦勞するも カリフォルニアの名門3大学に合格

小林新門さん

広尾学園高等学校卒

合格校 ▶ UCバークレー /
UCLA /
南カリフォルニア大学

進学先 ▶ UCバークレー

SAT[®]、共通願書エッセイは順調に進むも 個別大エッセイは期限ギリギリまで作成

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

4歳から高校1年までずっとアメリカのニューヨーク州に住んでおり、小さい頃から周りの友達や先輩などがアメリカの大学を目指していたため、自分も海外の大学に進学するとぼんやりと考えていました。兄が先に親を説得し、海外進学に成功してくれたので、私も挑戦することにしました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

■エッセイ：Route Hに入ったのは高3の3月ごろでしたが、実際にエッセイのネタやアイデアを考え始めたのは夏休みからです。また、出願期限の危機感をもって必死でエッ

セイに取り組みはじめたのは、早期出願1カ月前の10月ごろでした。コモンアプリケーションは運よくネイティブから一発でOKが出たので、最初は時間に余裕を持っていました。しかし、早期出願のサブリメントエッセイやUCに提出するパーソナルエッセイは納得いくエッセイが書けるまでに時間がかかりました。サブリメントエッセイは、早期出願のものは8月ごろから始め、11月1日の締め切りギリギリまでに仕上げました。UCは早期出願の直後に始め、11月末に書き終わりました。残りの通常出願のほうは12月から最終締め切りまで書いていました。

■テスト：SAT[®] Reasoningを高1の10月に受け、一発で納得する点数が出たので、それ以降SAT[®]は受けませんでした。SAT[®] Subjects (Chemistry, Physics, Math 2)は高3の6月に受け終わりました。TOEFL[®]は高3の9月に受けました。

■課外活動：私は米国の現地校でやっていた活動と、日本に帰国してから始めた活動があったため、他の人よりやっていた課外活動の量が少し多かったです。しかし、途中で帰国したため、ほとんどの活動は長期間続けることができず、課外活動ではあまりアピールできていなかったと思います。アメリカでの活動はボランティア、数学の大会や研究を軸にしていました。日本に帰国してから、自分の関心が少しずつ変わっていき、英字新聞部やビジネスコンテストなど、新しい活動に挑戦しました。活動の内容は結構バラついていて、大学で学びたい分野と被らないものもありますが、他の箇所では見せてない自分をAOに知ってもらえたと思います。

共通願書エッセイではクリエイティビティが必要。 個別大エッセイは、まず大学情報収集を

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

納得するエッセイを書くのが難しかったです。部屋に引き籠っても、アイデアが何日も出ない時期もありましたし、一人のネイティブ講師からOKが出ても、もう一人の方からダメ出しを頂き、一から書き直すこともありました。何より、「自分らしさ」を表現するのに苦戦しました。今までは学術的な文章を書いてきましたが、大学受験で課されるパーソナルエッセイではクリエイティビティが必要で、慣れるのに時間がかかりました。また、出願する大学に合った内容を書くためには、なるべく早くから各大学について調べ、自分がなぜその大学にフィットするか考え、エッセイを書き始めるといいです。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

1日に何十人もの願書を読んでいるアドミッションズ・オフィサー(AO)は、一つの願書の審査に数十分しか使わないと言われていています。そのため、私はアプリケーションを見ていただくAOに「面白い」って思われ、彼らの印象に残るような願書を作ることに気がつきました。エッセイの書き方を工夫したり、変なエピソードについて書いたり、ユニークな課外活動や賞を願書に入れたり、色々な面で印象を残すように頑張りました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

エッセイ指導です。エッセイピックのプレインストーミングから最終チェックまで、全ての段階でアドバイスをくださるので、文章が下手な私でも納得できるエッセイが書けました。また、ネイティブ講師やスタッフの方だけでなく、他のRoute Hの生徒や先輩などからのフィードバックも助かりました。Route Hのおかげで、受験のためだけでなく、今後の大学生活でも通用するエッセイ力を身につけることができました。加えて、Route Hでは尾澤さんからAsia Union Leaders Summit(アジア高校生リーダーズサミット)や、石巻で開催されるReborn Art Festivalのボランティアなどの課外活動を紹介いただき、カウンセリングもしていただいたので、日本に帰国してすぐに海外受験に向けた準備や対策を始めることができました。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

UC Berkeley, U Washington & 早大

エッセイ講座・指導、出願指導が奏功し 日米大と財団奨学金に合格

白石航太郎さん

開成高校卒

合格校 ▶ UCバークレー /
ワシントン大学 /
早稲田大学など

進学先 ▶ UCバークレー

課外活動は、海外大受験をあまり意識せずに 興味ある活動に幅広く挑戦し、成果を蓄積

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

中学入学当初から海外大学進学に関する漠然とした憧れはありましたが、費用の点や英語力に関しての不安からあまり真剣に考えていませんでした。しかし高2の時期から大学進学について真剣に考え始めるようになってから、日本の大学よりもフレキシブルに様々な分野を追求できる点、また留学生の割合や多様性が高く大学生活から学べる点が多い点といった米国大学の強みに魅力を感じ、詳しく調べるようになりました。そして、その中で柳井奨学金やJASSO奨学金、江副奨学金などの様々な奨学金制度が整っていることや、海外大に在籍する日本人が主催するプログラムで、実際に海外大学へ進学した先輩たち

に相談できる機会があることを知り、自分にも米国大学進学チャンスがあると感じため、日米併願の道を考え始めるようになりました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

中学生から高2始めの時期までは、海外大学について深く意識していなかったので、とにかく自分興味があった課外活動に幅広く挑戦していました。幸い学校の成績は維持していたので、それは今思えばとても良かったと思います。その後は、高2の時期はTOEFL®、高3の時期はSAT®の勉強を継続的に1日30分程度続けながら、自身の希望する専攻を意識したボランティア活動や学生団体の運営などの課外活動に時間をより多く使うようにしました。国内大学の勉強は、できるだけ高校の授業内で完結するように意識し、高校の授業中はとにかく集中して国内大学の対策を行うようにしました。ただ、中でも中学校の時から続けていたハンドボール部やESS部などの課外活動は継続していて、それは純粹に“継続性”が評価されやすいという利点だけでなく、自分が悩んだ時に、いつでも帰れるコミュニティがあるという面で大きな支えになったと感じています。他には、ワールド・スカラーズ・カップなどの海外進学希望者が多く集まるような大会などにも参加しましたが、自分と同じような目標を持った仲間と数多く知り合うことができ、情報収集する上で大きなリソースの一つとなったので、こういった機会には積極的に参加するのがオススメです。

エッセイ集中講座でエッセイのコツをつかみ、 その後のエッセイ指導・奨学金対策で成長実感

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

海外大学を意識し始めるのが少し遅く、SAT®を受けたのが高3の8,9月だったので、エッセイを進めるために時間をより多く使うべき時期に、いかにバランスを保ちつつ、スケジュール管理を行うかにはとても苦労しました。エッセイは時間をしっかり使い向き合うほどより良いものに仕上がっていくと思うので、理想としては、高3のエッセイを始めるより前にSAT®など他の要素はできるだけ終わらせておくと思います。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

全体を通して自分自身について余すことなく伝えるように意識しました。例えば、UCではエッセイを4つ提出しましたが、それらではそれぞれ“人間性”“バックグラウンド”“課外活動”“専攻”についての内容にしたことで、全体として偏りすぎず、人間像が分かるような

アプリケーションに仕上げるようにしました。ただ、その中でもそれぞれのエッセイで他の人とは自分が異なる点、なぜ自分が大学に変化を与えられるような人間といえるのかを多かれ少なかれ必ず含むようにしたことでスタンドアウトできるエッセイにしていこうと意識しました。そのほかでは、課外活動の記入では、ただ活動した内容を書くのではなく、その活動から自分が何を学んだかまで含めるように意識するとともに、自分が自身を持って取り組んだと断言できるもののみを書くようにしたことで、まとまりの良いアプリケーションになるようにしました。

—— Route Hのサポートを受けてよかった点は？

Route Hでは、米国大エッセイ対策講座(お茶の水ゼミナールで開催)と、その後のエッセイ指導を特に丁寧にやっていただけだと、さらに、尾澤さんから、奨学金指導まで受けることができたのは、自分にとって非常に大きな助けになりました。米国大エッセイ対策講座の受講前は、自分はエッセイのイメージが全く湧かなかったのですが、これを通して、いかにして自分自身を表現するかというポイントを掴むことができ、さらにそれを踏まえ、のちのエッセイ指導でも何往復もエッセイの添削を繰り返しながら、納得がいくまで、丁寧に指導していただけたのは、これ以上ないサポートだったと思います。また、書類対策のポイントや面接で想定される質問なども交えながら、奨学金対策のアドバイスをいただいたのも自分にとってはかなり大きく、Route Hで大学入学前に指導を受けることができて、自分自身の成長に深くつながったと実感しています。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Johns Hopkins University、UC Berkeley & Imperial College London

Biomedicalで米国1位の ジョンズホプキンス大と財団奨学金に合格

安藤万留さん

Westminster School (英国) 卒

合格校▶ (米国) ジョンズホプキンス大学/UCバークレー/
UCLA/UCサンディエゴ
(英国) インペリアル・カレッジ・ロンドン/
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン

進学先▶ ジョンズホプキンス大学 (Biomedical Engineering)

中3から英国留学するも、米国大を中心に準備。 米英併願し、両国の名門大に合格

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

父が米国でMBAを取得した影響もあって、私も、いつかは米国大学に進学したいと幼少の頃から漠然と思っていました。早稲田実業の中等部3年生で英国留学奨学第1期生としてRugby Schoolに留学したことで、より現実的に、海外大学進学を考えるようになりました。また進学予定である早稲田大学で、私が希望している研究ができないことがわかっ

たことも大きなきっかけになりました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

英国の高校に在籍した関係で、英国大学の進学準備に関わる環境は整っていました。しかし、私が求めている学びの環境は、より米国の方が充実していたこともあり、米国大進学準備を中心にまずは進めてきました。高校3年のほとんどの期間がコロナ禍にあったため、パンデミック以前から活動していた事を深めることが中心でした。アカデミックな活動としては、高校2年生から始めたグローバル・サイエンス・キャンパスによる慶應義塾大学での研究活動です。高校2年時の研究成果を、高校3年生時に、論文や学会準備でまとめていくことをしました。ボランティア活動は、夏休みに行った病院でのケア補助と英国学生生活で定期的に行っていた老人ホームでのお手伝いです。私は音楽奨学生でもあったので、英国でのピアノ演奏活動、インターシップでは米国のベンチャー企業でDARPAとのmRNAワクチンに関する共同研究に携わる貴重な経験を得ることができました。英国大学受験の場合、希望している学科にそったアカデミックな実績が重要だったため、学業及び研究活動は特に重点的に行いました。

英国留学当初は苦勞し、かつ、米英大入試の違いに戸惑ったものの、自己理解を深め、エッセイも差別化を図る

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

英語の力が弱いまま留学したため、学生生活に慣れるまで時間がかかり、テスト対策が遅れてしまったことです。さらにコロナ禍であったため、テストの受験回数が限定的になってしまい、少ないチャンスで納得できるスコアを得ることに苦勞しました。また、英米の大学準備が違うこともあり、併願する際のスケジュール管理やタイプの違うエッセイ作成に当初、戸惑いもありました。しかし、自身の過去を振り返り、自己理解を深めることで、自信や目指したい未来を再確認することができました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

希望している大学や学部と何が合致しているかという点です。そして自身の経験や価値観から、なぜその大学で学ばなければならないかについて常に考えてエッセイを書いていました。大学によっては様々なエッセイを提出しなければならないため、同じ内容にならないように注意を払ってエッセイをまとめました。特にCommon Applicationのパーソナルエッセイと、大学独自のエッセイとの差別化を心掛けていました。

— Route Hのサポートでよかった点は？

様々な先輩方とご縁をいただけたこと、エッセイの指導です。米国に居住していない限り、希望する米国大学に進学されている方を探すのは容易ではありません。Route Hのイベント等で実際に在籍されている先輩方のお話を聞く機会をたくさん得られたことは、大学理解を深めるきっかけになり、進路選択に大きな影響を与えました。エッセイ指導では、大変、親身かつ厳しい指導がとてもありがたかったです。納得がいくまで根気よく、たくさん添削していただきました。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Swarthmore, UCLA & Middlebury

名門リベラルアーツ大(スワスモアほか)と 財団奨学金に合格

柚木一心さん

開成高校卒

合格校▶ スワスモア大学/UCLA/ミドルベリー大学/ウェズリアン大学

進学先▶ スワスモア大学

SAT[®]・ACTの両方に挑戦し、ACTでは35を取得。 課外活動・大会も果敢に挑戦し、成果を蓄積

— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

海外経験がなかった自分が、海外での留学プログラムに興味を持ったのが、海外進学に目を向けるきっかけだったと思います。始めはキャンパスの美しさなどに惹かれていましたが、魅力的なプログラムや機会を知り、高2の頃から本格的に志望するようになりました。

— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

進学の際の学費・寮費などがどの学校に行くにも膨大ですので、金銭面をどうするかは常に考えていました(親に負担をかけたくないため)。高3時に柳井正財団奨学金から合格をいただけたことで、金銭面を気にしなくて良くなったのは本当に感謝しています。エッセイについては、Route Hに高3の4月頃からサポートを受け、夏から練習を始め9月以降は本格的に書きました。実際に提出できる、よいクオリティのものが書けるようになって

たのが11月で、それ以降はエッセイをとにかく書き続けていたと思います。テストスコアは、高2の4月にTOEFL®110点、12月にSAT®で1490点、高3の7月にACT®で35点を取りました。帰国子女ではないため英語に自信がなかったので、かなり勉強したのが報われ、幸運だったと思っています。課外活動は、奨学金をいただくこと、高校生を通して勉強していた脳科学の大会にて受賞したこと、小さい頃から続けているピアノの全国・国際大会の経験、アジア高校生リーダーズサミットなどを受賞歴に書きました。活動歴では、学生団体の運営や学校でのリーダー経験、自分が個人的に続けていた教育・環境保全の活動も記載しました。

Route Hの先生方の指導、仲間との対話で、 海外大で学ぶに値する成長を実感

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

人一倍、英語の習得に時間をかけたこと、そして自己分析だったと思います。良くも悪くも他の受験者の皆さんより軸が定まっていなかった自分にとって、絶対に戦える強みのようなものを見極めるのが、非常に難しく感じていました(自分の多彩さがリベラルアーツカレッジから合格を頂けた理由の一つだと思います)。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

個性や趣味などの自分の様々な側面を、なるべく素直に読者に見せる点です。文章を通して、いかに自然かつ雄弁に自分を表現できるかというところを、常に心がけていました。エッセイごとにどのような自分を見せるか、どのようなテーマを使うか、そもそもなぜ特定の側面をこのエッセイで書くのかなど、様々なことを考えうまく活かせるよう試行錯誤しました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

一番は生涯の友達と出会えたことです。トップ大学の受験という大きな試練に挑み、100時間以上ともにエッセイをかき続け、とてつもなくくだらない話から真剣な議論、文章の煮詰め合いなどあらゆることを皆でできたという経験は何よりもかけがえのないものですし、一生続く関係なのだろうなと感じています。(これだけ優秀な仲間がたくさんいれば、僕の将来も安泰かと思います。みんなありがとう。)エッセイに限らず、人生観や物事の捉え方を、先生方に教えていただけたのも大変貴重な経験でした。長時間の対話を経たことで、海外の大学にて学ぶに値する人間に成長できたような実感がします。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Grinnell, Oberlin & Macalester

名門リベラルアーツ大(グリーンネルほか)と 財団奨学金に合格

今西はなさん

渋谷教育学園幕張高等学校卒

合格校 ▶ グリンネル大学 /
オーバリン大学 /
マカレスター大学

進学先 ▶ グリンネル大学

SAT® は、速読プログラムも活用し、スコア大幅増。 活動も、研究、語学、スポーツなど多彩

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

高校2年の夏です。高校1年で参加したUniversity of British Columbiaの応用倫理学のサマープログラムで、生徒間のディスカッションをベースとした少人数での授業を2週間受け、その学び方がとても楽しく、自分に合ったのだと感じました。高2の夏に志望校選びのために、国内の大学を見学、リサーチをした結果、そのような授業形式を第二外国語の授業以外で採用している国内大学は少ないことを知り、本格的に海外に目を向けました。秋には米国のリベラルアーツカレッジが、私の求めているような授業を行っていると知り、出願を決めました。海外経験があり、高校の海外大進学者のサポート体制が整っ

ていいこともあり、その後はスムーズに準備を始めることができました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

SAT®、TOEFL®の点数が出願に必要な大学が多かったので、テストを最優先事項として準備を始めました。SAT®は高2の12月、高3の9月に受験しました。苦手だったReadingの対策は速読プログラムを受講したり、Khan Academyで行い、100点上げることができました。ただ、SAT®は願書の一部分にすぎないので固執せず、高3の夏までに終わらせることをおすすめします。TOEFL®は対策なしで、高2の9月に1回受けて終わらせることができました。課外活動は、サッカーとラクロスを中心に、高2までの活動を続けました。(ただし高3ではスポーツより勉強を優先しました。)具体的には韓国語、ポルトガル語の習得、女子高校生用の健康サイトの立ち上げと運営、英会話塾の立ち上げ等です。Honorsにはワールド・スカラーズ・カップ、筑波大学とUBCでの応用倫理学に関する研究、プレゼン大会での成績や評価をリストしました。受験のために新たに始めた活動はありませんでした。本格的に出願用のエッセイ執筆を始めたのは10月でした。私は4年間やりたいことかしていなかったのの後悔はありませんが、多様なことに挑戦していたため、願書で何にフォーカスすべきか悩んでしまいました。それらの悩みは、マイケル先生と話し解決に近づけ、添削と書き直しを繰り返しました。Financial Aidの申請と推薦状は、親と学校の先生が関わる事なので、高3の初めには準備を始めました。学費を具体的に家庭で何ドル負担できるか、奨学金に応募するのか、ローンは組むのか、家族との話し合いは早めにするのが大切です。推薦状は、苦手科目であった物理の先生と、好きな科目であった帰国生英語の先生に依頼しました。カウンセラーともよくしゃべり、仲良くなりました。

等身大の自分について書く勇気が出るまでには 大量のエッセイと時間がかかった

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

成績維持、課外活動、それからエッセイ執筆を両立させることです。私の高校では、高3になると定期考査に東大の過去問が取り入れられたり、範囲がなかったりと、国内の最難関大受験者に合わせた、私にとってはハードなカリキュラムが採用されていました。更には、韓国語とポルトガル語の勉強と会話練習は、怠ると能力が落ちるので続けました。それに加え、エッセイを執筆するという状況の中で、完璧主義の私は全く時間と心に余裕を持

てませんでした。それでも睡眠や食事は絶対削らず、3つのバランスを取ることは、とても難しかったです。30分単位のスケジュール帳で、毎晩時間の使い方を振り返り、翌日の予定を立て、切り抜けました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

ありのままの自分を表現することです。Route Hのサポートを受け始めた当初、周りの優秀な生徒に圧倒され、自分はどこにも受からないと思込み、「大学に好かれそうな」人物を演出しようとしていました。そんなアプローチでは、満足するエッセイが書ける訳がありません。受験は競争だというマインドセットを捨て、等身大の自分について書く勇気が出るまでには、大量のエッセイと時間がかかりました。共通願書のエッセイに至っては、マイケル先生と毎日話し合い、最終的に提出したエッセイは、締め切り4日前に書き始めたものでした。しかし、自分の好きなこと、書きたいことで埋めた願書だった、満足して受験を終えることが出来ました。米国大受験では、明確なものさしが無いので不安を感じやすいと思います。しかし「他人は他人、自分は自分」と自信を持ち、願書を完成させることが大切だと思います。

—— Route Hに入ってよかった点は？

まずはマイケル先生にエッセイ指導を、そして経験豊富な他のネイティブ講師陣に添削をしてもらえたことです。今まで書いたことのないタイプのエッセイを書くにあたって、一から教えて頂き、困ったときは助けを求められる方々がいて助かりました。受験期間が終わった4月になってもwaitlistされた多数の大学へのLetter of Continued Interestの添削、奨学金出願のサポートをしていただき、本当に面倒見の良い塾です。尾澤さんには卒業生につながってもらったり、細かい願書や奨学金の応募情報の提供や指導をしてもらったりと、最初から最後までお世話になりました。また、互いにエッセイを読み、アドバイスをし、相談しあえたRoute Hの仲間には、受験期の不安と緊張が絶頂の時に大きく助けられました。

Minerva Schools at KGI & NYU Abu Dhabi

世界的に人気上昇のミネルバに進学。
7つの都市で学ぶ大学4年間へ。

前川岳也さん

海陽中等教育学校卒

合格校▶ ミネルバ大学/
ニューヨーク大学アブダビ校

進学先▶ ミネルバ大学

日本の相対的貧困の問題への興味を
ボランティア活動やエッセイに活かす

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

中学校2年生の時、英語の先生にAEC(Advanced English Class)という、英語のみを使って授業が行われるクラスに入らないか、という風に言っていただき、それから漠然と英語を使って、アメリカの大学で学びたいな、という風に思うようになりました。

—— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

エッセイ: Route Hのサポートを受け始めたのは高3の7月ごろでしたが、実際に出願期限の危機感をもって、必死でエッセイに取り組みはじめたのは、早期出願1カ月前の10月ごろでした。まずは、コモンアプリケーションのエッセイから書き始めました。トピック決めがと

ても難しく、納得のいくものが見つかるまでに、6種類ほどのエッセイを書き、その中から一つ選んで推敲を重ねました。大学別のサプリメントエッセイは、同じく10月頃に取り組み始めたのですが、始めるのが遅すぎたため、結局早期出願に間に合わず、通常出願のみしました。

テスト: SAT® Subjects(PhysicsとMath 2)は高2の内に、TOEFL®は高3の4月に受け終わりました。SAT® Reasoningは高3の12月に受け終わりました。

課外活動: ビジネスコンテストやサマープログラムに毎年参加していました。また高2の夏休みに参加したサマープログラムで、日本における相対的貧困の問題に興味を持ち、それに関するボランティア活動を地元で始めました。アプリケーションでは、そのボランティア活動に焦点を置き、アメリカの大学で学びたいことが、どう自分が今までやってきた活動と関係しているか、ということを個別大のエッセイでは書きました。

出願全体で多面的に表現することを意識。
エッセイは差別化を意識し、一つの出来事等に焦点を当てる

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

エッセイでとにかく苦戦しました。授業で取り扱った小説について、英語でエッセイを書くという経験は中学校、高校でもあったのですが“自分とは何者か”を伝えるエッセイは、今まで書いたことがなくとも苦勞しました。日本の定期テストや一般大学入試では明確な評価基準があるため、やるべきことが決まりやすく目標も(例えばテストで100点を取るなど)明確に設定することができるのですが、米国大受験においては、成績以外にも課外活動やエッセイなど、やる事が山ほどあり、エッセイや課外活動においては“これが正解!”というものはなく、そのギャップにとっても苦勞しました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

エッセイや課外活動、推薦状を通して、自分を多面的に表現することです。例えば、エッセイで、自分の校外のボランティア活動に焦点を当てたら、推薦状で自分のアカデミックな部分や校内での課外活動について書いてもらうことで、色々な場面を通じて、自分とは何者かが浮き上がるように意識しました。また、他の人といかに自分のアプリケーションを差別化できるかということも意識しました。例えば、これはRoute Hで言われたことなのですが、文化祭やボランティアについてのエッセイは多くの人が書くので、差別化しにくいのです。だから、その中の一つの出来事に焦点を当てたり、自分の内面の変化に重きを置いたりなど、

自分にしか書けないエッセイを書くことを意識しました。

—— Route Hのサポートでよかった点は？

エッセイ指導やカウンセリングです。僕は、Route Hのサポートを受け始めた時期が、比較的遅く、愛知県に住んでいたことやコロナ禍もあり、対面の指導はあまり受けられなかったのですが、毎週オンラインで、エッセイとは何かから本格的なエッセイの書き方まで丁寧に指導していただきました。また出願におけるスケジュールの確認や、実際に米国大に通っているRoute Hの卒業生の方々とも繋いでいただき、とても感謝しています。エッセイ指導のみならず、書類の準備やスケジュールの確認など米国大受験を包括的にサポートしてくれるRoute Hに入れたことは、非常に幸運だったと振り返ってみて感じています。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Princeton

米国の高校からプリンストン早期合格 トリプルAも意識し、高いレベルでのバランスを実現

櫻村樹理亜さん

The Taft School 卒

合格校▶ プリンストン大学／

進学先▶ プリンストン大学

バランスをとりつつ、 突き抜ける部分もあるという理想を体現

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高校からアメリカのボーディングスクールに通っていたので、周囲の環境に影響され自然にアメリカの大学を志望するようになりました。その中でも、世界中から優秀な学生や教授が集まり、最高峰の学業とNCAA-1部リーグで競技ゴルフができるアイビーリーグを目指しました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

アメリカではよくバランスのとれた人格形成の指標として、Athletic、Academic、Artの頭文字を取ってトリプルAという概念があります。アイビーリーグもトリプルAの balan

スが取れた学生を好む傾向があると言われていました。私は、ゴルフ、STEM部活、フルート活動をメインの柱として願書を組み立てました。

Academicは、学校の勉強を中心にGPAとSAT®のスコアをあげることに集中しました。また理数系の課外活動としては、Math Team, Science Olympiad, Robotics Teamのメンバーとして州やリーグの大会に参加し、個人やチームで受賞しました。Athleticでは、高校のゴルフ部のキャプテンとしてチームを引っ張りNew England地区大会で優勝しました。学校外でも夏休み中に全米各地のトーナメントに出場して、ジュニアランキングを上げるように努力した結果、全米32位まで上がりました。また、Artでは、第一フルート奏者として高校のオーケストラで地域の音楽祭や教会での演奏活動もしていました。これらの成績や活動を願書に盛り込み、自分のユニークな才能の組み合わせをアピールしました。

出願書類はサッカーボールのようなパッケージ。 重要だった大学訪問

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

高校ではしっかり勉強していたのでGPAには自信がありましたが、SAT®のReadingの成績がなかなか伸びなくて苦労しました。過去問を解くだけでなく、さらにSAT®解答のテクニックを研究したことによって、目標のスコアを達成できました。エッセイで苦労したことは、テーマ選びです。他の出願書類であまり触れられていない自分の性格や、知ってもらいたい自分のユニークな視点や考え方を書くことにしました。当初、出願エッセイの書き方がよく分からなかったのですが、ルートHのきめ細やかな指導を受けながら、最終的には満足できる仕上がりになりました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

出願書類は、いわば、サッカーボールみたいに多面的にかつ総合的に、自分の人物像を表現するパッケージだと思います。私の場合、ゴルフの実力や学校の成績には自信があったので、自分がどんな人間なのか、どういうユニークな能力や興味を持っているのか、色々な角度からアピールするように心がけました。出願プロセスを振り返った時に、直接大学を見に行ったカレッジビジットの経験が非常に重要だったと思います。ビジット前は先輩からの話や、web情報、ランキングのみで志望校を考えていました。実際の、どの大学が本当に自分にあうのか知りたかったので、志望するアイビーリーグ5校を直接訪問しました。プリンストンのキャンパスツアーに参加しながら、直感的に「私にはここしかない！

ここに来るんだ!」と強く思いました。その後は強い決意を胸に、高いモチベーションを維持し、SAT®に取組み、進学準備を進めました。その結果、プリンストンにEarlyで合格することができ、第一志望校のみの受験となりました。まだ志望校が決まってない場合は、カレッジビジットを強くお勧めします。

—— Route Hに入ってよかった点は何ですか？

高校のカウンセリングでは生徒数も多いので出来上がったアプリケーションをベースに指導してくれますが、Route Hでは生徒一人一人に適した方法でアプリケーション作成プロセスに、最初から最後まで懇切丁寧に指導して頂きました。日本から離れた遠くの地にいても、一つのチームとしてオンラインで指導してもらい非常に心強かったです。エッセイを書く上で、自分の人生を振り返るいいきっかけになりました。自分を知ることで、未来の方向性も明確になり、これからの新しい大学生生活のスタートラインに立つ事ができました。

Johns Hopkins, Carnegie Mellon & UCLA

米国の高校からジョンズホプキンス合格 一時帰国時の夏は、2か月間東大で研究

関口愛未さん

Berkshire School卒

- 合格校**▶ ジョンズ・ホプキンス大学／
カーネギーメロン大学／
カリフォルニア大学ロサンゼルス校
- 進学先**▶ ジョンズ・ホプキンス大学

高校での多彩な活動+夏休みも日本の大学での研究を実現

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

幼稚園からインターナショナルスクールに通っていましたが、中学2年ごろから「更に広い世界が見たい」と思いアメリカ・マサチューセッツ州のボーディングスクールに進学しました。高校からアメリカだったので自然とアメリカの大学中心に受験しました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

エッセイに集中したかったため、SAT®はJunior Year (日本の高2)の時点で終われるよう早めに勉強を始めました。3月ごろからぼんやりとエッセイのテーマやエピソードなどを考え始め、思いつく度にメモを取っていました。受験前の最後の夏休みは2ヶ月間、東

大医科研のラボで免疫細胞の研究を行いました。また、TOEFL®はこの時、7月に終わりました。短い間でしたが、ほぼフルタイムで研究したため、少し成果を出すことができ、この経験をどの大学にも全面にアピールしました。それ以外にも、学校では新聞部編集長、クロスカントリーのキャプテン、生徒会、アジア人クラブ発足、Writing CenterとMath Resource Center (生徒が生徒に教えるヘルプセンター)の運営など、幅広く活動していました。エッセイを書き始めたのは6月で、いかに「小説のように読者を惹き込めるか」「アドミッション・オフィサーに自分を好きになってもらえるか」を考えて何度も書き直しました。

本当に描きたいシーンに集中したことで、 エッセイが向上

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

私は課外活動と受賞歴がRoute Hの仲間より弱かったのも、エッセイのプレッシャーが高かったです。何度書き直しても一向に良くなる気がなくて、突き刺さるメッセージを伝えること、簡潔に情景を描くことに苦労しました。徐々に気が付いたのですが、私は短い文字数の中で入れたいことが多すぎて、結局何も伝わってない場合が多く、本当に描きたい一つのシーンに集中したら印象に残りやすいエッセイが書きやすくなったと思います。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

私は理系で受験しましたが、「アジア人×理系」はガリ勉な印象になりやすい気がしたので、課外活動の10項目やエッセイでバランスをとることを心がけました。13歳の誕生日会の思い出を書いたり、アメリカの高校での新聞部やWriting Centerの活動で英語も強みであることをアピールしたり、クロスカントリーやアカベラなど、とにかく多面性と人間味を意識しました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

刺激的な日本人学生のコミュニティに入れたことです。私は留学していたこともあり日本人のネットワークに入れていなかったのも、世界中の大学に様々な目標を持って進学する同年代の日本人と仲良くなれて本当に嬉しいです。

Harvard, U Penn & Cornell

SAT® ほか、自己管理・時間管理に苦勞するも ハーバードはじめ、IVYリーグ3校に合格

菊田真理さん

東京学芸大学附属国際中等教育学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学／
ペンシルベニア大学／
コーネル大学

進学先 ▶ ハーバード大学

子ども食堂でのボランティア、校内の活動にも注力

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

小6から中2までアメリカの中学校に通っていた経験から、帰国してからもアメリカの大学に行きたいという思いが燃り続けていました。高2の夏に参加したサマーキャンプで、日本全国から集まる、学校外で目覚しい活躍をしている高校生達に出会い、自分も外に出て挑戦したいとアメリカ大学専願を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の秋からTOEFL®とSAT®対策を始めました。TOEFL®はその冬に終わらせることができましたが、SAT®は高3の12月までテストを受けていました。

課外活動は、子ども食堂でのボランティアや研究、体育祭運営、山岳部などが挙げられます。高1の時はとりあえず興味を持ったことは全て挑戦し、次第に好きなもの得意な物の優先順位が高くなって、最終的にコミットできる活動を見つけられました。

エッセイを始めたのは高3の7月です。書きたい自分の軸はあらかじめ決めていましたが、それを読み手にも共感してもらえるよう、常に自分のアピールしたいことが読み手に伝わっているかのフィードバックを様々な人からもらっていました。

SAT® 対策は早めの開始を。願書は「統一性」重視

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

何よりもSAT®のスコアを上げるのですが、根本的な原因は自己管理と時間管理にあったと思います。忙しい時は、学校とは関係ないSAT®の勉強に手が回らず後回しにしてしまいましたが、結局受験の終盤で全てのしわ寄せがきて、自分の体調やエッセイにも大きく影響しました。特に想像力が必要なエッセイ等の自己PRの作業に、ベストの体調で臨むためにも、SAT®等の勉強は前から生活習慣として取り組むと、最後の悩みの種にならないと思います。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の軸が、パッと願書を見たときに伝わるかどうか、それがエッセイ、推薦状、活動に紐づけられていて、統一性があるかということを重視しました。概念的な自分の軸が、具体的にどのような性格や経験から現れているかを、多面的にバランスよく伝わるように構成を考えました。また、自分のどういう面を見せるべきか否かの取捨選択も気をつけて行い、間違ったイメージを与えないように注意しました。自分の軸を探している時は、あえて自分の弱みに着目して、その時の感情や状況を分析することで、自分の問題意識や強調される強みが見えることに気がきました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

プロ講師の方にエッセイを厳しく見ていただいたことです。それぞれのネイティブ講師の異なる視点からのフィードバックは大変参考になりました。また、Route Hで出会った人たちと励まし合いながら受験を終えたのは、辛いながらもいい思い出で、今後も切磋琢磨していけるような仲間ができました。

Harvard

エッセイやsubject testでは苦勞するも 様々な活動に物凄い行動力を発揮しハーバード合格

S.H.さん

聖光学院高等学校卒

合格校 ▶ ハーバード 大学

進学先 ▶ ハーバード 大学

幼少時からの思い×情報収集×多彩な課外活動が結実

—— 海外進学を考えたきっかけはなんですか。

幼少期をアメリカで過ごした私は、現地校で親しくなった友人との別れの際に「将来、同じ大学に行こう」と話していました。そのころから心のどこかで「アメリカの大学に進学したい」という思いがありました。そして、高校に入ってから説明会などで、米大学へ進学した先輩方の話を聞くうちにその思いは一層強くなりました。「世界中から学生が集まること」、「理系文系、学部にとらわれない勉強ができること」が決め手となり、高3から米国受験に真剣に取り組みました。

—— 進学準備はどのように進めましたか。

海外大学受験では提出する書類が多いので、スケジュール管理をするようにしました。また、課外活動については、受験のためではなく興味のある活動に積極的に関わっていました。僕は学校の行事や活動が高2の間は続いたため、テストの準備は高3から始めました。

エッセイに苦勞するも、リライトをやり続けて 書きたいことの優先順位が明確化

—— 進学準備を進める上で苦勞されたことは。

満足いくエッセイが書けず、メンタル面で苦しみましたが、そんな中でも自己分析やエッセイの書き直しをやり続けた結果、自分の書きたいことの優先順位が明確になっていったと思います。また、メンタルが大変な時は「全部落ちても別に人生の終わりではない」と自分に言い聞かせていました。

SAT® Subject Testは文系科目に限られているため、文系である私は科目選択に苦勞しました。結果的に世界史を受験しましたが、Subjectの中では一番問題数が多く、授業で習う世界史と異なる部分も多かったため、勉強に時間がかかりました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の色々な側面を伝えるように意識しました。また、サプリメントエッセイ(各大学独自のエッセイ)のような短いエッセイは具体的に書くことを重視しました。短いエッセイも軽視せず、自分のユニークさを説明し、差別化することを心がけました。

—— Route Hに入ってよかった点は何ですか。

米国出願に関してわからないことがあると、その都度、講師やスタッフの方が一対一で相談に乗ってくださり、自分が必要としている情報を下さいました。苦勞したエッセイについては、講師の先生方からのアドバイスのお蔭で、悩みから解放されたことが幾度もありました。

—— 後輩へのメッセージをお願いします。

悩んでいる時間があつたら、とにかく行動してみてください。誰かと話すだけでも新しい発見があつたり、さらなる出逢いにつながります。受験は一度だけでもいいかもしれませんが、受験を通して得た経験や友人は一生ものだと思います。

補足コメント (Route H責任者・尾澤)

私がS.H.さんについて特に評価している課外活動について補足します。彼は中3時にRoute Hが協力する海外プログラムに参加しましたが、その参加者の多くは高校生でした。恐らくその時は大変だったと思います。しかし彼は、高校進学後、学内外の様々な活動で成果を出し、高3時は課外活動歴も豊富でした。しかし、活動の履歴を見て、日本の地方での活動が少ないと感じ、東日本大震災の被災地(宮城)訪問を勧めたところ、早速、現地を訪問し複数の貴重な経験をしてくれています。思い切って行動することの大切さを参考にいただければと思います。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Yale, UCLA & 東大理科I類

海外大進学準備に出遅れながらも 短期集中で早期合格と日米合格を達成

清水悠行さん

開成高校卒

合格校 ▶ イェール大学/
UCLA/
東京大学理科I類

進学先 ▶ イェール大学

高3・4月からの本格準備。 「情熱」と「短期集中」で「軸」を見つける

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高1のときに米国の高校に1年間交換留学機会があり、そこで海外大進学という選択肢を知りました。本格的に考え始めたのは日本への帰国直後、塾の模試で目が飛び出るほどの点数を叩き出したのがきっかけでした。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の時期は日本の受験勉強、高3に入ってから海外大の準備に時間を割いていました。そのため、高3の初めの段階では自分が何を専攻したいかもわかっておらず、当然願書の中核となりうる課外活動もなく、かなり遅めのスタートを切りました。4月から色々

な分野の活動に参加し始め、最終的に自分の専攻並びに課外活動の軸としてビジネスの分野を定めることができたのが8月。結局、課外活動は12月の受験期もそのまま継続し今に至っており、近づくリミッターに焦る自分を抑えて自分の情熱を探し続けて本当に良かったと今となっては思っています。

「これだけは伝えたい」という自分の一面探し× 「多彩な表現で伝える」を意識

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

SAT®のスコアメイキングでとにかく苦戦しました。他のテスト(TOEFL®など)のように過去問を解くだけではうまく感覚が掴めず、最終的にはSAT®の理論的な部分(eg. 出題者の意図を読み取る云々)を勉強して受験しました。最終的なスコアは高3の10月、4回目の受験で1520点を取り、出願しました。エッセイに精力的に取り組まねばならない高3の2学期に、テストメイキングの作業が残っているのはかなりストレスになります。可能な限り早く片付けることを強くお勧めします。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

様々な切り口から見える自分の価値観、性格、その他自身のイデオロギーを構成する要素を熟知した上で、それをAOの印象に残るように伝えることです。具体的には、第一に過去の経験や自分の価値観などの分析を通してAOに「これだけは知ってもらいたい!!」という自分の一面を見つけること、第二にそれらを多彩な表現を交えながら伝えるという2つのステップがあります。自分が今どちらのフェーズにいるのかを常に意識することを心がけました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

エッセイ指導です。今見返すと恥ずかしくなるような初期のエッセイから大学に出せるレベルのエッセイを書けるまでに成長するには、エッセイを書いたその場、ひいてはアイデア出しの段階から良質のフィードバックを貰える環境が用意されていたことが一番大きかったです。この環境を「使い倒せる」唯一の塾、Route Hで、大学入学前にエッセイの書き方を身に付けることができたのは非常に幸運だと感じています。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Brown, Northwestern & Williams

活動からエッセイまで高いレベルでの両立に 苦勞するも、Route H初のブラウン大生に

西澤大志さん

開成高校卒

合格校 ▶ ブラウン大学 /
ノースウェスタン大学 /
ウィリアムズ大学

進学先 ▶ ブラウン大学

エッセイは唯一自分の言葉でアピールできる機会

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

小3から中2までの約5年間を米国NY州の郊外で過ごしたため、幸いにも早い段階から海外大進学が選択肢として身近にありました。また、高校進学後は留学系のイベントなどを通じて海外大、とりわけ名門米国大の魅力より深く知り、自分が大学に求める環境と一致していると実感し、出願準備へと舵を切りました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

TOEFL®は高3の6月に受験し、SAT®は高3の春と夏に受験しました。TOEFL®は難なく目標点数に到達できたのですが、SAT®には予想以上に時間と労力を費やすことになりました。一方でSUBJECTテストは、学校の授業内容で対応可能なMath IIとPhysicsを選んだため、さほど対策に時間を割かずに終えることができました。エッセイに関しては、

高3の夏まで課外活動に相当打ち込んでいたこともあり、夏休みの期間は主に自己分析に励み、執筆に本腰を入れたのは秋頃からとなりました。無論、もっと早くから書き始めることに越したことはありませんが、エッセイはアプリケーションの中で唯一自分の言葉で入学審査官にアピールできる機会です。このため、本格的に執筆に取り掛かる前にまず今までの自分と向き合って分析する事が重要と思いました。これが功を奏し、11月以降はエッセイも滞りなく進めることができ、より深い内容を伝えることができたと思います。

大会参加と課外活動は、興味のあることから始め、 後半は絞り込む

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

進学準備では、何よりも課外活動、学校の成績、テスト対策、エッセイなどを限られた時間の中で満足のいくレベルで両立させることに苦勞しました。また、Route Hの先輩方や仲間と比べてこれと言った特筆できる強みを持っていなかったため、受賞歴・課外活動に関しては、まずは手当たり次第面白そうな大会や活動に取り組むことから始め、そうした中で次第に興味分野が確立されていくにつれ、活動を絞るようにしました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

「受かりそうな自分」を売り込むことより、「素の自分」を大学に伝えられるように心がけました。とりわけエッセイ執筆の初期段階では、華やかな題材に走りがちでした。しかし、次第にパーソナルな内容を伝えることに重きを置くにつれ、日頃自分が当たり前としている習慣や癖など、一見些細と思われる側面に目を向けるようにしたことによって、個性を最大限に引き出すことができたと思います。そして遂に合格を頂いた時は、素の自分が評価されたことに感謝の念を持つと同時に、今後の4年間に自信を持つことができました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

Route Hはただ志望校への合格を目指すだけでなく、海外へ羽ばたく日本の代表として生徒一人ひとりが自己研鑽する独特な環境を提供してくれる「塾」であり、毎年の合格実績はこの生徒、講師、スタッフの方々による根強い信頼感とマインドセットの賜物だと実感しています。心身ともに試される時期に、鼓舞し合い共に高みを目指す心強い仲間、そして日夜伴走して下さった講師・スタッフの方々には感謝してもきれません。

U Chicago, U Penn & UC Berkeley

順調な準備の中、専攻希望分野選びは苦労するも IVYリーグと肩を並べるシカゴ大に合格

田村多真美さん

渋谷教育学園幕張高等学校卒

合格校 ▶ シカゴ大学 /
ペンシルバニア大学 /
カリフォルニア大学バークレー校

進学先 ▶ シカゴ大学

エッセイは9月に開始するも、短期間で完成度UP

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

4歳から12歳のときにアメリカに住んでいて、自由な自己表現のできる環境が自分に合っていると感じました。また、米国大学の特徴の一つであるリベラルアーツに魅せられ、大学ではリベラルアーツ教育に基づき、幅広く学びたいと思いました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

私の学校では成績が相対評価でつけられるので、中学生のころから学校の成績を意識していました。成績が落ちないように真剣に授業を聞き、定期テスト対策に取り組んでいました。SAT®本試験は高2のときに受験しました。当初は2回受験し、より高い点数を目指

す予定だったのですが、2回目の受験中に体調を崩してしまい、テスト後にスコアをキャンセルしました。SAT®のSubject Testは高3の時に、学校の定期テストの勉強と両立できるようにスケジュールを組んで受験しました。課外活動では、ラクロスや模擬国連、ディベートに力を入れていました。エッセイを書き始めたのは高3の9月です。Route Hの仲間と比べて遅いスタートだったのでかなり焦りました。しかし、9月末にはCommon Appで書きたいことが徐々に固まり、10月のEarly出願時には自信を持つことが出来ました。

エッセイ間の重複を精査し、違う色を出す工夫に注力

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

大学で専攻する学問分野を決めることです。リベラルアーツと言っても、最終的に専攻を決める際には定められた授業を履修していなければなりませんし、大学が各分野で異なるプログラムを設置していれば、入学時点で専攻がある程度決まっていなければなりません。進学準備を行う際に、これからの4年間、熱心に取り組みたいと思うアカデミックな活動を多方面にわたる自分の経験・興味に基づき、一つに絞ることがとても難しかったです。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の多様な側面を表すことを心掛けました。私は興味・関心が分散しているため、一つの断片のみを取り出し提示してしまうと、とても薄い人として捉えられかねませんでした。なので、似ている、及び重複する内容がないかを念入りに確認し、エッセイごとに違う色を表現するようにしていました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

同じ目標を持った仲間に出会えた点です。海外大を目指すことは日本ではまだ少数派ですが、Route Hにいる全員が海外大進学を夢として掲げています。学校での友人の多くが国内大学の受験勉強で明け暮れている中、自分だけエッセイを書いていると心寂しく、将来を不安に思うことがありました。だが、私はRoute Hで自信と仲間を見つけました。

VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Washington, Wellesley & Duke

エッセイでは苦勞するも、活動では高い成果を出し 総合大とリベラルアーツ大の名門に合格

頓所凜花さん

渋谷教育学園幕張高校卒

合格校 ▶ ワシントン大学 /
ウェルズリー大学 /
デューク大学

進学先 ▶ ワシントン大学

模擬国連で世界大会・米国大での研究など、 課外活動に注力

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

小学生の時にアメリカのボストンに7年ほど住んでいて、またアメリカに戻りたいと思ったことがきっかけです。アメリカで免疫学を研究しているラボでインターンシップを行なった経験や、模擬国連の世界大会に参加したことを通して海外大学に進学したいという意思が固まりました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

中学3年生から高校3年間を通して、コンスタントに力を入れていたのは課外活動です。模擬国連や研究などは自分が好きなことであって、受験に役立ったであろう受賞歴など

は結果でしかないと思っています。SAT®・ACT®やTOEFL®に関しては、決まった期間を決めて、集中的に勉強をしました。夏休みを利用して集中的に勉強すれば、ちょうど9、10月のテストにも間に合いますし、学校の勉強との両立も可能になります。エッセイはもう少し早く始めていたらな、と今になって思います。私は結構考え過ぎてしまうタイプなので、完璧を求めていたらなにも進まず、思い通りのエッセイがなかなか書けませんでした。

エッセイでは「大学にどう貢献できるか」をアピール

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

エッセイが一番大変でした。自分に自信がない上、上記でも述べた通りうまく手を抜くのが苦手なので、途中成果がわかりにくいプロセスには悩まされました。アドバイスとしては、とにかく書いて先生のアドバイスを受けることだと思います。私は自分のエッセイに納得がいきませんでした。Route Hで過ごした時間はとても有意義でした。友達とエッセイについて語り合うことで、視野も広がりましたし、自己認識が深まりました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の強みをできるだけアピールすることです。もし自分がこの大学の生徒だったら、、、と仮定して、その大学に貢献できそうなポイントをアピールしました。人間味を出すために、humorもできるだけ入れようと思いました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

Route Hは受験を目的とした塾ですが、それだけではなく人間として成長できる場でした。エッセイの指導は何人もネイティブの方に見ていただけるので、いろいろな視点からアドバイスを受けました。スタッフや卒業生の先輩方もメンタル面でサポートしてくれて、助かりました。同輩とはとても仲良くなりました。とても感謝しています。

Columbia, Duke & Johns Hopkins

高校時代の国内大での研究も奏功し
コロンビア大・工学部に合格

李為達さん

聖光学院高校卒

合格校 ▶ コロンビア大学／
デューク大学／
ジョンズホップキンス大学

進学先 ▶ コロンビア大学

課外活動のお手本のような大学での研究

—— 海外進学を考えたいきっかけは何ですか？

対話システムの研究を始めた高校1年時に自分に最も適する進路を考慮して決めました。大学で研究を促進するためにはコンピュータサイエンスや数学だけでなく脳科学・心理学などといった幅広い分野を身につける必要性を実感しましたが、日本の大学では学部生が研究に励むのは難しい上に教養学部の授業範囲が望むものとは少々異なりました。そこで、学部時代から研究に時間をかけられて自分の学習分野を自分で決められる米国大学への進学を考えました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

テスト対策

TOEFL®とSAT®IIは対策本を購入して進めました。TOEFL®は運良く早々と望ましい点が取れましたがSAT®IIは高三の春に受けて終わらせることができました。SAT®II(サブジェクトテスト)は物理と数学IIを選択しましたが、この二科目は学校の勉強を重ねていれば大丈夫だと思います。

課外活動

力を入れた課外活動は大きく二つあります。

一つは二年間ほど大学の研究室で機械学習の分野の研究です。中学時代に人間のように会話ができるAIに興味を持ち、高1の頃にうまくいきそうなアイデアを用いていくつかの大学の教授にメールで打診したらある教授が受け入れてくれました。そこから研究を続けながら研究室単位で大学ロボコンに参加して自然言語をロボットのコマンドに変換する機械学習モデルの開発など様々な学びの場を通りながら高二の終盤頃に人工知能全国大会(JSAI)という日本最大規模のAI学会で史上最年少論文受諾者として論文発表をしました。二つ目はアメリカの高校生向け国際ロボコン(FRC)に参加する日本チームの代表を務めたことでした。他チームは高校の部活などで活動している一方、ただモノづくり好きな高校生が集まった僕たちは資金やリソースなどが殆どありませんでした。そこで、コネクションを駆使してクラウドファンディングや企業訪問を通して300万円集め、みんなで一人前のチームに築き上げました。また、日本在住のFRCアラムナイを集めてアラムナイ会を結成したり、子供に電子工作を教えたりMaker Faireという展示会などでブースと立てるなどといった活動もしました。

アプリケーションはバランスがある方が好ましいかもしれませんが、ただ好きで課外活動に取り組んでいたこともありアプリケーション自体はかなり偏りがありました。

受賞歴

受賞歴も理系ばかりでした。大学ロボコンの他、パソコン甲子園(競技プログラミング大会)、宇宙開発系の大会などの成績を書きました。また、取得した奨学金も書けるので、賞の代わりに江副リクルート記念財団の奨学金をあわせて五つ書きました。

エッセイでは「自分ユニーク」や「ユーモア」も見せる

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

エッセイ執筆の他に、実は国籍関連のことでとりわけ苦労しました。

僕は中国国籍としてアプリケーションを提出しましたが、近年米国では中国人留学生の取り扱いがかなり厳しくなりつつあり、院生だけでなく学部生にも影響が出るようになったのはここ数年のことです。昨年度・今年度は米国外に在住しインターナショナルスクールに通わない中国人学生のトップ大学の合格者数は例年と比べて大きく落ちており(後期受験ではいわゆる「HYPSM」の五校は合格者わずか数名、前期は0人の大学もあります)、今後也更に厳しくなると予想されています。一般的に競争率が激しい分野として航空宇宙工学やコンピュータサイエンスなどが知られていますが、今後は機密情報に関わるということでAE・CS(Aerospace Engineering, Computer Science)専攻は避けなければいけないといわれている現実を高三の終盤に知り、かなりの衝撃を受けました。自分ではコントロールが効かないラベルによって受験結果が左右されることを覚悟しながら前に進むのは正直のところ非常に苦しく受け入れ難いことでした。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

受験期に先輩方の話を伺って学んだことですが、いかに「自分」をアプリケーションで表現できるかがポイントだと実感しました。「自分しか持っていないものは何か?」という問いに対する答えをブレインストーミングして個性が強く出るアプリケーションになるように心がけました。また、ジョークなどはさんだりして読者に面白いと思われそうな書き方を意識したエッセイも書きました。

—— Route Hでよかった点は何ですか?

エッセイのフィードバックの速さや、比類なき生徒一人一人への対応の厚さだけでなく、大学に入ってからのことを考慮して、生徒が良い英文の書き方を身につけられるような指導方法がRoute Hの突出する部分だと思います。直前期になると、講師・スタッフの方々も徹夜で付き合ってください、Route H生が提出したエッセイを、ほんの数時間後にハイクオリティな形でフィードバックをしてくださるだけでなく、直前期でないときも、大抵提出した次の日にフィードバックが返ってくるのが殆どで、おかげさまでライティング力が上達していく成長も実感できました。

Route H のサポートを受けて 2020・2021 年度 米・英トップ大に進学した生徒

進学先	氏名	進学先	氏名
2020年度		2021年度	
Harvard	菊田真理	Yale	榎澤哲
Harvard	S. H.	Princeton	黒田凜
Yale	清水悠行	Stanford	S.Y.
Yale	T. K.	MIT	長島大来
Princeton	櫻村樹理亜	Caltech (大学院)	金子生弥
Stanford	黄 允珠	Columbia	田村彰悟
Brown	西澤大志	U Penn	石川将
Columbia	李 為達	U Penn	金世和
Columbia	谷口友哉	Brown	大野綾夏
U Penn	平沼昌太郎	UC Berkeley	小林新門
U Chicago	田村多真美	UC Berkeley	白石航太郎
Johns Hopkins	関口愛未	UC Berkeley	末廣隆介
U Washington	頓所凜花	Johns Hopkins	安藤万留
Wellesley	石川満留	Swarthmore	柚木一心
2021年度		Grinnell	今西はな
Harvard	小野祐	Minerva	前川岳也
Harvard	R.M.	Harvey Mudd	谷澤文礼
Harvard	A.O.	UCL (UK)	宮本陸央
<p>※氏名は敬称略。イニシャル表記は氏名非公表の生徒。 ※柳井正財団奨学生は17名、江副財団奨学生4名、孫正義育英財団奨学生3名、 重田奨学金財団生1名となります。</p>			

**徹底的な
ライティング指導のおかげで、
説得力のあるエッセイを
書けるように!**



デポー大学 (アメリカ) 進学

原田 雄生 さん

受験タイプ 海外大 専願
合格校 DePauw University (デポー大学) / Lawrence University / Knox College / Kalamazoo College / Lake Forest College / Ohio Wesleyan University / Bennington College / Wartburg College
受講クラス ● TOEFL iBT® Test対策 Class Master
 ● SAT® 対策 Class
 ● 海外大学出願パック

受講のきっかけ

実は、国内大学に行き、その後、大学院で海外留学をしようと思っていました。高校1年の10月に進路相談をした際、担任の先生から「日本の大学を選ばなくてもいい」と言われ、高1の1月には独学で準備を始めたのですが、秋田県に住んでいたため海外進学の方法など情報収集に苦労しました。転機は、高2の5月に海外進学相談会に行ったことです。そこでGlobal Learning Centerを知りました。オンラインで受講できるため、秋田にいながらTOEFL iBT®テストやSAT®の対策や出願アドバイスを受けられるのが魅力だと思い受講を決めました。

受講して感じた魅力

GLCを通して日本全国に高い志を持った友人ができたことはすごく良かった点です。授業外でも進路について相談しあうなど、お互いに切磋琢磨して出願準備を進められました。他の受講生の将来のビジョンや課外活動の大きさに鼓舞されて、「自分も負けていけない」と努力し続けることができたと思っています。

**受け身ではなく
常にアクティブな姿勢が
求められる
GLCの授業で実力アップ!**



ハバフォード大学 (アメリカ) 進学

中谷 海渡 さん

受験タイプ 国内・海外大 併願
合格校 Haverford College (ハバフォード大学) / 東京大学 / Colby College / Grinnell College / Carleton College / Vanderbilt University (東京大学理科II類に入学後、ハバフォード大学へ)
受講クラス ● TOEFL iBT® Test対策 Class Intermediate
 ● SAT® 対策 Class

受講のきっかけ

留学に興味を持ったのは高2の4月。最初は単なる海外への憧れみたいなものですが、文理選択の際に自分の将来を考えてすごく迷い、専攻も決められなかったのが海外のリベラルアーツカレッジを考え始めたきっかけになりました。受験準備を始めて、TOEFL iBT®テストの対策方法を探していたときにWebで見つけたのがGlobal Learning Centerでした。オンラインの講座であること、週1回のペースで進められること、自宅で夜に受けられること、などが受講の決め手になりました。

受講して感じた魅力

GLCでは、受け身ではなく常にアクティブに授業を受けることが求められました。質問にただ答えるだけでなく、毎回自分がなぜその答えを選んだのかを説明することで、着実に力がついていきました。また、海外大学に実際に出願するまで、様々なサポートを受けられることがGLCの大きな魅力だと思います。出願のノウハウなどを持っているGLCはすごく頼りになる存在でした。

**個人の弱みに沿った
的確なティーチング。
GLCでの学びが
大学でも役立った!**



ウェズリアン大学 (アメリカ) 進学

羽鳥 静華 さん

受験タイプ 国内・海外大 併願
合格校 Wesleyan University (ウェズリアン大学) / Georgetown University / Lake Forest College / 東京外国語大学
受講クラス ● TOEFL iBT® Test対策 Class Master
 ● SAT® 対策 Class

受講のきっかけ

きっかけは2つ。1つは英語ディベートの全国大会で3位に終わり、国際大会への参加機会を逃してしまったことです。もう1つは、アメリカの大学でやるようなアウトプット中心の英語に関する授業があり、その授業が大好きだったことです。通っていた高校の英語のカリキュラムを監修していた大学の教授に、「海外に行きたい」と相談したところ、海外に直接進学する方法について教えてくださいました。その際にベネッセのGlobal Learning Centerも紹介していただいたので、受講を決めました。

受講して感じた魅力

GLCの授業は少人数なので、先生方が各々の弱点を理解し、それに沿ったティーチングをしてくれる点がとても良かったです。毎回の質問が個人の弱みの克服につながるようなものになっており、授業ごとの学びがとても大きかったですね。たとえばSAT®のエッセイの講座で身につけたエッセイの書き方や、自分での読み直し方などは、大学でもとても役に立ちました。

新型コロナウイルスの影響でSAT®の受験計画が急遽変更となる中で、アメリカ・シンガポール・日本のトップ大学に合格



文系・理系どちらも幅広く、興味のある分野を学べる柔軟な教育システムに魅力を感じ、海外大の受験を決意

柳井正財団奨学生



自分のやりたいという気持ちを大切に課外活動をする事で大学での学びにつながる興味関心を発見



ペンシルベニア大、スワースモア大、イェール・NUS大、京都大学 農学部・応用生命科学科、国際基督教大学等に合格

松田 花奈先輩 (桜蔭中学校高等学校出身)

—海外の大学を受験してみようと思われたきっかけを教えてください。

Asia Union Leaders Summit (Route Hが協賛しているサマープログラム)に参加した際、異なるバックグラウンドの人々と共に作業をしたり、議論をする場面が多くありました。普段は似た環境下で育った仲間と「以心伝心」の生活だったため、難しさを覚えました。ただ、その難しさを楽しんでいる自分がいることに気づいたとき、海外大学で勉強をしたいと思いました。それから、海外大学を調べていくうちに、学生の本気度や、教授の教育に対する情熱に惹かれていきました。

—海外の大学と国内の大学の併願で大変だったことを教えてください。

新型コロナウイルスの影響で、TOEFL iBT® やSAT® の受験が当初の予定より後ろ倒しになってしまったため、それらの対策と国内大受験対策を並行して進めなければならない期間が長くなってしまいました。また、高3の2学期に、周りの仲間が国内一般受験対策にラストスパートをかける中、私はひたすらエッセイを書き続けており、不安になることが何度もありました。

—海外の大学と国内の大学の併願にどのように取り組まれましたか。

高校三年間を通して、学校での勉強に集中し、残りの時間で興味のある課外活動に積極的に参加しました。高3になったタイミングで新型コロナウイルスの影響で学校がほぼ自宅学習になったので、午前中は勉強に集中し、午後はオンラインで課外活動、と決めて時間を有効活用したのと、毎日散歩やバレーボールなどの運動も欠かさないようにしました。夏休み以降は海外大学出願のためのエッセイをひたすら書く時期が長かったので、冬に海外大学の出願を終えてからは、共通テスト対策をするのと京都大学の過去問を購入し、ひたすら問題演習をしました。

—受講されたお茶の水ゼミナルのクラスの感想を教えてください。

TOEFL iBT® 対策クラスとSAT® 対策クラスを受講しました。先生はグループワークをしたり全員が参加できるようにクラスを運営してくれて、クラスに行くのが楽しかったです。クラスメイトは、非常に英語力が高く、また、視野が世界に開かれていて様々な課外活動をしている人が多かったです。今でも連絡を取り続けている人も何人かいて、刺激を受け続けています。

ペンシルベニア大、ミドルベリー大、早稲田大学 基幹理工学部・政治経済学部

宮原 隼先輩 (女子学院中学校高等学校)

—中高時代に力を入れた課外活動を教えてください。

高2から高3にかけて行ったディベートに思い入れがあります。テニス部を引退した後、有志を集めてディベートの活動を行いました。部活動という枠組みがない中で、教えてくれる先生もあらず、自分たちで練習方法を考えたりするのは、苦労もありましたが楽しかったです。無謀だと思われたディベートの大会に出場し、予想以上の結果を得られ、達成感が大きかったです。

—海外の大学と国内の大学の併願で大変だったことを教えてください。

夏から秋にかけて周りの友人が国内大学の入試に向けて勉強しているのに対し、私はエッセイばかり書いており、置いて行かれるという焦りを感じていました。日本の大学にはどこにも受からないのではと心配している中で早稲田大学の理系と文系の2学部から合格をもらえてよかったです。

—受講されたお茶の水ゼミナルのクラスの感想を教えてください。

SAT® 特有の問題の解き方を教えてくれたり、授業の前後に個別でどのようにすればスコアが伸びるのか、苦手な分野をどうすれば克服できるのかなど相談に乗ってくださったのは、とても心強かったです。同じ志をもつクラスメイトからも刺激をもらい、自分も頑張ろうという励みになりました。また、SAT® の問題など、わからなかったところをクラスメイトと休み時間などに話そうことができ、その中の学びも多かったです。

—受講された海外大進学出願バックの感想を教えてください。

日本語・英語両方のエッセイ指導をして頂いたことは、とてもありがたかったです。大学出願だけでなく、奨学金出願のエッセイを書いた際に、自分では完璧だと思っても、指摘を頂けたことで、曖昧な表現があったり、自分の中で、考えがまとまっていなかったことに気付かされることも度々ありました。指摘をたくさん頂けたことで、確実に良いエッセイになったのではないかと考えています。

東京大学 文科三類、早稲田大学 教育学部・国際教養学部 スミス大等に合格

渡辺 紗於里先輩 (女子学院中学校高等学校)

—海外の大学と国内の大学の併願にどのように取り組まれましたか。

高校三年間を通して、海外大学に提出するGPA (評定平均) を高く維持するため、また国内大学受験の基礎作りのため学校の定期試験を最重要視していました。そのほかに、高1ではTOEFL® のスコアをできるだけ上げきることを、高2では充実した課外活動を意識し高2の冬からはSAT® 対策コースを受講しました。海外大と国内大で気持ちが半々だったため、選択肢をできるだけ増やすという目標を、シーズンごと月ごとに重点を置くべきことを自分なりに決めてそれに集中しました。

—受験で忙しい高3をどのように過ごされたか教えてください。

TOEFL® やSAT® は、オリジナルの分析ノートを作り自分と解答解説の思考回路の違いや改善点を毎回まとめて、文章や問題のタイプごとに自分が改善すべき部分を明確化しました。11月中旬から東京大学の過去問を解き始めました。12月からは、海外大のエッセイを書きながら共通テストの予想問題を数回解きました。私立の過去問は約5年分、国立は約10年分、弱いところはさらに10年分ほど解きました。

—受講されたお茶の水ゼミナルのクラスの感想を教えてください。

クラスの雰囲気がとても明るく、クラスメイトと話し合う時間も多かったため自然と仲良くなり、先生が真剣に優しく面白く本当に沢山のアドバイスを下さったため、どんなに疲れた日でも元気になって帰ってくるようなクラスでした。

—今、受験を終えてみて、海外大受験にチャレンジしたこと、その経験はご自身にとどのような意味を持っていますか。

国内大への進学を考えている今振り返っても、海外大を受験して本当に良かったと思っています。まず課外活動しようと思ってから、自分のやりたいという気持ちを大切にどんどん新たな世界に足を踏み入れられるようになり、そこで今まで出会わなかったような人に出会い、今にも強く繋がる新たな興味関心が生まれました。また、国内大の準備中は考えるのを疎かにしがちな私自身のpersonality, passion, potentialについて、課外活動や特にエッセイを書く過程で上辺だけの考えでなく本当に確かなものを探し掘り下げていく行為は、どの場所で4年間を過ごすかにかかわらずこれからの私の生き方を探求する際の基盤となる大切なことでした。

「Route Hグループ」とは？

日本の高校から12年連続ハーバード大、イエール大に合格者を出し続けている日本で唯一の進学塾。出願対策×英語テスト対策に加え、各種イベントやコミュニティからの情報提供で日本の中高生のグローバル進路実現をサポートします。

「Route Hグループ」の3つのサービス

※学年の目安となります。



Route H

海外トップ大進学塾



GLOBAL
LEARNING
CENTER

Route Hがプロデュース
オンライン英語講座
&
出願サービス

オンライン

Benesse お茶の水ゼミナール
海外大併願コース

アッス教育企画

英語館

Route Hがプロデュース
教室型英語講座

教室

中学生

アカデミック英語対策講座を受講する。

全国からオンラインで受講する ⇒ Global Learning Center
都内で教室にて受講する ⇒ お茶の水ゼミナール海外大併願コース
関西で教室にて受講する ⇒ アップ英語館

話す・書く・聞く・読むという英語4技能を鍛え、「英会話力」ではなく、海外で勉強する際に必要となる「アカデミック英語力」の基礎を徹底的に身につける。

お茶の水ゼミナール特設

Junior Master Class

アップ教育企画英語館特設

ULFE [アルフィ] Junior / ULFE [アルフィ]

高校1年生・高校2年生

高校3年生

Route Hが主催・共催・協賛する
各種イベントに参加する。
海外進学カウンセリングを受ける。

Essay対策指導、出願指導等を受ける。

TOEFL iBT® Test/SAT® 対策講座を受講する。

全国からオンラインで受講する ⇒ Global Learning Center
都内で教室にて受講する ⇒ お茶の水ゼミナール海外大併願コース
関西で教室にて受講する ⇒ アップ英語館海外大併願コース
海外大学や国内のグローバル系大学の受験に必要なTOEFL iBTやSATの対策講座を受講し、早い段階で目標スコアをクリアし、出願の準備を開始する。

出願サービスを利用する。

海外大志望
⇒ 海外トップ大出願サポート
国内大志望
⇒ 総合型選抜対策プログラム

Challenge Yourself !

終わりのなき挑戦が道を開く

どんなに学力に秀でていても、優れた表現力を持たなければ世界トップレベルの大学に合格することはないでしょう。自分についての何を伝えるのか (What)、なぜそれが自分よりもより他者や大学にとって重要なのか (Why)、いかにしてそれを効果的に書き表すか (How)。この3つの要素をエッセイに託して強烈にアピールしてください。あなたの信念と、それに基づく小さくても意義ある行動を書き示し、読む人に新鮮な感動を与えて新たな行動を引き起こすこと。表現力とはつまり、人を動かす力。それこそが、最高峰の大学が求めるリーダーに必須の資質ともいえるのです。

このような表現力を身につけるには、徹底した自己分析と訓練が必要です。現状に満足せず、二手も三手も先を読んで自分の考えを突き詰めていく。「Route H」はその手ほどきをする、いわば人生道場でもあります。



海外トップ大進学塾



マイケル・リンゲン
Michael Ringen
Route H ディレクター

Essay対策指導

海外トップ大の合否を左右する「Essay」。その対策を1対1のプライベートレッスンで行います。トレーニングを通して、エッセイ作成をサポートいたします。

出願指導（主に最終学年）

具体的な出願戦略を始め、国内大との併願戦略、奨学金・大学面接対策、高校の先生への推薦状等の依頼の仕方など、特に最終学年に必要なあらゆる項目をサポートします。

- 海外大出願戦略、国内大との併願戦略
- 奨学金・大学面接対策
- 推薦状等高校書類の依頼の仕方

課外活動・受賞歴対策、テスト受検戦略

入学審査で評価の比重が高い、課外活動・受賞歴の補強対策、SAT・TOEFLなどのテストの受検戦略などをサポートします。

- 課外活動・受賞歴の補強対策
- テスト受検戦略

各種イベント開催

海外大進学の情報提供や、海外トップ大に在籍するRoute H 卒業生や来日する海外トップ大の学生と高校生の交流会イベントなどRoute Hならではのイベントを開催しています。

- 海外トップ大進学ガイダンス「Route H Info Session」
- ハーバード大生（学部生や大学院生）と高校生の交流会

MESSAGE



出願者大幅増による合格率低下、
そして、高校生の大学院合格という快挙も

尾澤 章浩 「Route H」責任者

昨年は、前年から発生したコロナ禍によるSAT等の試験中止への大学側の配慮で、SATやACTのスコアなしでも出願可能となったことも受け、IVYリーグを始め、米国トップ大で、出願者が大幅に増加し、結果、合格率が低下するという状況が発生しました（3～5%の大学が多い）。しかし、そうした状況にもかかわらず、「Route H」から、ハーバード、イエールに12年連続、プリンストンに9年連続という形で合格者を輩出できました。また、多くの生徒が、柳井正財団・江副財団などの奨学生にも選ばれています。また、塾生1名が、カリフォルニア工科大学の大学院に合格（スタンフォード、エールにも合格）という快挙もありました。

また、SAT Subject testsの廃止や、一部の大学ではSAT/ACTのスコアは考慮しない方針への変更などもありますが、高校の成績、出願エッセイ、課外活動・受賞歴、テストスコア、推薦状など多面的に評価する流れは変わっていないため、それぞれに注力してほしいと思います。各項目について、触れていきたいと思っています。

★出願状況、合格率

前述のように、ハーバード・MITを始め、トップ大を中心に、出願者増・合格率低下が起きています。コロナの影響、大学の出願方針の変更、College BoardのSATに関する変更などを受けて、今年も出願状況に影響を受ける大学があると思います。

★出願制度

2年前に「早期出願」を廃止したプリンストン大学が、昨年、早期出願を復活させました。また、コロナへの配慮で、昨年もSAT/ACTは未受検でも出願可でしたが、コロナの感染者数の大幅な減少があれば、それらのテストが必須になる可能性もありますが、そうした一部の変更は今年もありません。

★課外活動・大会参加

コロナの影響で、課外活動や大会参加の機会が世界的に減りましたが、コロナの感染者数が大幅に減少すれば、また以前のように普通に課外活動を行ったり、大会が実施される可能性もあります。課外活動や受賞歴は、入試での評価の比重が高い以上、通常の形、オンラインに関わらず、積極的なコミット・成果が求められることに変わりはありません。

英語4技能オンライン講座

当たり前**に**英語4技能を駆使し、考え、相手の言っていることを感じ、ネイティブに通じるようになる。

海外大学の入学審査 TOEFL iBT®Test での目標スコア獲得のために、Route H がプロデュースする4技能実践型のオンラインレッスンを行っています。4技能「読む・聞く・話す・書く」を技能 × 技能の掛け合わせで運用することで、学習効果を生んでいくメソッドです。講師や他受講生とコミュニケーションをとりながら英語力を養成し、「当たり前**に**4技能を駆使し、考え、相手の言っていることを感じ、ネイティブに通じる」ことを実感してください。

Learning Management System

パソコンやスマートフォンを利用することで、いつでもどこでも予習・復習・宿題を行うことができる専用システムです。隙間時間の活用で最大の効果を得ることが可能です。



Route Hがプロデュース

オンライン英語講座 &
出願サービス



講師や他受講生と近況報告などを行うことでウォーミングアップ。1クラス最大8名の毎週のオンラインレッスンが、英語力向上をペースメイクします。



「わずか15秒で自分の意見をまとめて、短時間で回答する」というテスト本番に向けて、できる限り同じ環境で学ぶことでアウトプット力を鍛えます。

生徒を目標まで導くシステム

厳しい講師採用基準と継続的トレーニングを経た精鋭講師陣、
受講生に寄り添い伴走するチューター達、
そして英語力を正確に測るアセスメント。

応募者に占める採用率は2%以下。英語がネイティブ言語であるだけではなく、
講師経験、教育学・言語学での教養や知識、教材開発スキルを重視して、講師を採用して
います。また、定期的に英語力を正確に測るためのアセスメントを実施し、その結果をもと
にチューター達が面談を実施し目標までのプロセスの明確化、最適な学習環境作りと学習
方法のアドバイスを通じ、目標達成へ導きます。

課外活動の支援

海外大・国内難関大総合型選抜で必要不可欠な課外活動を支援。

自分の興味を見つける段階から始まり、課外活動の探し方や参加後のリフレクションを仲間たち
とともにやり、大学へ進学する目的を見つけるとともにユニークなポートフォリオを作りあげます。



授業の質向上に向けて、採用後にも継続的なトレーニング
を行います。また、受講生の検定試験スコア等を検証し、適
宜授業を改善しています。



Writingではエッセイを「受講生全員が一斉に書く」という
場面も。書く速さや表現の巧みさなどで他受講生を目標に
でき、刺激になります。

同じ志を持つ仲間からの刺激

日本全国から集うグローバル進路を志すクラスメイト達。
生徒同士がお互いの力を発揮して協力して学ぶ。

クラスには同じ志を持った仲間が日本全
国から集い、「一緒に考え、教え合い、学
び合う」コミュニティを形成しています。
この環境を最大限生かすことが英語力
上達への近道になるとともに、課外活動
など様々な情報交換の場となります。



ニーズに合わせた充実のプログラム

テスト前に短期間でスコアアップを狙う受講生向けにマンツーマン特別講座。
難関大学の総合型選抜もしくは推薦入試で合格を目指す
高校3年生向けの対策プログラム。

普段のグループレッスンに加え、個々の課題をピンポイントで対策するために、講師と1対1で授
業を受けられるマンツーマン特別講座をオプションで受講できます。TOEFL®やSAT®の試験
までの残り少ない時間で最大限のスコアアップを目指されたい受講生におすすめの講座です。
また、総合型選抜対策プログラムでは、小論文に必要な読解力・論理的思考力や、志望理由書
で自己アピールするための表現力を養うための講座などをご用意しています。

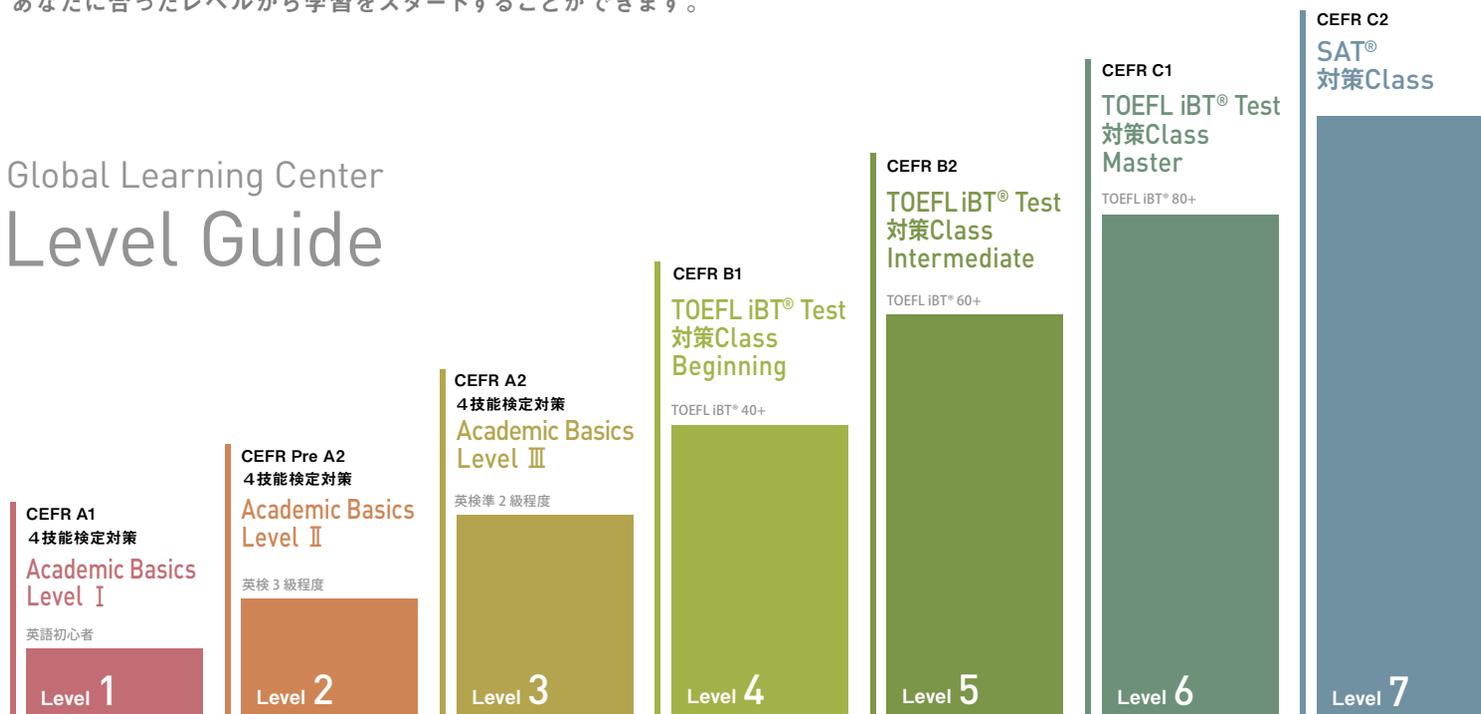
Global Learning Center レベル表

Global Learning Center のレッスンなら

学年、学校の学習進度、受講開始時期に関係なく

あなたに合ったレベルから学習をスタートすることができます。

Global Learning Center Level Guide



学習目標	進路目標	サポート
<p>アカデミック4技能基礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語学学校経由でコミュニティカレッジへ、その後4年制大学へ編入 英語を活かした国内大受験 	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセ留学センターのご紹介 学習カウンセリング
<p>TOEFL iBT® Test 対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外難関大 国内大 総合型選抜 (旧 AO、推薦) 国内グローバル系大学・学部 	<ul style="list-style-type: none"> 海外トップ大出願サポート / 国内 総合型選抜対策プログラム 各種エッセイ添削サービス / 出願個別コンサルティング
<p>SAT® 対策</p>		

※「ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)」は、欧州評議会が定めた言語の種や国境を越えて、異なる試験を相互に比較することが出来る国際標準です。

SAT[®] Test対策class

CEFR C2

120分×月4回

目標 SAT[®] テストでの高得点取得

対象 TOEFL iBT[®] Test 80 点以上、IELTS[®] 7.5 以上

TOEFL iBT[®] Test対策class

Master Intermediate Beginning
CEFR C1 CEFR B2 CEFR B1

120分×月4回

目標 TOEFL iBT[®] Test での高得点取得

対象 Master : TOEFL iBT[®] Test 80 点以上、IELTS[®] 7.0 以上
Intermediate : TOEFL iBT[®] Test 60 点以上、IELTS[®] 6.0 以上、英検準 1 級
Beginning : TOEFL iBT[®] Test 40 点以上、IELTS[®] 5.0 以上、英検 2 級

講座内容

より速く読み、正確に聞き、論理的に話し、独創的に書く。4技能すべてにおいてさらなる高みをめざす。
TOEFL iBT[®] Test 対策クラスは、海外難関大や早稲田大・上智大・ICU などの国際教養学部といった、国内でも最難関のグローバル系大学・学部を目指す方々のための講座です。大学入試で TOEFL[®] Test スコアを活用することをめざし、テストの目標スコア取得を目的とします。「速く読む」「正確に聞く」「論理的に話す」「独創的に書く」など、英語力の高みを目指すことができ、大学入試英語だけでなく、海外留学や海外大進学に必要な使える英語 4 技能を身につけます。

アウトプットの時間を多く取ることで、英語を使いこなすためのトレーニングを行う。

語彙や文法の基礎は既に押さえているものの、それらの知識を使いこなしてアウトプットすることが苦手な受講生が少なくありません。レッスンではアウトプットの機会を多く設け、論理的思考のフレームを用いた思考と発話の練習を繰り返し行います。TOEFL iBT[®] Test 対策はもちろん、さらに英語 4 技能を使いこなすためのトレーニングを重ねます。

TOEFL iBT[®] Test対策クラスは、3つのレベル別



Master

Reading: 700 語程度、Listening: 4~5 分程度の
パッセージを扱います。内容を瞬時に理解し、
構造的かつ論理的にひも解いていく力を養います。

Mastering Skills for the TOEFL iBT
Second Edition Combined Book with
MP3 CD / Compass Publishing



Intermediate

Reading: 500 語程度、Listening: 3~4 分程度
のパッセージを扱います。速読力を鍛え、どんな
内容でも対応できる応用力を磨いていきます。

Developing Skills for the TOEFL iBT
Second Edition Combined Book with
MP3 CD / Compass Publishing



Beginning

Reading: 300 語程度、Listening: 2~3 分程度
のパッセージを扱います。論理的な構造で書かれた学術
的な文章に触れ、着実に読み、聞きとる力を身につけます。

Building Skills for the TOEFL iBT
Second Edition Combined Book
with MP3 CD / Compass Publishing

講座内容

海外大出願に必要なSAT[®]のスコア取得をめざし、高度なアカデミックスキルを身につける。

SAT[®] Test 対策クラスは、米国大や国内難関大など、出願時に SAT[®] Test のスコア提出が必要な大学の合格を目指す方のための講座です。Evidence-based Reading & Writing と Essay の対策を通して、速読読解力・論理的思考力・短時間で自分の意見をまとめて書く力など、高度なアカデミックスキルを身につけます。

テクニカルな指導と正解の理由を追求するReading&Writing

テーマに対するアプローチを学ぶEssay

Evidence-based Reading & Writing では、問題形式別の答えの導き方や、素材文のどういったポイントに注目すべきかなど、テクニカルな指導を多く行います。一方で、正しい選択肢について、なぜそれが正解なのかを必ず確認し、批判的に文章を読む力を養います。

Academic Basics class (4技能検定対策クラス)

Level III Level II Level I
CEFR A2 CEFR Pre-A2 CEFR A1
90分×月4回 90分×月4回 90分×月4回

目標 英語 4 技能の基礎を統合的に学び、運用する力を身につける
各種英語 4 技能検定試験のスコア取得

対象 Level III : 英検準2級以上 Level II : 英検3級以上 Level I : 英検3級程度

講座内容

Academic Englishの習得に向けて、まずはコミュニケーションな英語力を磨く。

英語でのスムーズなコミュニケーション力を身につけた方や、将来的に大学・高校受験で英語を強みにしたい方、GTEC CBT[®] や英検、TEAP[®] などの各種4技能検定試験の準備をしたい方のための講座です。まずは英語で読み・聞き、英語で考えることを重視して基礎を磨き、徐々に応用力の構築につなげます。

各種テストの問題形式に対応。様々な場面に対応できる英語力を養う。

Academic Basics クラスでは、Reading・Listening は TOEFL iBT[®] Test ベースのテキストを用いますが、Speaking・Writing では GTEC CBT[®] や TEAP[®]、IELTS[®] など、各種4技能検定試験で出題される問題形式を取り入れています。高校受験や大学受験で4技能検定試験を利用する方に、ぴったりの講座です。

Academic Basicsクラスは、3つのレベル別



Level III

200 語~300 語程度のパッセージを扱い、より早く
読み、聞いて理解する力を磨きます。多様な問題
形式に触れることで、応用力が身に着きます。

Basic Skills for the TOEFL iBT 3
Reading Book, Listening Book
with Audio CD / Compass Publishing



Level II

150 語~200 語程度の短いパッセージを扱いなが
ら、内容は Level I よりくつと学術的になり、単語
の難度も上がります。知識の幅を広げ、英語のレ
ベルを一段引き上げます。

Basic Skills for the TOEFL iBT 1
Reading Book, Listening Book
with Audio CD / Compass Publishing



Level I

学術的なトピックを扱いつつも、新しい単語や文
法が用いられており、基礎力を養うには最適です。

Reading Jump 1
Student Book
with Audio CD / Compass Publishing

海外TOP大と国内難関大のダブル合格を目指す

アップ英語館海外大併願コースのConcept

●海外大と国内大の併願指導

海外大の進学に必要な英語力の養成、願書作成支援、SAT® やエッセイ対策を実施するとともに、国内大学の受験にも備え、負荷を調整した適正な学習スケジュールや受験戦略の立案を、国内外の受験に豊富な指導経験を持つプロのカウンセラーが、生徒一人一人の状況に合わせて行います。セミナーなど保護者に対する情報提供も定期的実施します。

●実績のあるRoute H、研伸館と連携した支援

海外大受験については、ハーバード大など世界のトップ大に国内随一の合格実績を誇る「Route H」と連携し、定期的な講師研修会や合格ノウハウの共有により、実績に裏打ちされた質の高い指導を実施します。国内大受験については、国内難関大学に実績のある「研伸館」と連携した指導を行います。これにより英語以外の教科の対策も万全です。

●海外進学しても通用するアカデミックな英語力の養成

ネイティブに勝るとも劣らないアカデミックな英語力を養成すること…これが英語館の至上命題です。単純な英語四技能に加え、「批判的思考力」や「論理的想像力」といった処理の技能、日本人が特に苦手とする「議論をする力」、「レポートを書く力」、「自分の意見をまとめて伝える力」なども身につけられるカリキュラムになっています。

アップ教育企画

英語館

Route Hがプロデュース

教室型英語講座

アップ英語館の特長

①多様なバックグラウンドやニーズに対応できる講座展開

帰国子女の人、インターナショナルスクールに通っていた人、幼少のころから英語を習ってきた人、学校の授業が始まってはじめて英語に触れた人…スタートは人それぞれ。海外大への進学を目指す人、あくまでも国内の大学を志向する人、検定試験のスコアのために頑張る人…ゴールも人それぞれ。英語館にはこの全てに最適解を示せるノウハウがあります。

②終着点を意識したプロによるコンサル

英語館では年に2回、TOEFL ITP® テストを用いた英語力診断を実施します。この結果に基づき、豊富な指導経験を持つカウンセラーが、今何をすべきなのかということを受験時点に至っておくべきレベルからの緻密な逆算に基づいて個別指導します。この「個別コンサル」では課外活動のアシストや学校の成績管理等も行っていきます。

③世界を見据える仲間とのコミュニティ

英語館では国内外のトップ大を目指す人たちが多く学んでいます。高校生にして大学の教授の元で研究活動に没頭する人、科学オリンピックで活躍する人、海外大のリーダーシップ・プログラムに選抜される人…様々な人たちがいます。こういう人たちと、物理的に机を並べることで、「世界レベル」を肌で感じることができます。



アップ英語館講座紹介

■海外大併願コース

SAT[®] Class

120分授業/月3回/定員8名 対象(目安):中3~高3

海外大併願コースの最上位クラスです。英語の力としてはほぼネイティブに近づいている受講生に対して、質・量の両面における語彙力の増強とスピードの強化を通じて、屈強な英語力に更に磨きをかけます。

TOEFL[®] Master Class

180分授業/月3回/定員15名 対象(目安):中3~既卒

海外トップ大進学的前提となる TOEFL[®] 100 点オーバーを目指す上級クラスです。「合理的な想像力」や「批判的な思考力」を鍛え上げ、どんな文にもうろたえることなく立ち向かえる英語力を養成します。

TOEFL[®] Intermediate Class

180分授業/月3回/定員15名 対象(目安):中2~高3

国内大の総合型選抜などで有利にはたらく TOEFL[®] 80 点程度の得点を目指す中級クラスです。インプット技能としては「要約力」、アウトプット技能としては「端的な回答力」を徹底的に鍛えます。

TOEFL[®] Beginning Class

180分授業/月3回/定員15名 対象(目安):中1~高2

現状、英検[®] 準2級程度のレベルで TOEFL[®] 対策を始めようと思っている中高生のための初級クラスです。日本語を思考から追いつく習慣を身につけることで、本質的なスピードアップを目指します。

IELTS[™] Class

180分授業/月3回/定員15名 対象(目安):中1~高3

TOEFL[®] テストと双璧をなす、IELTS[™] Academic Module の対策をするクラスです。オーバーオール 5.5 ~ 6 点程度の受講生をターゲットとし、6.5 ~ 7 点を目指すプログラムです。

1on1 Tutorial

60分授業 月3回 個別指導

特定の技能だけに課題があるのでそこだけカバーしたいなどというニーズに対応した個別指導。SAT[®] や TOEFL[®] の講座を担当している外国人講師が 1:1 でレッスンを実施します。エッセイ対策も可能です。



■英語力強化コース

ULFE B2-C1

150分授業/月3回/定員8名 対象:高校生

英語力強化コースの最上位クラスです。最新の世界情勢についての理解を深めるとともに、世界が直面している諸問題に対して、自らの主張をまとめ、発信する力を養成します。

ULFE B2 / ULFE B1-B2

90分*授業/月3回/定員8名 対象:中1~高2

最新の世界情勢を扱うテキストを用いて、英語四技能を鍛えます。一人一人が授業中に発言する時間がしっかり確保できるよう、超少人数で授業を実施しています。

*オプション追加により授業時間が最大 210 分まで延長

ULFE Pre B1

90分*授業/月3回/定員8名 対象:中学生

実質ゼロからアカデミック英語を学び始める中高生に向けた講座です。ネイティブ講師との対話を通じて、英語を基礎から学んでいくという英語四技能時代のスタンダードな学びを提供します。

ULFE Junior Advanced / ULFE Junior Standard

90分*授業/月3回/定員8名 対象:小学生

帰国子女や、小学生で英検[®] の2級以上を取得しているような高進者に対して、日常英語からアカデミックな英語へのスムーズな移行を目的とした講座です。

*オプション追加により授業時間が最大 210 分まで延長



ULFE Junior Basic

90分*授業/月3回/定員8名 対象:小学生

英検[®] 3級程度以上の英語力を持つ、小学校低学年生用の講座です。まずは日常的な題材でストレスなく英語でインプット・アウトプットができるレベルを目指します。

*オプション追加により授業時間が最大 150 分まで延長

英語4技能教室型講座

当たり前前に4技能を駆使し、考え、相手の言っている
ことを感じ、ネイティブに通じるようになる。

海外大学の入学審査や国内グローバル系大学の選抜で必要な TOEFL iBT® Test での目標スコア獲得のために、Route H がプロデュースする4技能実践型の教室型レッスンを行っています。4技能「読む・聞く・話す・書く」を技能 × 技能の掛け合わせで運用することで、学習効果を生んでいくメソッドです。講師や他受講生とコミュニケーションをとりながら英語力を養成し、「当たり前前に4技能を駆使し、考え、相手の言っていることを感じ、ネイティブに通じる」ことを実感してください。

Benesse お茶の水ゼミナール 海外大併願コース

Route Hがプロデュース

教室型英語講座

Weekly Test

授業の冒頭 15 分程度で前回の授業内容の復習テスト「Weekly Test」を実施します。毎週の学習のマイルストーンになり、学習習慣が確立されます。

15
minutes



Hello, everyone!
Did everyone have
a good week?



Hello, Scott.
I had a fun school
festival this week.



1 クラス最大 20 名の教室型少人数制レッスンが、英語力向上をベースメイクします。講師や他受講生と近況報告などを行うことでウォーミングアップ。

本番と同様の環境で、思考のスピードをテスト本番に近づけていきます。「わずか 15 秒で自分の意見をまとめて回答する」ことを目指します。

中学生は日本人講師が「型」作り

東大にとどまらない可能性の素地をつくる。
中学生専用のハイブリッドメソッド。

ネイティブ講師だけではなく日本人講師による講義パートも加えた中学生向け「Junior Master Class」を開講しています。まだ英語に慣れていない中学生だからこそ、日本人が英語を学ぶために法則化した型（文法）をしっかりと習得し、英語が「わかる」ように。ネイティブ講師の元でアウトプットを行い「使える」ように。このハイブリッドなメソッドで、急速な英語力の伸長を実現します。高校進級後は、グローバル進路もしくは国内難関大という希望進路に合わせての英語受講が可能です。

日本人講師

文法をしっかりと学び、「読む」「書く」技能を中心に養成。



ネイティブ講師

英語を実践的に使い、「聞く」「話す」技能を中心に養成。



中1～中3

Junior Master Class

<例年受講生の在籍校>
開成、桜蔭、筑波大付属駒場、
渋谷教育学園渋谷、麻布など

中3～高3

海外大併願コースの上位クラス
(レベル・目的別)

東大英語クラス、
英語トップレベルクラスなど
(国内難関大対策)

「定着」と「実践」にこだわったカリキュラム設計

アウトプットの機会を豊富にご用意

海外大併願コースでは毎週の復習テストや模試形式のテストなども用意しています。これらの「実践」を通じて授業内容の「定着」や実力の伸びを確認。さらに講師による All English 授業そのものがアウトプットの場となり、ディスカッションや英作文などの機会を通して「使える英語力」を身につけていきます。



前週の内容を定着させる「リポート式」

授業で理解したにも関わらず、次の授業までに忘れてしまうのは非常にもったいないこと。そのため海外大併願コースでは「リポート式」を導入し、授業の冒頭で前回の授業内容の復習テストである「Weekly Test」を実施します。この「Weekly Test」が毎週の学習のマイルストーンになり、学習習慣を確立。忘れる量を減らし、着実に知識を積み重ねていくことができます。

「Weekly Test」の内容とは？

「Weekly Test」は授業の冒頭 15 分程度で行う、前回の授業内容の確認テストです。授業では毎回特に強化するスキル（技能）が変わりますので、「Weekly Test」も前回の内容に応じて問われる技能が変わります。講師はこのテストを通じて、生徒の実力を把握し、適切な指導を行っています。

文系・理系を超えた幅広い教養を身につけるカリキュラム

これからの大学生に求められる英語とは、専門書を速く正確に読解できる力(Reading)、ネイティブスピードの講義も理解できる聞く力(Listening)、意見を論理的に述べる力(Speaking)、アカデミックなスタイルで文章をまとめ書く力(Writing)の4技能をベースとしたアカデミックイングリッシュです。お茶の水ゼミナール海外大併願コースでは、単に技能別に英語を学ぶのではなく、「技能」×「技能」の掛け合わせ学習で学びにシナジーを生む海外大併願メソッドを導入しています。講師やクラスメイトとコミュニケーションをとりながら進む授業では、各技能をほとんど実践する場面に溢れています。さらに、これらの4技能を伸ばすために必要な思考力(Thinking)と感情力(Feeling)を文系、理系を超えた幅広い教養とともに身につけていきます。

SAT Class

CEFR C2

目標 全米難関大・国内難関大入試に求められる
英語力・思考力を養成する 120分 × 月3回 定員20名

対象 ● 中学3年生～高校3年生
全米 TopSchool、上智大学・国際教養学部などの国内難関大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFLiBT®Test80点、英検1級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)

講座内容

全米Top Schoolで要求されるSAT®のハイスコアを目指す

全米Top Schoolへの出願では、SAT®で高得点を取らなくてはなりません。また、国内大でも上智大学国際教養学部等では、SAT®スコアも選考基準になります。この講座では、Evidence-based Reading & Writing の対策を通して、速読読解力と論理的思考力を身につけます。

全米Top School生に求められる高度な英語力、思考力を磨く

アメリカなどのTop School進学を目指す場合、高度な語彙力に加え、速読速解力、論理的思考力や、短時間で意見を書く力が必要となります。この講座では、SAT®のEvidence-based Reading and Writing、の対策を提供します。SAT®を熟知したネイティブ講師によるAll Englishの環境で、「速く読む」「短時間で書く」「Academicな語彙を使いこなす」ことを訓練し、大学入学後も役立つアカデミックな英語力と思考力を鍛えていきます。

Master Class

CEFR C1

目標 海外大・国内難関大入試に求められる
英語力・知性を養成する 180分 × 月3回 定員20名

対象 ● 中学3年生～高校3年生
海外難関大、早稲田大学・上智大学の国際教養学部などの国内難関大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFLiBT®Test80点、英検1級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)

講座内容

全米Top Schoolで要求されるTOEFL iBT®Test100点以上を目指す

世界の難関大に進学するためには、TOEFL iBT®Testで9割を超える高得点を取らなくてはなりません。さらに、東京大・京大・一橋大など国内最難関大でも推薦入試の条件として、TOEFL iBT®Test90点以上を課す大学が出てきました。Master Classでは、100点に到達するために、文章の構造を瞬時に理解し先読みする力、論理的にアウトプットする力、より洗練された単語・構文力を磨き、英語力を一段上のレベルに引き上げます。

海外大生として求められるintellectualな英語を磨く

海外大への進学を目指す場合、単なる語学力だけでは通用しません。日本人が苦手とする、論理的思考や短時間で意見をまとめる力なども必要となります。この講座では、TOEFL iBT®Test対策をベースにしながら、AllEnglishの環境で、「速く読む」「正確に聞く」「論理的に話す」「独創的に書く」ことを訓練し、大学入学後も通用する能力を鍛えていきます。

Intermediate Class

CEFR B2

目標 TOEFL® 対策を通じて、
海外大進学に必要な「読む、聞く、話す、書く」の4技能を養成する 180分 × 月3回 定員20名

対象 ● 中学3年生～高校3年生
海外大、国内難関大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFLiBT® Test60点、GTEC CBT 1150点、英検準1級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)

講座内容

海外大・国内大で有利になるTOEFL iBT®Test 80点を目指す

Intermediate Classは、TOEFL iBT®Testで80点をめざす方におすすめの講座です。80点を取得できると、海外州立大への入学が可能になる上、国内の検定試験を用いたグローバル入試に出願することが可能になります。英語力で言うと、難解な学術的な文章でも読み解き、内容把握ができる読解力と聴解力、そして自分の意見や考察を論理的構造を用いて発話したりエッセイが書ける能力があると言えます。このクラスでは、このレベルまで英語力を引き上げていきます。

応用力を身につけ、英語を一段上のレベルへ

このようなTOEFLiBT®Test80点レベルの英語力を身につけるためには、より速く正確に内容を把握し、文章構造から読み解く訓練を重ねる必要があります。さらに、短時間で考えをまとめ、論理的にアウトプットする練習も必要です。講座の中でこれらのポイントに注力し、繰り返し練習していくことで、応用力を磨いていきます。

Beginning Class

CEFR B1

目標 TOEFL® 対策を通じて、海外大進学に必要な
「読む、聞く、話す、書く」の4技能を養成する 180分 × 月3回 定員20名

対象 ● 中学3年生～高校3年生
海外大、国内大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFL iBT®Test40点、GTEC CBT1000点、英検2級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)

講座内容

周りと差がつくTOEFL iBT® Test 60点をめざす

Beginning Classは、TOEFL iBT® Testで60点をめざす方におすすめの講座です。60点を取るためには、語彙や文法の基礎がしっかりしていることはもちろんですが、ある程度の速読力や200語以上のまとまった文章のSpeakingやWritingが求められるため、英語学習者にとって60点取得は一つの壁になっています。このクラスでは、All Englishの授業を通して、英語で考え、英語で表現することが自然と身につきます。

基礎力を応用力へ引き上げる指導

TOEFL iBT® Test60点レベルの英語力を身につけるためには、文法や語法などの基礎をより堅固なものにしつつ、語彙数をさらに補強し、速読のスキルを磨き、論理的構造を用いたアウトプットの練習が欠かせません。授業では基本スキルの習得を大切にしつつ、基礎力を応用力へ引き上げるアクティビティを重ねていきます。

中1 Junior Master Class

日本人講師+ネイティブ講師

180分×月3回

目標 国内・海外のあらゆる進路を実現する、
最高峰の英語力を養成

対象 ●中学1年生
将来、全米 Top School、東大をはじめとする国内最難関大を目指す中学1年生で、これから英語を本格的に学習する方を対象とします。「東大にとどまらない可能性の素地をつくりたい」グローバル世代・中1生のための講座です。
※「中1 Junior Master Class」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

日本人講師(90分)とネイティブ講師(90分)による丁寧な指導

日本人講師が中学英語で求められる文法を解説し、国内最難関大の合格に必要な英語力はもちろん、将来、海外大学に進学した後のレポート作成やプレゼンテーションなどでも通用する正確な英語の基礎を身につけていきます。さらにネイティブ講師が演習を通じて、学んだ知識を実際に使えるように指導を行います。英語を楽しみながら「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく磨きます。

柔軟な中学生のうちに英語脳を養う

コミュニケーションを行うレベルで英語を使えるようになるためには、文法・単語を理解すること、そのアウトプットによって実践をしていくこととのバランスが重要です。この講座では、文法・単語を、問題を解くための知識としてだけでなく、Speakingなどのアウトプットを通じて使い切っていくことで、イメージを瞬間的に英語に変換する力を磨きながら、英語で理解し英語で表現する力を養います。

中2 Junior Master Class

日本人講師+ネイティブ講師

180分×月3回

目標 国内・海外のあらゆる進路を実現する、
最高峰の英語力を養成

対象 ●中学2年生
将来、全米 Top School、東大をはじめとする国内最難関大を目指す中学2年生を対象とします。「東大にとどまらない可能性の素地をつくりたい」グローバル世代・中2生のための講座です。
※「中2 Junior Master Class」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

4技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく磨く

国内最難関大の入試を見据えた英語力はもちろん、将来、海外大学に進学した後のレポート作成やプレゼンテーションにも通用する英語の習得を目指し、日本人講師(90分)とネイティブ講師(90分)による丁寧な指導を行います。英語を楽しみながら「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく磨きます。

圧倒的な語彙力をつけ、Academic Englishに対応

英語の能力を総合的に上げるためには、「語彙力の増強」が必須事項となります。年間3000語に及ぶ単語を何度も目を通すことで、強靱な語彙力を養成します。また大学で教育を受けるための読解力と、コミュニケーション能力を高めるための「Academic English」を学ぶことで、自身の意見を明確に表現し、英文を正しく理解する能力を定着させます。

中3 Junior Master Class

日本人講師+ネイティブ講師

180分×月3回

目標 国内・海外のあらゆる進路を実現する、
最高峰の英語力を養成

対象 ●中学3年生
将来、全米 Top School、東大をはじめとする国内最難関大を目指す中学3年生を対象とします。「東大にとどまらない可能性の素地をつくりたい」グローバル世代・中3生のための講座です。
※「中3 Junior Master Class」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

All-aroundな技術を身につける

このクラスの目的は将来医学部、東大にとどまらず、TOEFL受験をするにあたって、十分対応可能な英語力を養うことにあります。授業は日本人講師がReading, Writingを、ネイティブ講師がSpeaking, Listeningを教えます。単に使える英語にとどまらず、まとまった思想を理解し、発信する能力を養います。

Academicな英語を身につける

日本人講師のパートではglobalization, paleontology, agriculture, psychologyなどのテーマを扱った500~700words程度の文章を熟読し、そこで使われている語彙、表現を徹底的に習熟させて、Outputできるところまで持っていきます。ネイティブ講師のパートではAcademicな場面で討論し、自分の意見を述べることでできる力を養成します。くだけた英語ではなく、英米の教養人が使う英語表現を使いこなせるように訓練します。

中1・中2 Junior Master Class Global

日本人講師+ネイティブ講師

180分×月3回

目標 現在の英語力を「アカデミック」な
英語力へと昇華する

対象 ●中学1年生・2年生
将来、海外大、国内大を目指す中学1・2年生で、帰国子女の方や英検準2級~2級程度を取得している方など、小学校低学年から英語に触れてきた方が対象です。アカデミックな英語力を4技能バランスよく養成したい方に最適な講座です。
※「Junior Master Global」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

中1 Junior Master Class Global 授業内容

基本文法から多読まで、「使える英語力」を伸ばす

英語に慣れた生徒でも、文法が弱かったり、教養を問う内容の議論については必ずしも得意ではありません。この講座では、日本人講師が英語の文法・語法などの基礎を再定着させ、ネイティブ講師が論理的構造を用いたアウトプットを指導していくことで、「使える英語力」を習得していきます。

中2 Junior Master Class Global 授業内容

「アカデミック」な英語力を磨き、一段上のレベルへ

この講座では、大学で必要となるレベルの英語=「アカデミック英語」を磨くことに焦点を当てています。日本人講師による指導で語彙を増やしつづ、ネイティブ講師の授業で学術的な文章の速読力、内容把握力を磨き、アウトプットを積み重ねていきます。

海外・国内大学出願サービス



海外大進学

海外トップ大 出願サポート

「海外トップ大出願サポート」とは、希望の進路実現に向けて志望大選択から出願までオンラインでトータルサポートする出願指導サービスです。

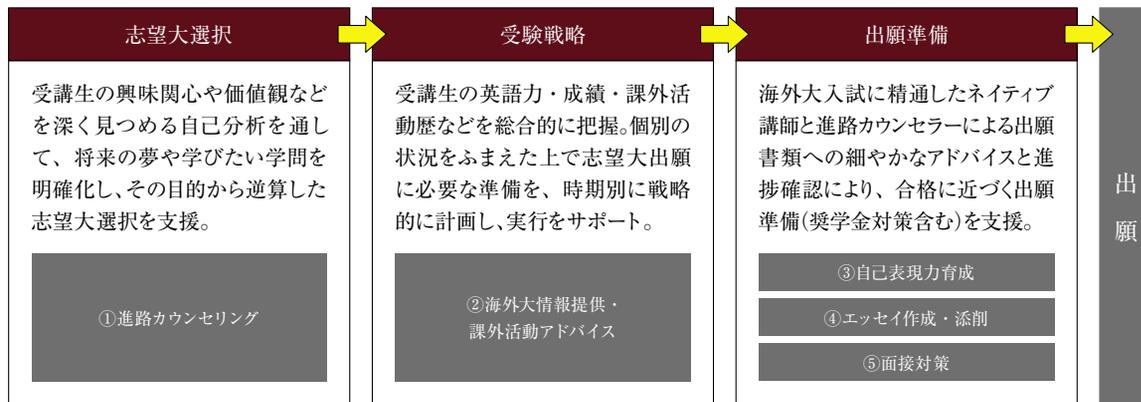
受講対象者

志望大：米国難関大
英語力：TOEFL iBT® Test 95点以上目安 ※1
その他：オンラインで受講可能な方

※定員あり（志望大、英語力、課外活動歴、成績等をふまえ受講可否を判断させていただきます）

※1 SAT® スコアが必要な大学を目指す場合は、SAT1400点以上が目安

サービス概要



各プロセスですること

①進路カウンセリング

- 受講生の興味関心や希望に基づき、具体的な志望大選択を支援
- 志望大の絞り込みや、それに合わせた個別の受験戦略の立案
- 面接準備や推薦状の作成依頼について、個別アドバイス

②海外大情報提供・課外活動アドバイス

- 海外大進学についての基礎情報を提供
- 課外活動を含め、出願に向けた戦略的なスケジュール作成を指導

③自己表現力育成

- 受講生の価値観や長所など、自己理解を深めるための自己分析カトレーニング
- 願書（Common Application や推薦状など）作成のための情報収集
- 出願書類全体で自己を最大限に表現するための戦略立案を支援

④エッセイ作成・添削

- Personal Essay や Supplement Essay などエッセイの作成ポイントを伝授
- 海外大出願エッセイに精通したネイティブ講師によるエッセイ添削

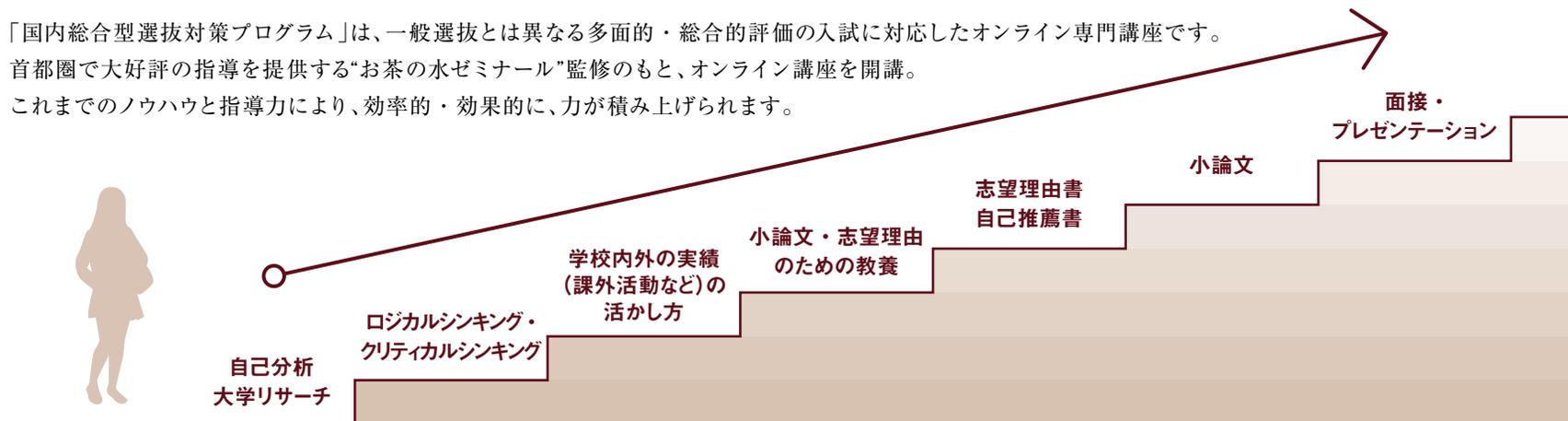
⑤面接対策

- 各大学および奨学金の面接における想定問答作成および面接練習

※その他、海外大や奨学金団体に提出する各種エッセイを個別に添削する「海外大出願エッセイ添削サービス」もご紹介します。詳細はお問い合わせくださいませ。

国内大進学 総合型選抜対策プログラム (AO・推薦入試)

「国内総合型選抜対策プログラム」は、一般選抜とは異なる多面的・総合的評価の入試に対応したオンライン専門講座です。首都圏で大好評の指導を提供する“お茶の水ゼミナール”監修のもと、オンライン講座を開講。これまでのノウハウと指導力により、効率的・効果的に、力が積み上げられます。



海外大学と国内大学を併願する場合には、総合型選抜を利用する生徒が多数を占めます。理由は、一般選抜と比較して、志望理由書の作成や英語外部検定試験の積極活用など、海外大学の入試準備が活かせる点が大きいためです。高3春から準備をすれば、秋までには総合型選抜で国内大学から合格をもらい、その後は1月上旬に出願期限を迎える海外大学の出願準備に集中することが可能になります。

高3/4月～
基礎対策講座

高3/7月～
直前対策講座

二次試験対策講座

対象者

難関大学*の総合型選抜(AO入試)もしくは推薦入試(公募推薦・自己推薦等)で合格を目指す高校3年生
※慶應義塾、早稲田、上智、ICU、AIU、明治、立教、青山学院、法政など

内容

総合型選抜に必要な自己アピール力、多くの大学の総合型選抜でも大きなウエイトを占める小論文に必要な読解力・論理的構成力・表現力をつけ、志望校別対策前の基礎を固める。また、様々な題材・過去問を使った実践練習を繰り返します。

※その他、志望理由書および各大学への事前提出課題を個別に添削する「国内大出願書類添削サービス」もございます。詳細はお問い合わせくださいませ。

身につく 5つの力

論理的思考力	情報を整理し順序立てて考える力/筋道立てて物事を説明する力
読解力	文章を読み、その論点や主旨、筆者の主張を正確に読み取る力
要約力	文章を正確に読解した上で、その論旨を自分の言葉や理解を踏まえながら簡潔に表現する力
論述力	問題文や課題文の主旨を踏まえた上で、論理的で説得力のある自分の考えを表現する力
自己分析・自己アピール力	これまでの活動や、大学で学びたいこと、将来の夢などを具体的に述べながら、自分がいかに大学の理想とする学生像に近く、魅力的な人物かをアピールする力

海外・国内大学 エッセイ添削サービス



海外大・国内大進学 エッセイ添削サービス

エッセイ添削サービスは、世界各国および国内大出願で必要となるエッセイ・志望理由書を1通からでも添削する個別添削サービスです。海外トップ大、国内難関大のエッセイ・志望理由書の添削経験豊富なプロのスタッフが添削をいたします。

海外大 エッセイ添削サービス

海外大が要求する各エッセイにつき、ネイティブ講師が Contents Check (エッセイの内容に対するフィードバック) と Grammar Check (文法、語彙選択、表現に対する添削) を行います。



共通願書 (Common Application) で提出必須の Personal Essay、各大学が求める Supplement Essay、そして University of California (UC) が求める Personal Insight Questions が対象です。



共通願書 (UCAS) で提出必須の Personal Statement が対象です。



University of British Columbia など各大学へ提出するエッセイが対象です。

海外大進学 奨学金出願エッセイ添削サービス

各種財団が提供する奨学金制度へ出願する際に必須のエッセイにつき、奨学金合格者を輩出し続けてきた日本人カウンセラーが添削をいたします。

添削対象：

- 柳井正財団海外奨学金
- 江副記念リクルート財団学術部門奨学金
- グルー・バンクロフト基金奨学金
- JASSO 海外支援制度 (学部学位取得型)
- 孫正義育英財団奨学金
- 船井情報科学振興財団奨学金

国内難関大 志望理由書・自己推薦書添削サービス

国内大を総合型選抜 (AO・推薦入試) で受験される方向けに、各大学に提出する志望理由書・自己推薦書の添削を行います。以下、添削対象の一例です。

- 早稲田大学 国際教養学部 AO 入学試験
- 慶應義塾大学 法学部 FIT 入試
- 慶應義塾大学 SFC AO 入試
- 上智大学 推薦入学試験 (公募制) など。

その他の大学につきましては、お問い合わせください。



出願個別コンサルティングサービス

日本人スタッフと、1回1時間程度の個別コンサルティングセッションをオンライン (ZOOM) にて実施いたします。出願大学選定、エッセイのトピック出し、願書の作成方法、海外大・国内大の併願スケジュールなど、海外大学および国内大学 (総合型選抜) を受験するのにあたっての戦略や必要書類の相談が可能です。

質の高いサービスと日本唯一のハーバード・イエール大学 12 年連続合格実績により、全国の自治体、教育委員会、学校から信頼をいただいています。

都道府県など行政、自治体、教育委員会、学校への講座提供実績（2021年抜粋）※五十音順

<p>茨城県 様 次世代グローバルリーダー育成</p> <p>目的</p> <p>英語に関する高い意欲や能力を有する中高生を対象に、国際社会で活躍できる人財を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none">●オンライン英語講座（TOEFL®、SAT® 対策、英会話など）●リーダーシップ講座●思考力講座●ディスカッション、ディベート、模擬国連●海外トップ大生との交流会	<p>熊本県 様 海外大学進学支援</p> <p>目的</p> <p>海外進学を志望する中高生を学校の垣根を越えて集い、英語力やエッセイ作成などの海外進学に必要な能力向上を図る場や海外進学に関する情報提供等の支援を行い、海外進学を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none">●学校、オンラインでの英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）●思考力講座●エッセイ対策講座●教員研修●海外トップ大生との交流会
<p>東京都 様 海外大学進学支援</p> <p>目的</p> <p>海外進学を目指す国際バカロレア生、保護者、教員に進学指導に特化した情報及び支援を提供し、進路希望を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none">●学校での英語講座（TOEFL®、IELTS™、SAT® 対策など）●世界のトップ大学情報提供●エッセイ対策講座●教員研修●保護者会●海外トップ大生との交流会	<p>横浜市 様 海外大学進学支援</p> <p>目的</p> <p>高校生を対象に海外進学に必要な英語力の向上、エッセイやディスカッションの手法の習得を図るほか、異なる文化や価値観を尊重し、日本や横浜の文化や歴史等について海外に発信する力を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none">●学校、オンラインでの英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）●思考力講座●エッセイ対策講座●教員研修●海外トップ大生との交流会

お申込みの流れ／無料体験授業受講

オンライン英語講座

Global Learning Centerの 体験はこちら

STEP
1

無料体験授業にお申し込みください。
公式サイトもしくはお電話から「無料体験授業」を
お申し込みください。

Global Learning Center

0120-385-149

受付時間 10:00~20:00年末年始除く
www.benesse-glc.com

STEP
2

受講に必要な資料が届きます。
無料体験授業の詳細をメールまたは
電話にてご案内いたします。

STEP
3

接続の確認とオンライン操作の
ガイダンスを実施無料体験授業を受講

※STEP2は同日に行います。
※コースによって別日になる場合がございます。

STEP
4

入会申し込み／受講スタート

Global Learning Center受講の注意点

快適にご受講いただくため、ご受講される受講生には、
以下の環境を整えていただくことをお願いしています。

■光インターネット推奨

※ケーブルTV回線、ADSL、ポケットWi-fiの方は、
一部受講ができない場合がございます。

■パソコンOSが受講に最適なバージョン

(Windows : Windows7以上、Mac:OS X (10.4以上)

■Google Chrome、Mozilla Firefox、Internet Explorerの
いずれかのウェブブラウザを利用

教室型英語講座（首都圏）

お茶の水ゼミナール 海外大併願コースの体験はこちら

STEP
1

無料体験授業にお申し込みください。
公式サイトもしくはお電話から「無料体験授業」を
お申し込みください。

お茶の水ゼミナール

0120-404-424

受付時間 月～土 13:00～20:00
日 13:00～19:00

www.ochazemi.co.jp/kaigai

STEP
2

無料体験授業を受講

STEP
3

入会申し込み／受講スタート

英語講座を無料体験してみよう！

一人ひとりの学習者の皆様に納得したクラスを受講し
ていただけるよう無料体験授業をご用意しております。
無料体験授業では、TOEFL[®]やSAT[®]対策講座の授業
の雰囲気や体験、現状の英語レベルの確認を行います。
進学アドバイザーが受講プランを案内します。

無料体験授業の
お申し込みは今すぐ！

教室型英語講座（関西）

アップ教育企画英語館の体験はこちら

STEP
1

無料体験授業にお申し込みください。
公式サイトもしくはお電話から「無料体験授業」を
お申し込みください。

アップ教育企画英語館

0798-65-3340

受付時間 月～土（水曜日休館）13:00～19:30
日 13:00～18:00

https://up-eigokan.com/

STEP
2

無料体験授業を受講

STEP
3

入会申し込み／受講スタート

英語講座を無料体験してみよう！

一人ひとりの学習者の皆様に納得したクラスを受講して
いただけるよう無料体験授業をご用意しております。無料体験授業
では、ULFE [アルフィ] Junior / ULFE [アルフィ]、TOEFL[®]対
策講座の授業の雰囲気や体験、現状の英語レベルの確認を
行います。進学アドバイザーが受講プランを案内します。

無料体験授業の
お申し込みは今すぐ！

受講費のご案内

※ご案内の受講費には消費税を含みます。

Global Learning Center 英語講座受講費 月謝

●入会金	33,000円
●SAT / TOEFL iBT® Test 対策 Class	30,800円
●Academic Basics Level Ⅲ、Ⅱ、Ⅰ	19,800円

※解約を希望される場合は、指定期日(毎月20日)までにお手続きいただければ翌期からの退会・休会が可能です。

Global Learning Center マンツーマン英語講座

●ネイティブ講師マンツーマン指導 12回	お問い合わせください。
----------------------	-------------

Global Learning Center 国内大学出願サービス受講費

●国内大学 総合型選抜対策プログラム 基礎対策講座 (4月~7月)	月謝 36,300円
●国内大学 総合型選抜対策プログラム 直前対策講座 (7月~10月)	お問い合わせください。

※直前対策講座は志望大学別にご用意しております。

Global Learning Center 海外大学出願サービス受講費

●海外トップ大出願サポート	月謝 38,500円
●各種エッセイ添削サービスおよび 個別コンサルティングサービス	お問い合わせください。

お茶の水ゼミナール 受講費 月謝

●入会金	33,000円 (高校生) 22,000円 (中学生)
●SAT / TOEFL iBT® Test 対策 Class	33,000円
●Junior Master Class	22,000円 (中1生)・24,000円 (中2・3生)

※別途、教材費、学習支援システム費(月額1,200円)がかかります。

※入学金は、兄弟姉妹が同時に在籍している場合は全額免除、過去に在籍していた場合は半額免除いたします。

※受講費は、毎月特定日に講座自動引き落としによりご納入いただけます。

※口座引き落としを希望されない方は入会申込書をご確認ください。詳しくは入会願書ご提出後にお送りする入会申込書をご確認ください。

※解約を希望される場合は、指定期日までにお手続きいただければ翌期からの解約・退会が可能です。

アップ教育企画英語館 受講料 月謝

●入会金	33,000円 (高校生) 22,000円 (中学生)
●ULFE [アルフィ] Junior/ ULFE [アルフィ]	22,000円~ ※オプション講座の取得有無により変動
●SAT/TOEFL iBT® Test対策 Class/IELTS® Test対策Class	33,000円~ ※オプション講座の取得有無により変動

※別途指導関連費(月額2,650円)がかかります。

※休学、退学などの各種手続きを行う場合は、該当月の前月20日までに所定の書類を校舎までご提出ください。

※学費等は原則として銀行口座振替により納入していただきます。入学時にお渡しする口座振替依頼書(金融機関によって書式が異なります)を専用封筒に入れてご郵送ください。口座振替登録完了までには約2ヵ月を要します。登録完了までの間は毎月月末に郵送いたします「学費等お振込のご案内」に基づきお振込ください。

問い合わせ

Route H

0120-584-880

受付時間 13:00~20:00年末年始除く
http://rt-h.jp/ E-mail: routeh@rt-h.jp

Route H

検索

Global Learning Center

0120-385-149

受付時間 10:00~20:00年末年始除く
www.benesse-glc.com

ベネッセ GLC

検索

お茶の水ゼミナール

0120-404-424

受付時間 月~土 13:00~20:00 日13:00~19:00
www.ochazemi.co.jp/kaigai

お茶ゼミ海外大併願

検索

アップ教育企画英語館

0798-65-3340

受付時間 月~土 (水曜日休館) 13:00~19:30 日13:00~18:00
https://up-eigokan.com/

アップ英語館

検索

「Route H」グループ※合格実績（2010—2021）抜粋 ※最新情報はRoute Hのサイトでご確認下さい。

Harvard 28名 (12年連続)

Yale 34名 (12年連続)

Princeton 24名 (9年連続)

Stanford 9名

MIT 7名

Oxford 4名

※「Route H」グループとは、オンライン型TOEFL®/SAT®対策塾「Global Learning Center」、教室型TOEFL®/SAT®対策塾「お茶の水ゼミナール海外大併願コース」/「アップ英語館海外大併願コース」および海外トップ大進学塾「Route H」の総称です。

アメリカ (総合大)

Columbia, Brown, UPENN, Cornell, Dartmouth, U Chicago, Northwestern, Duke, UCLA, UC Berkeley, UCSD, Georgetown, U Michigan, Georgia Tech, NYU, Tufts, Caltech ほか

アメリカ (リベラルアーツ・カレッジ)

Williams, Amherst, Swarthmore, Wellesley, Pomona, Bowdoin, Carleton, Middlebury, Haverford, Grinnell, Wesleyan, Mount Holyoke, Minerva ほか

イギリス

ICL, UCL, KCL, U Edinburgh, U Manchester ほか

オーストラリア

U Melbourne, U Queensland, U Sydney, The Australian National University ほか

カナダ

U Toronto, U British Columbia, McGill University, York University ほか

シンガポール

Yale NUS, NUS, Nanyang Technological University

その他

NYU Abu Dhabi, Peking University (北京大), U Hong Kong, Seoul National University, Hong Kong Science and Technology ほか

大学院合格 (高校生の飛び級合格 特別対応)

Caltech (カリフォルニア工科大)

日本

東京大、京都大、大阪大、東北大、九州大、早稲田大、慶應大、上智大、国際教養大 ほか

奨学金

柳井正財団海外奨学金、江副記念財団奨学金 (学部部門)、孫正義育英財団奨学金、グローバルバンク rooftop 基金奨学金、JASSO 海外留学支援制度 (学部学位取得型)、船井情報科学振興財団奨学金

TOEFL® and TOEFL®iBT are registered trademarks of Education Testing Service(ETS). This brochure is not endorsed or approved by ETS. SAT® is a trademarks of the College Entrance Examination Board, which does not endorse this publication.